ONKYO®

AV センター

TX-SA603

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

主な特長

■各種サラウンド方式に対応した7.1チャンネルアンプ
■ドルビー[*1]デジタル、ドルビープロロジックII、ドルビープロロジックIIx、ドルビーデジタルEXサラウンド再生可能
■DTS[*2]、DTS-ES Discrete、DTS-ES Matrix、DTS Neo : 6、DTS 96/24サラウンド再生可能
■MPEG-2 AAC再生可能
■ノイズを最小限におさえ、本来の音を楽しむことのできる「Pure Audio」リスニングモード搭載
■高音域が強調された劇場用サウンドをご家庭で適切なバランスに補正する「Cinema FILTER[*3]」機能
■小音量でもサラウンドを楽しめるLATE NIGHT機能（ドルビーデジタル時のみ）
■192kHz/24ビットD/Aコンバーター搭載
■飛躍的な音質向上、デジタル信号からピュアなアナログ信号を生成するVLSC（Vector Linear Shaping Circuitry）搭載
■再生周波数の広帯域化を図るWRAT（ワイド・レンジ・アンプリファイアー・テクノロジー）
■ダウンミックスによるフロントL/Rチャンネルのダイナミックレンジの減少や、S/N劣化を防ぐ技術「ノン・スケーリング・コンフィグレーション」採用の回路
■信号とノイズ領域との近接を回避して聴感上のS/Nを向上させるオプティマム・ゲイン・ボリューム回路
■ビデオ（コンポジット）やSビデオ信号をD4/コンポーネント端子に出力するビデオコンバーター搭載[*4]
■D4/コンポーネント映像入力端子3系統、出力端子1系統装備
■S映像入力端子5系統/出力端子3系統装備
■5.1マルチチャンネル入力端子装備、DVD-Audioプレーヤーやスーパーオーディオ CDプレーヤーへの拡張性を実現
■デジタル入力端子として光4系統/同軸2系統、デジタル出力端子として光1系統装備
■付属のマイクで簡単スピーカー設定
■モニターを見ながら、簡単設定ができるOSD（オンスクリーンディスプレイ）機能
■他機の操作を可能にするラーニング＆プリプログラム、マクロ機能搭載のリモコン付属

[*1] ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
“Dolby”、“ドルビー”、“Pro Logic” およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

[*2] 本機は、デジタル・シアター・システムズ社からのライセンスに基づき製造されています。
“DTS”、“DTS 96/24”、“DTS-ES”および“Neo : 6”は、デジタル・シアター・システムズ社の商標です。

[*3] Cinema FILTERは、オンキヨーの商標です。

[*4] 本機は、合衆国特許権と知的所有権上保障されたマクロビジョンコーポレーションの許可が必要な著作権保護技術を搭載しており、改造または分解は禁止されています。
U.S.パテントNos. 4, 631, 603; 4, 577, 216; 4, 819, 098; 4, 907, 093; 5, 315, 448; 6, 516, 132

AAC パテントマーキング
Pat.5,848,391 5,291,557 5,451,954 5 400 433 5,222,189 5,357,594 5 752 225
5,394,473 5,583,962 5,274,740 5,633,981 5 297 236 4,914,701 5,235,671
07/640,550 5,579,430 08/678,666 98/03037 97/02875 97/02874 98/03036
5,227,788 5,285,498 5,481,614 5,592,584 5,781,888 08/039,478 08/211,547
5,703,999 08/557,046 08/894,844 5,299,238 5,299,239 5,299,240 5,197,087
5,490,170 5,264,846 5,268,685 5,375,189 5,581,654 5,548,574 5,717,821

目次

はじめに

接続をする

初期設定をする

こんなこともできます

設定をする（リスニングモード編）

こんなこともできます

設定をする（応用編）

映画・音楽を鑑賞する（基本編）

こんなこともできます

映画・音楽を鑑賞する（応用編）

接続した製品を本機のリモコンで操作する

その他

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

絵表示について
この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意(警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。

⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容(左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください)が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

●本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
●本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない

●本機を使用できるのは日本国内のみです。
●表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧や船舶などの直流(DC)電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

●本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次の点に気をつけてご使用ください。

- 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
- 本機を、専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、ふとんの上に置いて使用しないでください。
- 本機を設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面、横から20cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。

■ 水のかかるところに置かない

●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

●本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない

●本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 中に物を入れない

●本機の通風孔などから金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがありますのでご注意ください。

●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

■ 電源コンセントにはオーディオ機器以外接続しない

●本機の電源コンセントはオーディオ機器専用です。表示された定格以内でご使用ください。表示された定格以上の機器やヘヤードライヤー、電気こたつなどの電熱器具、オーブン・レンジなどの調理器具は絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない

電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない

●雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

■ 乾電池を充電しない

●乾電池は充電しないでください。電池の破裂や液もれにより、火災、けがの原因となります。

オーデイオ機器の正しい使いかた

⚠注意

■ 設置上の注意

●強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
●本機の上に他のオーディオ機器を乗せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
●本機の上に10kg以上の重い物や外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない

●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について

●本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器と接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意

●長時間音が歪んだ状態で使わないでください。アンプ、スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
●ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
●本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
●キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意

●電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
●ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
●電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜いてください

●旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
●移動させる場合は、必ず本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

■ 電池について

●電池をリモコンに挿入する場合、極性表示（プラス＋とマイナス－の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

●指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより火災、けがや周囲の汚損の原因となることがあります。
●電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

■ スピーカーコードについて

●スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 点検・工事について

電源プラグをコンセントから抜いてください

●お手入れの際は、安全のため本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

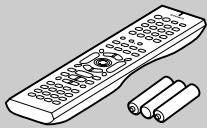
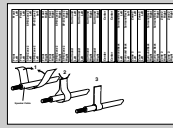
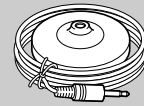
●使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。

●電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

●シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

●表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

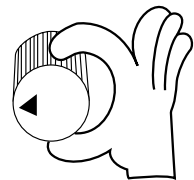
■付属品を確認する

ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。
（ ）内の数字は数量を表しています。

リモコン（RC-592M）…(1)
乾電池（単三形、R6）…(3)

スピーカーコード用ラベル…(1)

簡単スピーカー設定用マイク…(1)

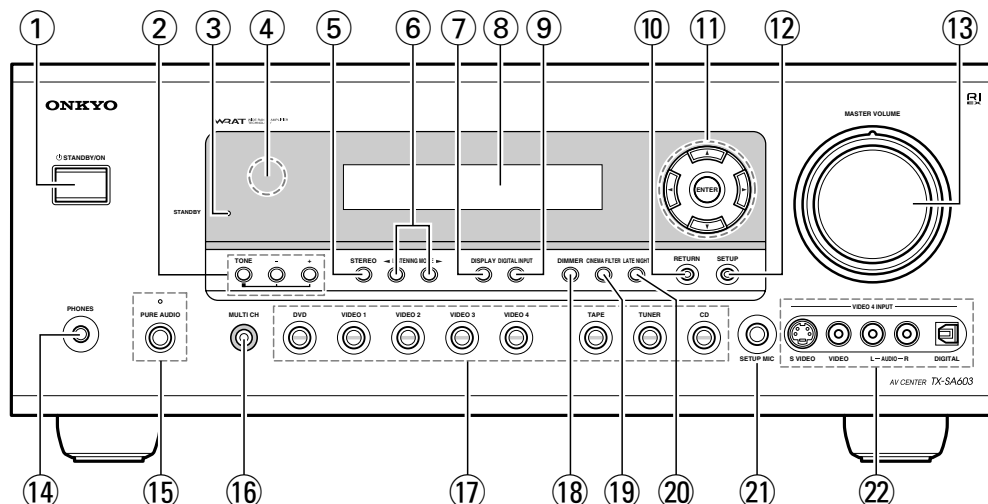
取扱説明書（本書）…(1)
保証書…（1）
オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内…（1）

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。
色は異なっても操作方法は同じです。

音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、
ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

本体、リモコンボタンの名前と働き

前面パネル

〔　　〕内のページに主な説明があります。

① **STANDBY/ONボタン〔35〕**
電源のスタンバイ/オンを切り換えます。

② **TONE ＋/－ボタン〔59〕**
高音、低音を調整するときに使用します。

③ **STANDBYインジケーター〔35〕**
スタンバイ状態のときやリモコンからの信号を受信すると点灯します。

④ **リモコン受光部〔16〕**
リモコンからの信号を受信します。

⑤ **STEREO ボタン〔50〕**
リスニングモードをステレオにします。

⑥ **LISTENING MODE◀/▶ボタン〔50〕**
リスニングモードを選びます。

⑦ **DISPLAYボタン〔57〕**
表示部の情報を切り換えます。

⑧ **表示部**
次ページをご覧ください。

⑨ **DIGITAL INPUTボタン〔39、64〕**
デジタル入力を割り当てるとき、デジタル入力信号の種類を選ぶときに使用します。

⑩ **RETURN ボタン**
設定中に1つ前の表示に戻します。

⑪ **カーソル▲/▼/◀/▶/ENTERボタン**
設定項目を選択します。中央のENTERボタンを押すと、選択している項目を確定します。

⑫ **SETUPボタン〔40〕**
本機の設定を行います。

⑬ **MASTER VOLUMEつまみ〔48〕**
音量を調整します。
音量は基本的にMin・1・2･･･98・99・Maxの範囲で調整できます。

⑭ **PHONES端子〔49〕**
標準プラグのステレオヘッドホンを接続する端子です。

⑮ **PURE AUDIOボタンとインジケーター〔50〕**
リスニングモードを「Pure Audio」にします。
リスニングモードが「Pure Audio」のとき、インジケーターが点灯します。

⑯ **MULTI CHボタン〔55〕**
DVDの音声をマルチチャンネル入力に切り換えます。

⑰ **入力切換ボタン（DVD、VIDEO1～4、TAPE、TUNER、CD）〔48〕**
再生する機器を選びます。

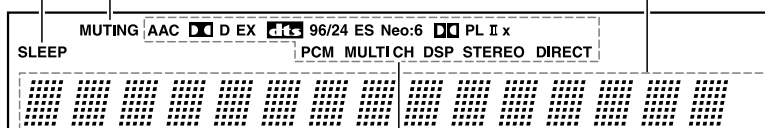
⑱ **DIMMERボタン〔49〕**
表示部の明るさを切り換えます。

⑲ **CINEMA FILTERボタン〔54〕**
シネマフィルター機能をオン/オフします。

⑳ **LATE NIGHTボタン〔54〕**
レイトナイト機能をオン/オフします。

㉑ **SETUP MIC端子〔36〕**
付属の簡単スピーカー設定用マイクを接続して、スピーカーの数や位置を検知します。

㉒ **VIDEO 4 INPUT端子**
ビデオカメラやゲーム機などを接続します。

表示部

〔　　〕内のページに主な説明があります。

入力信号表示

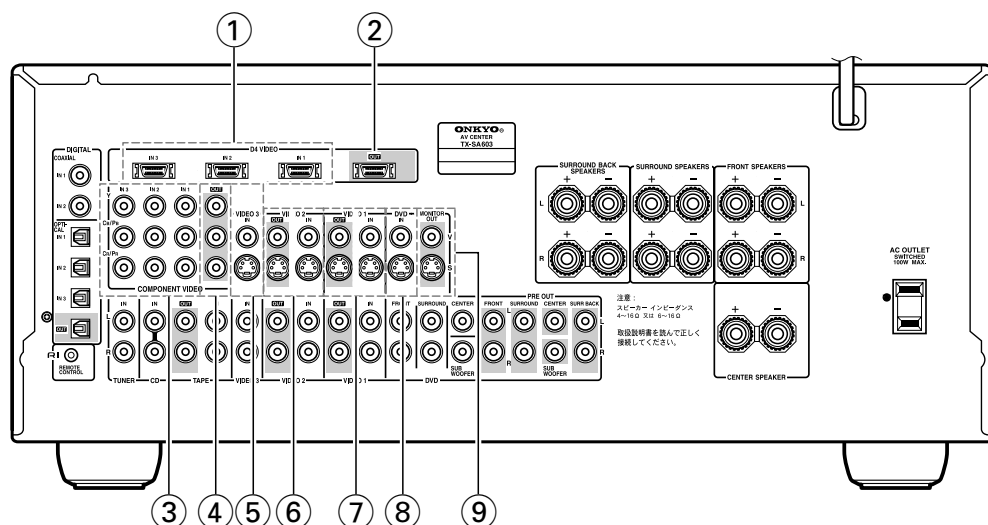
表示	入力信号
DD D	Dolby Digital
dts	DTS
PCM	PCM
AAC	AAC
MULTI CH	アナログマルチチャンネル

リスニングモード表示例

表示	リスニングモード
DIRECT	Direct
STEREO	Stereo
DD PL II	PL II Movie/Music/Game
DD PL II x	PL II x Movie/Music/Game
dts Neo:6	Neo:6 Cinema/Music
DD D	Dolby Digital
DD D EX	Dolby Digital EX
dts	DTS
dts 96/24	DTS 96/24
dts ES	DTS-ES
dts Neo:6	DTS + Neo:6
DD EX dts	DTS + Dolby EX
AAC	AAC
AAC DD EX	AAC + Dolby EX
DSP	オンキヨー独自のリスニングモード

本体、リモコンボタンの名前と働き

後面パネル

■映像端子

① D4 VIDEO IN 1/2/3端子
接続した機器からD映像を入力する端子。
S映像より良い画質が得られます。

② D4 VIDEO OUT端子
本機からD映像を出力する端子。
S映像より良い画質が得られます。

③ COMPONENT VIDEO IN 1/2/3端子
接続した機器からコンポーネント映像を入力する端子。
S映像より良い画質が得られます。

④ COMPONENT VIDEO OUT端子
本機からコンポーネント映像を出力する端子。
S映像より良い画質が得られます。

⑤ VIDEO 3 IN端子
接続した機器からビデオ映像（VIDEO端子）、S映像（S VIDEO端子）を入力する端子。

⑥ VIDEO 2 IN/OUT端子
ビデオ映像（VIDEO端子）、S映像（S VIDEO端子）を入出力する端子。

⑦ VIDEO 1 IN/OUT端子
ビデオ映像（VIDEO端子）、S映像（S VIDEO端子）を入出力する端子。

⑧ DVD IN端子
接続したDVDプレーヤーからビデオ映像（VIDEO端子）、S映像（S VIDEO端子）を入力する端子。

⑨ MONITOR OUT端子
接続しているモニターやテレビにビデオ映像（VIDEO端子）、S映像（S VIDEO端子）を出力する端子。

接続については、18～34ページをご覧ください。

■音声端子

① DIGITAL IN1/2/3（OPTICAL）端子
デジタル音声の入力端子。
デジタル再生機器を接続します。

② DIGITAL IN1/2（COAXIAL）端子
デジタル音声の入力端子。
デジタル再生機器を接続します。

③ スピーカー端子
スピーカーを接続します。

④ AC OUTLET（電源コンセント）
本機に接続するオーディオ機器の電源プラグを接続します。

⑤ DIGITAL OUT（OPTICAL）端子
デジタル音声の出力端子。
デジタル録音機器を接続します。

⑥ RI REMOTE CONTROL端子
RI端子付きオンキヨー製品と接続し、連動させる端子です。
RIケーブルの接続だけでは連動しません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

⑦ TUNER IN端子
チューナーを接続します。

⑧ CD IN端子
CDプレーヤーを接続します。

⑨ TAPE IN/OUT端子
テープデッキやMDレコーダーなどの録音機器を接続します。

⑩ VIDEO 3 IN端子
BSチューナーなどの音声出力端子と接続します。

⑪ VIDEO 2 IN/OUT端子
ビデオデッキなどの音声入出力端子と接続します。

⑫ VIDEO 1 IN/OUT端子
ビデオデッキなどの音声入出力端子と接続します。

⑬ DVD IN端子
DVDプレーヤーを接続します。

⑭ PRE OUT端子
本機をプリアンプとして使用する場合、パワーアンプやアンプ内蔵サブウーファーなどと接続します。

接続については、18～34ページをご覧ください。

本体、リモコンボタンの名前と働き

リモコン（RC-592M）

AMPモード（本機を操作するとき）

〔　〕内のページに主な説明があります。
本機を操作する前に、AMPボタンを押してください。

本機に付属のリモコンでRI接続をしたオンキヨー製品を操作することができます。RIケーブルとオーディオ用ピンコードを正しく接続してください。RI接続した機器を操作するときは、本機のリモコン受光部に向けて操作してください。

DVDモード（本機にRI接続したDVDプレーヤーを操作するとき）

DVDプレーヤーを操作する前に、REMOTE MODE DVDボタンを押して、リモコンをDVDモードにしてください。接続するDVDプレーヤーや再生するDVDによっては、対応していない機能もあります。

DVD MODEボタン
DVDプレーヤーを操作する前に、押してください。

TOP MENUボタン
DVDのトップメニュー画面を表示します。

DISC＋/－ボタン
DVDチェンジャーのディスクを選択します。

RETURN/EXITボタン
DVDのメニュー操作時に押すと、1つ前の画面に戻ります。メインメニュー画面で押すと、メニュー操作を終了します。

DISPLAYボタン
DVDプレーヤーの表示部に表示される情報を切り換えます。

◀◀/▶▶ボタン
トラックを頭出しします。
▶ボタン
ディスクを再生します。
◀◀/▶▶ボタン
早戻し、早送りをします。
II ボタン
再生を一時停止します。
■ボタン
再生を停止します。
◀II/II▶ ボタン
スロー再生、コマ送り再生をします。

AUDIOボタン
音声を切り換えます。

SUBTITLEボタン
字幕言語を切り換えます。

REPEATボタン
くり返し再生をします。

A-Bボタン
A-Bくり返し再生をします。

⏏ OPEN/CLOSEボタン
ディスクトレイを開閉します。

ONボタン
DVDプレーヤーの電源を入れます。

STANDBYボタン
DVDプレーヤーをスタンバイ状態にします。

数字ボタン（1～9,+10,0）
チャプター番号などを選択します。

CLEARボタン
入力した項目を取り消します。

MENUボタン
DVDのメニュー画面を表示します。

▲/▼/◀/▶/ENTERボタン
DVDのメニュー操作時、上下左右に押して項目を選択します。中央のENTERボタンを押すと、選択した項目を確定します。

本機の操作
VOL▲/▼ボタン
音量を調整します。
MUTINGボタン
音を一時的に小さくします。

SETUPボタン
DVDの設定項目を表示します。

RANDOMボタン
ランダム再生をします。

LAST Mボタン
再生する場所を記憶させます。

ANGLEボタン
カメラアングルを切り換えます。

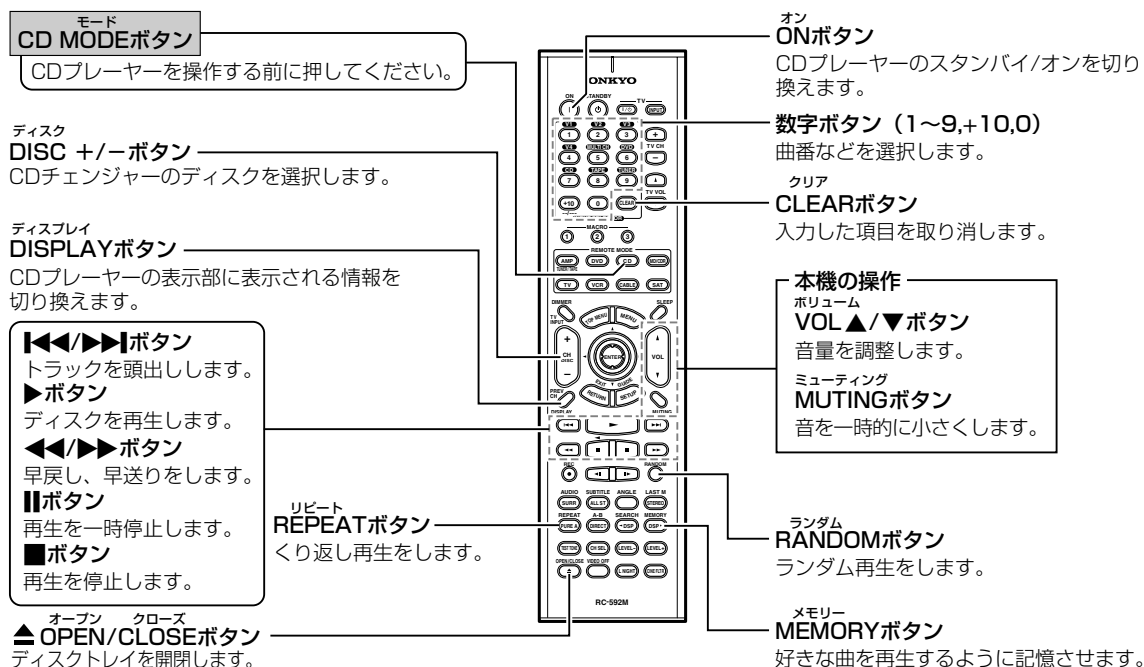
MEMORYボタン
好きな曲/場面順に再生するように記憶させます。

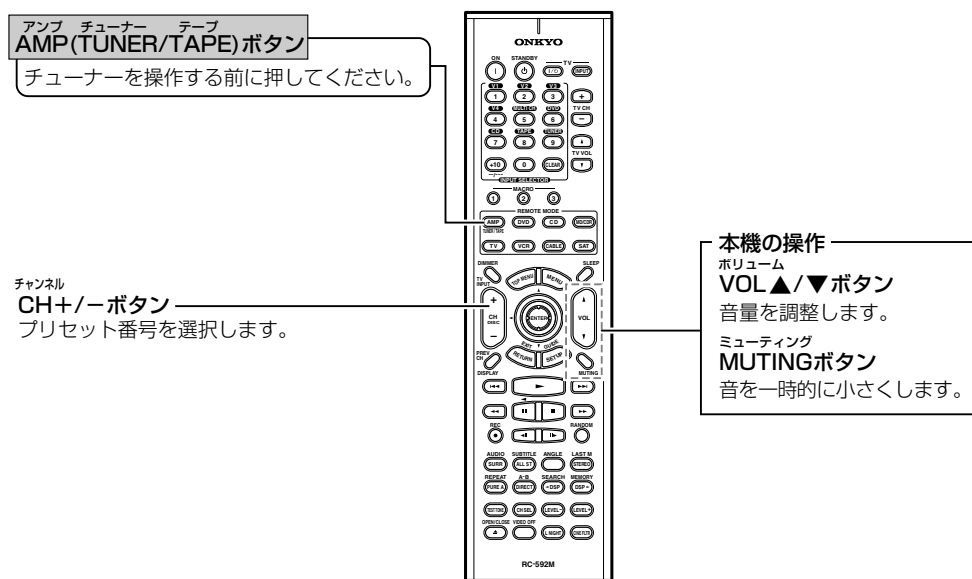
SEARCHボタン
再生したい場所を指定します。

VIDEO OFFボタン
より良い音で再生するために、映像出力を切ります。

本体、リモコンボタンの名前と働き

CDモード（本機にRI接続したCDプレーヤーを操作するとき）

CDプレーヤーを操作する前に、REMOTE MODE CDボタンを押して、リモコンをCDモードにしてください。

TUNERモード（本機にRI接続したチューナーを操作するとき）

チューナーを操作する前に、REMOTE MODE AMP（TUNER/TAPE）ボタンを押して、リモコンをTUNERモードにしてください。

TAPEモード（本機にRI接続したカセットデッキを操作するとき）

カセットデッキを操作する前に、REMOTE MODE AMP（TUNER/TAPE）ボタンを押して、リモコンをTAPEモードにしてください。

ご注意

- 製品や録音状態によっては、I◀◀/▶▶Iボタンを押したときに正しく動作しないことがあります。
- ダブルカセットデッキをご使用の場合は、デッキBのみを操作することができます。

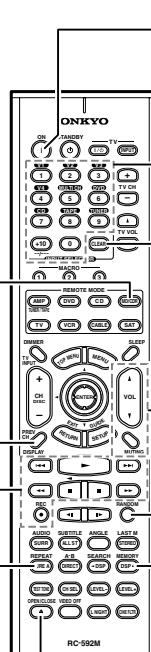
MD/CDRモード（本機にRI接続したMDレコーダーやCDレコーダーを操作するとき）

お買い上げ時はMD操作用になっています。CDレコーダーを操作するには、66ページの方法で設定してください。
RI連動させるには、47ページの設定で表示部の表示を接続した機器に変更する必要があります。

MD/CDR MODEボタン
MDレコーダーまたはCDレコーダーを操作する前に押してください。

DISPLAYボタン
再生機器の表示部に表示される情報を切り換えます。

I◀◀/▶▶Iボタン
トラックを頭出しします。
▶ボタン
ディスクを再生します。
◀◀/▶▶ボタン
早戻し、早送りをします。
IIボタン
再生を一時停止します。
■ボタン
再生を停止します。
●RECボタン
録音一時停止状態にします。

REPEATボタン
くり返し再生をします。

ONボタン
MDレコーダーまたはCDレコーダーのスタンバイ/オンを切り換えます。

数字ボタン（1〜9,+10,0）
曲番などを選択します。

CLEARボタン
入力した項目を取り消します。

本機の操作
VOL▲/▼ボタン
音量を調整します。
MUTINGボタン
音を一時的に小さくします。

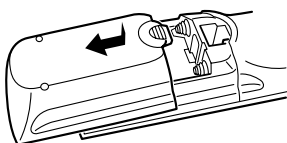
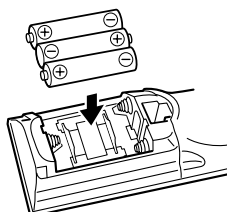
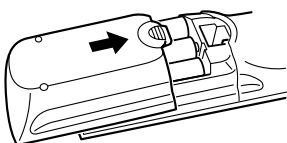
RANDOMボタン
ランダム再生をします。

MEMORYボタン
好きな曲を再生するように記憶させます。

⏏ OPEN/CLOSEボタン
ディスクを取り出します。

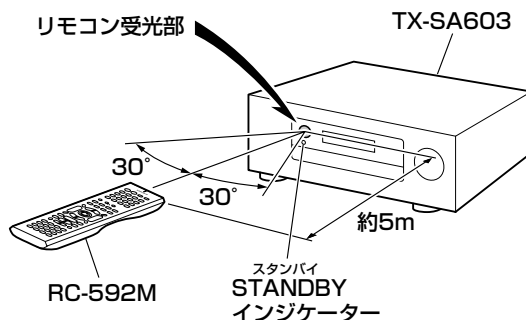
本体、リモコンボタンの名前と働き

乾電池を入れる

1. カバーを矢印の方向にずらして開ける

2. 中の極性表示にしたがって、付属の乾電池3個を＋（プラス）と−（マイナス）を間違えないように入れる

3. カバーを戻す

ご注意

- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- 消耗した電池を入れたままにしておきますと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、古い電池を取り出して3本とも新しい電池と交換してください。
- 電池の交換時には、単3形をご使用ください。

リモコンの使いかた

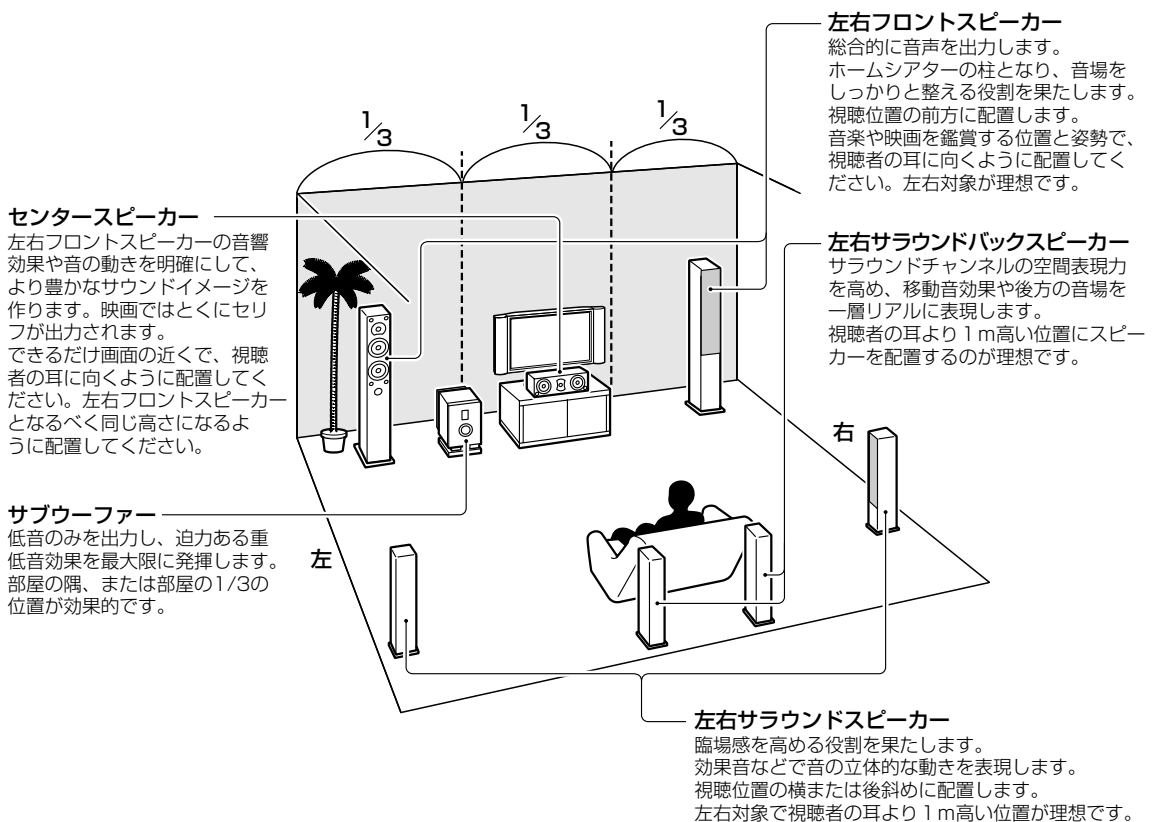
リモコンを本機のリモコン受光部に向けて使用してください。リモコンからの信号を受信すると、本機のSTANDBY（スタンバイ）インジケーターが点灯します。

ご注意

- リモコン受光部に日光やインバーター蛍光灯などの強い光を直接当てると正しく動作しないことがあります。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていたり、装飾フィルムを貼っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。

ホームシアターとは

ホームシアターを楽しもう

本機は優れた機能を使って音の立体感、移動感を実現し、ご家庭で簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれる音響効果をお楽しみいただけます。
再生する信号によって、DTSやドルビーデジタル再生、オンキヨー独自のリスニングモードをお楽しみいただけます。

スピーカーの使いかた
2つお持ちの場合、左右フロントスピーカーとして使用します。(2チャンネル再生)
3つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカーとして使用します。(3チャンネルサラウンド)
4つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。(4チャンネルサラウンド)
5つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。(5チャンネルサラウンド)
6つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーとして使用します。(6チャンネルサラウンド)
7つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、左右サラウンドバックスピーカーとして使用します。(7チャンネルサラウンド)
サブウーファーをお持ちの場合、スピーカーの数に関係なく、重低音効果を発揮するために使用します。(○.1チャンネル再生)

- 最適なサラウンド再生をお楽しみいただくには、付属のマイクを使って簡単スピーカー設定を行ってください。(☞36ページ)

接続をする

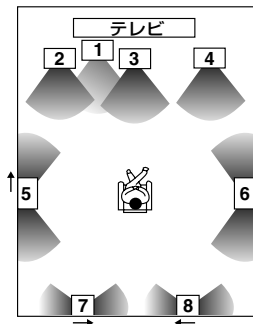
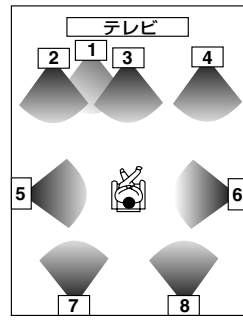
スピーカーを接続する

サラウンドバックスピーカーの配置について

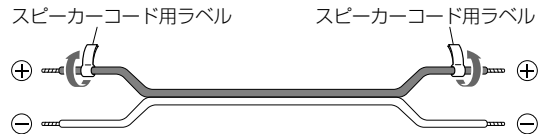
サラウンドバックスピーカーは、Dolby Digital EX、Dolby Pro Logic IIx、DTS-ES Matrix、DTS-ES Discreteなどのリスニングモードを楽しむときに必要です。
設置例1は、ダイポール型スピーカーを設置した場合です。ダイポール型スピーカーとは、前と後ろなど、二つの方向に同じ音を出す、双指向性スピーカーのことです。
ダイポール型スピーカーでは位相*を合わせるため、多くはスピーカーに矢印表示が書いてあります。サラウンドスピーカーは矢印（↑）がテレビへ向かうように配置し、サラウンドバックスピーカーは、お互いの矢印（→）が向き合うように配置してください。

*位相 ： 正弦波の1周期（0〜360度）における波形の位置を示す言葉。各スピーカー間の距離や取り付け角度、＋、－の配線間違いなどで位相が合っていないと、音像や音場が不明瞭になったり、聞きづらさがあったりします。

設置例1

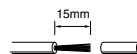
設置例2

1 サブウーファー
2 左フロントスピーカー
3 センタースピーカー
4 右フロントスピーカー
5 左サラウンドスピーカー
6 右サラウンドスピーカー
7 左サラウンドバックスピーカー
8 右サラウンドバックスピーカー

スピーカーコード用ラベルの使いかた

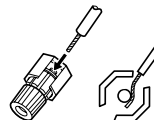
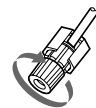
本機はスピーカー端子の⊕側を色分けして識別しやすくしています。付属のスピーカーコード用ラベルをお持ちのスピーカーコード両端のプラス⊕に貼ると識別が簡単になります。スピーカー端子は以下のように色分けしています。

左フロント	：**白**	左フロントスピーカーのコード両端(⊕側)に白いラベルを貼る
右フロント	：**赤**	右フロントスピーカーのコード両端(⊕側)に赤いラベルを貼る
センター	：**緑**	センタースピーカーのコード両端(⊕側)に緑のラベルを貼る
左サラウンド	：**青**	左サラウンドスピーカーのコード両端(⊕側)に青いラベルを貼る
右サラウンド	：**灰**	右サラウンドスピーカーのコード両端(⊕側)に灰色のラベルを貼る
左サラウンドバック	：**茶**	左サラウンドバックスピーカーのコード両端(⊕側)に茶色のラベルを貼る
右サラウンドバック	：**ベージュ**	右サラウンドバックスピーカーのコード両端(⊕側)にベージュのラベルを貼る

スピーカーコードの接続

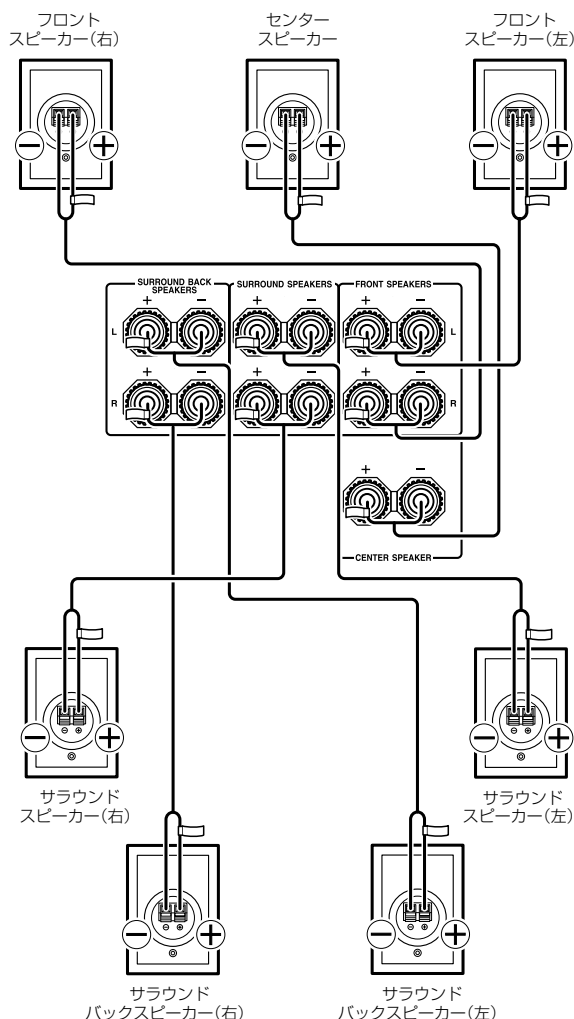
本機のスピーカー端子のプラス⊕とスピーカーのプラス⊕端子にラベルを貼った側のスピーカーコードを接続します。本機のスピーカー端子のマイナス⊖とスピーカーのマイナス⊖端子とをラベルの貼っていない側のスピーカーコードで接続します。

①スピーカーコードの被覆を15mmカットする

② しん線の先端をしっかりとよじる

③ねじをゆるめる

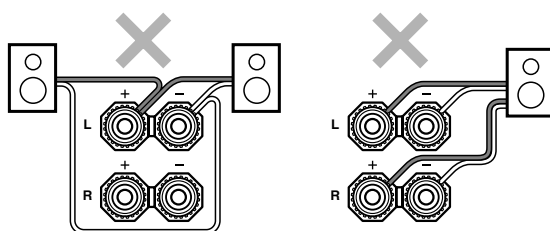
④しん線を差し込む

⑤ねじを締め付ける

ご注意

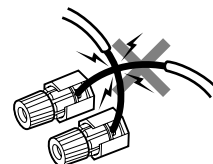
しん線はしっかりとよじり、後面パネルなどの金属に接触しないようにしてください。

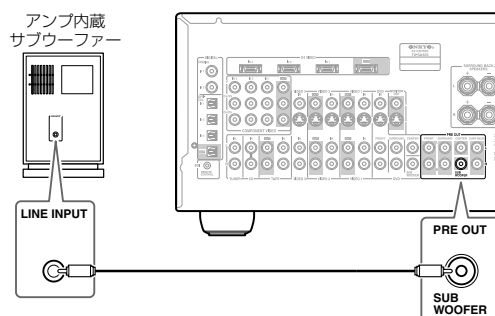
スピーカーの配置については「ホームシアターとは」（☞17ページ）および「サラウンドバックスピーカーの配置について」（☞18ページ）をご覧ください。
本機にはインピーダンスが4Ω～16Ωのスピーカーを接続してください。ただし、インピーダンスが4Ω以上6Ω未満のスピーカーを接続するときは、41ページで「スピーカーインピーダンス」を4Ωに設定してください。

サラウンドバックスピーカーを１つだけ使用する場合は、SURROUND（サラウンド） BACK（バック） SPEAKERS（スピーカー）（L）端子に接続してください。

5.1ch（チャンネル）の場合は、FRONT（フロント） SPEAKERS（スピーカー）(L/R)、CENTER（センター） SPEAKER、SURROUND SPEAKERS(L/R）端子に接続してください。

ご注意

- プラス⊕とマイナス⊖を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続すると音声が不自然になりますのでご注意ください。
- スピーカー端子に複数のスピーカーコードは接続しないでください。故障の原因になります。
- 1台のスピーカーだけを使用する場合やモノラル音声を再生する場合、１台のスピーカーを左右スピーカー端子に並列接続しないでください。

危険

回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線のプラスとマイナスを絶対に接触させないでください。

サブウーファーを接続する

パワーアンプ内蔵のサブウーファーを
PRE OUT SUBWOOFER端子に接続します。

！ヒント

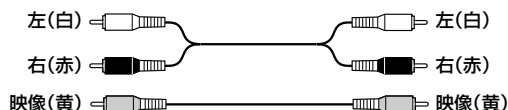
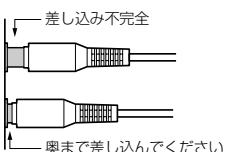
- 再生される低音の質や量は、置き場所や部屋の形状、視聴位置によって変わります。一般的に部屋の隅、または1/3の場所に置いたときに良い結果が得られますが、色々な場所に置いて質の良い低音が入った音楽を再生し、もっともしっかりした低音が再生できる場所に設置してください。
- サブウーファーの設定については、37ページの「ヒント」の項をご覧ください。

接続をする

接続の前に

- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 電源コードは全ての接続が終わるまでつながないでください。

ビデオ用、オーディオ用ピンコードは以下のように接続してください。

- 入力端子は赤いコネクターを右チャンネル（Rの表示）、白いコネクターを左チャンネル（Lの表示）、黄色のコネクターをビデオチャンネル（Vの表示）に接続してください。

- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。
- ビデオコード、オーディオ用ピンコードは電源コードやスピーカーコードと束ねないでください。音質や画質が悪くなることがあります。

光デジタル入力端子/出力端子について

本機の光デジタル端子はすべてとびらタイプですので、とびらをそのまま奥へ倒すようにして光デジタルケーブルを差し込んでください。

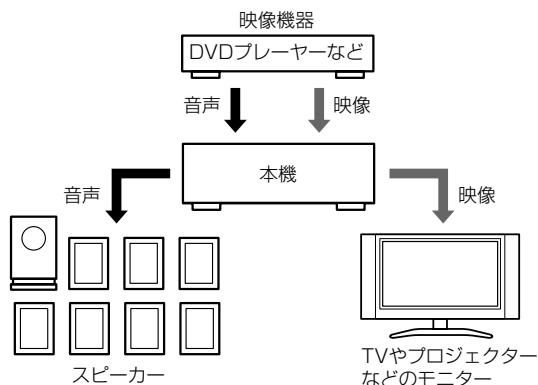
ご注意

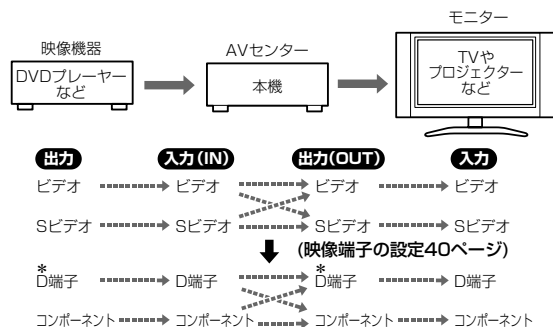
光デジタルケーブルはまっすぐ抜き差ししてください。
ななめに抜き差しすると、とびらが破損する場合があります。

映像/音声ケーブルと端子の種類について

映像ケーブルと端子の種類			
ケーブルの名称	ケーブルの形	端子の形	ケーブルや端子の役割
コンポーネントビデオコード		Y / CB/PB / CR/PR	画質はSビデオより良く、D端子と同レベルです。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。
D端子用接続コード		D4	画質はSビデオより良く、コンポーネントと同レベルです。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることができます。
Sビデオコード		S VIDEO	コンポジットの映像より良い画質が得られます。本機では映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。
ビデオコード（コンポジット）		VIDEO	標準的な映像信号で、多くのテレビやビデオなどの映像機器に装備されています。

音声ケーブルと端子の種類			
ケーブルの名称	ケーブルの形	端子の形	ケーブルや端子の役割
光デジタルケーブル（OPTICAL）（オプティカル）		OPTICAL	ドルビーデジタルなどのデジタル音声が得られます。音質はCOAXIALと同レベルです。
同軸デジタルケーブル（COAXIAL）（コアキシャル）		COAXIAL	ドルビーデジタルなどのデジタル音声が得られます。音質はOPTICALと同レベルです。
オーディオ用ピンコード		L / R	アナログ音声を伝送します。
マルチチャンネル接続コード		FRONT SURROUND CENTER SUB WOOFER	DVDオーディオ対応のDVDプレーヤーなどとの接続に使用します。アナログマルチチャンネル音声を伝送します。

DVDプレーヤーなど、映像機器は映像接続と音声接続を行ってください。本機の入力を切り換えるだけでその機器の映像と音声を選ぶことができます。

映像接続のしくみ

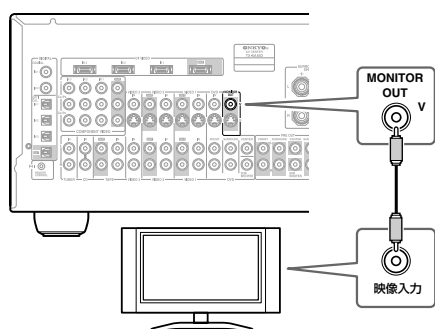
本機にはビデオ、Sビデオ、D端子、コンポーネントの4種類の映像入出力端子があります。接続する機器に合わせて使います。

- ビデオ端子またはSビデオ端子を使って接続するときは、映像端子の設定(☞40ページ)をすると、モニターと本機をビデオまたはSビデオ接続しなくてもD端子やコンポーネント端子から映像を出力することができます。
- D4 VIDEO IN/OUT端子とCOMPONENT VIDEO IN/OUT端子は内部で並列になるよう設計されていますので、1つの系統に両方を接続しないでください。
  たとえば、D4 VIDEO IN 1端子に映像機器を接続した場合は、COMPONENT VIDEO IN 1端子には何も接続しないでください。

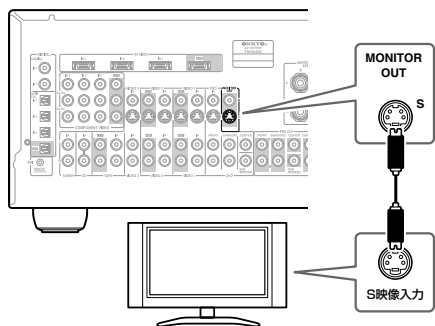
＊ 映像機器の映像出力からモニターの映像入力までD端子接続している場合のみ、アスペクト比などの制御信号を送れます。モニターによっては、制御信号を正しく受け取れないことがあります。その場合は、モニター側で調整してください。

テレビやプロジェクターなどのモニターを接続する

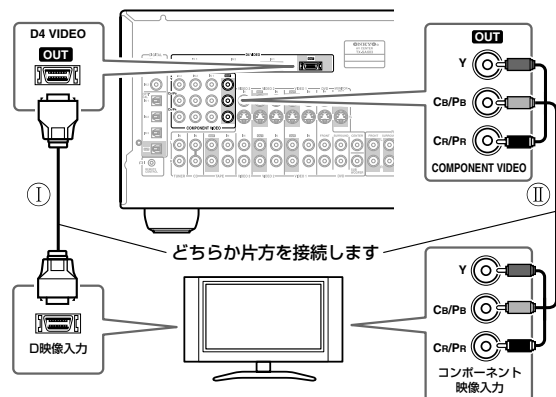
再生機器から入力した映像をテレビなどに映し出すための接続です。

■ビデオ(コンポジット)入力端子と本機を接続する

ビデオコードでモニターの映像入力端子と本機のV MONITOR OUT端子を接続します。

■Sビデオ入力端子がある場合

Sビデオコードでモニターの S 映像入力端子と本機の S MONITOR OUT端子を接続します。

■D入力端子やコンポーネント入力端子がある場合

Ⅰ D入力端子がある場合は、D端子用接続コードでモニターのD映像入力端子と本機のD4 VIDEO OUT端子を接続します。

Ⅱ コンポーネント入力端子がある場合は、コンポーネントビデオコードでモニターのコンポーネント映像入力端子と本機のCOMPONENT VIDEO OUT端子を接続します。

接続をする

テレビの音声接続をする

テレビの音声を本機のリスニングモードでお楽しみいただけます。

■デジタル接続

光音声出力端子がある場合、光デジタルケーブルでテレビの光デジタル出力端子と本機のDIGITAL IN 2（OPTICAL）端子を接続します。

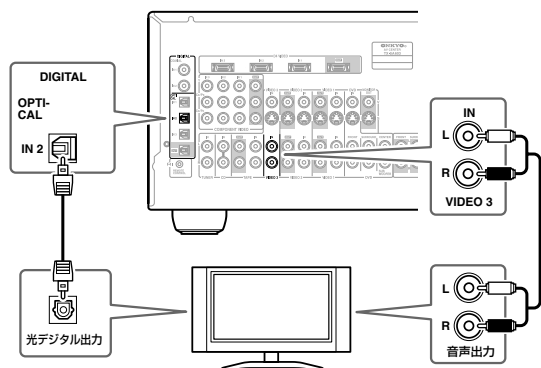
ご注意

VIDEO 3のデジタル入力は「OPT 2」に設定されています。DIGITAL IN 2（OPTICAL）端子以外に接続した場合は、「デジタル入力端子の設定」をする必要があります。（☞39ページ）

■アナログ接続

デジタル音声出力端子がない場合やテレビの音声をアナログ録音する場合、RI対応テレビと連動させる場合は、オーディオ用ピンコードでテレビの音声出力端子とVIDEO 3 IN L/R端子を接続します。

！ヒント

テレビに音声出力端子がないときは、ビデオデッキの音声出力端子と本機のVIDEO 1 IN L/R端子を接続してください。ビデオデッキに内蔵されているチューナーからテレビの音声をお楽しみいただけます。（☞24、25ページ）

映像機器を接続する

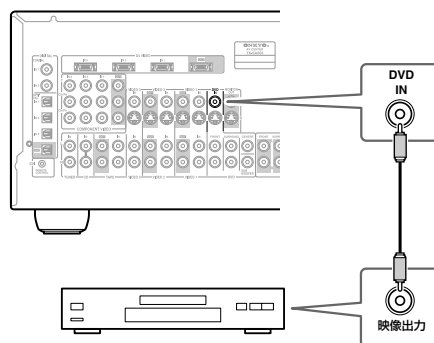
映像機器はそれぞれ「映像の接続」と「音声の接続」が必要です。

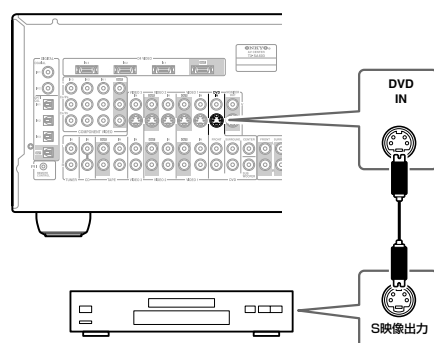
DVDプレーヤーの接続

映像の接続

以下のいずれかの接続をします。

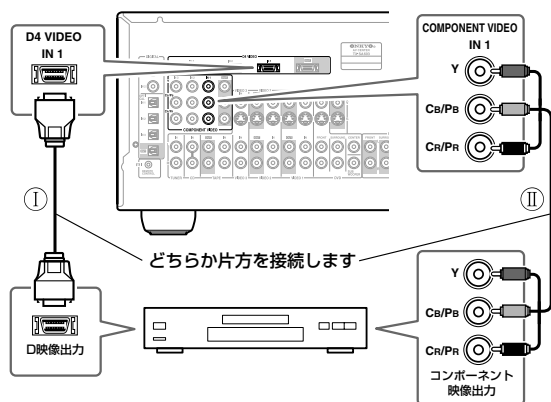
■ビデオ（コンポジット）出力端子を接続する場合

ビデオコードでDVDプレーヤーの映像出力端子と本機のV DVD IN端子を接続します。

■Sビデオ出力端子がある場合

SビデオコードでDVDプレーヤーのS映像出力端子と本機のS DVD IN端子を接続します。ビデオ（コンポジット）接続より、良い画質が得られます。

■D映像出力端子またはコンポーネント映像出力端子がある場合

Ⅰ D映像出力端子がある場合は、D端子用接続コードでDVDプレーヤーのD映像出力端子と本機のD4 VIDEO IN 1端子を接続します。Sビデオ接続より、良い画質を得られます。

Ⅱ コンポーネント映像出力端子がある場合は、コンポーネントビデオコードでDVDプレーヤーのコンポーネント映像出力端子と本機のCOMPONENT VIDEO IN 1端子を接続します。Sビデオ接続より、良い画質を得られます。

- モニターと本機もD端子またはコンポーネント接続のどちらかをする必要があります。(☞21ページ)

ご注意

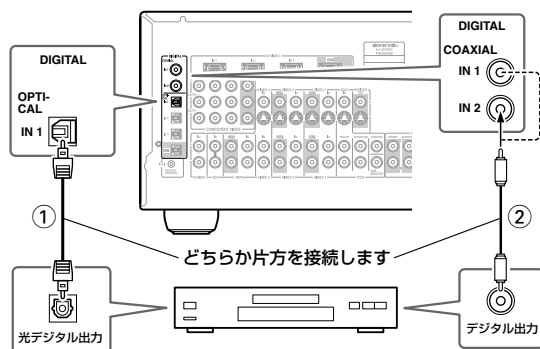
DVDの映像入力は、「IN 1」に設定されています。ほかのD4 VIDEO IN端子やCOMPONENT VIDEO IN端子に接続した場合は、「映像端子の設定」を変更する必要があります。
(☞40ページ)

音声の接続

■デジタル接続

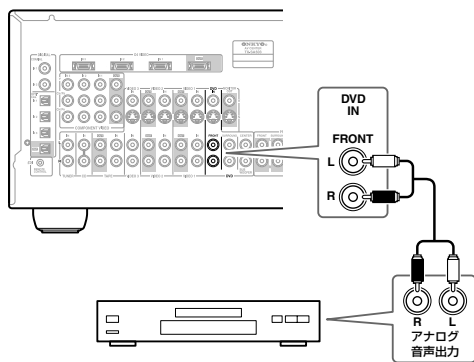
本機でドルビーデジタルなどのデジタル音声をお楽しみいただけます。以下のいずれかの接続をします。

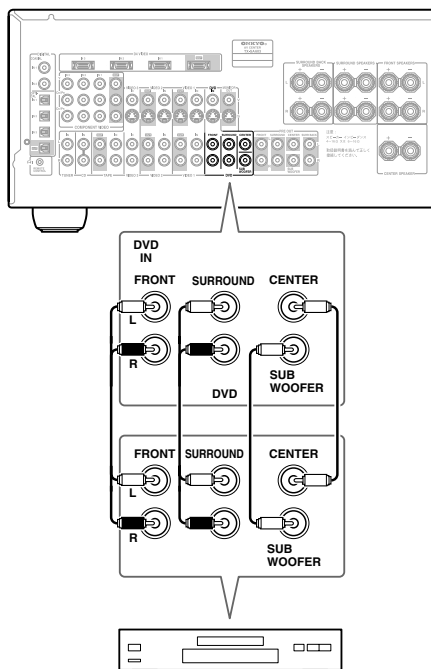
① OPTICALタイプの音声出力端子がある場合、光デジタルケーブルでDVDプレーヤーの光デジタル出力端子と本機のDIGITAL IN 1（OPTICAL）端子を接続します。

② COAXIALタイプの音声出力端子がある場合、同軸デジタルケーブルでDVDプレーヤーのデジタル出力端子と本機のDIGITAL IN 1/2（COAXIAL）端子のいずれかを接続します。

ご注意

DVDのデジタル入力は「OPT 1」に設定されています。
DIGITAL IN 1（OPTICAL）端子以外に接続した場合は、「デジタル入力端子の設定」を変更する必要があります。
(☞39ページ)

■アナログ接続

DVDの音声をアナログ録音する場合やオンキヨー製品で本機とRI連動させる場合の接続です。
オーディオ用ピンコードでDVDプレーヤーの音声出力端子と本機のDVD FRONT IN L/R端子を接続します。

■マルチチャンネル(5.1ch)出力端子がある場合

DVDオーディオなどのマルチチャンネル音声に対応している機器の場合、DVDオーディオなどの再生がお楽しみいただけます。
マルチチャンネル接続コードまたは、オーディオ用ピンコード3本を使ってDVDプレーヤーのマルチチャンネル出力端子と本機のDVD FRONT L/R、SURROUND、CENTER、SUB WOOFER端子を接続します。

ビデオデッキやHDD/DVDレコーダーなどの接続

■VHSビデオまたはS-VHSビデオの場合

映像の接続

ビデオの映像を本機を通してお楽しみいただけます。

Sビデオ端子またはビデオ（コンポジット）端子を接続する

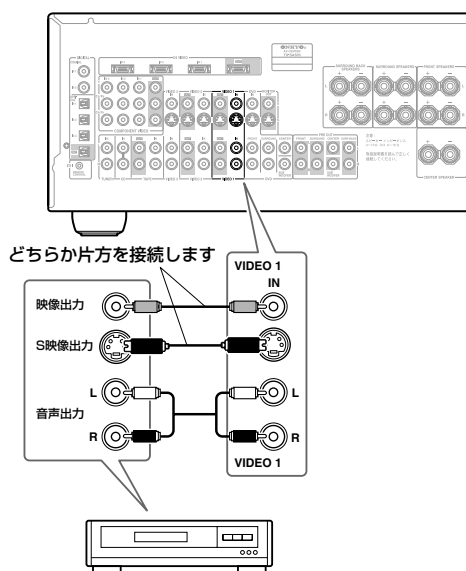
Sビデオコードでビデオデッキの S映像出力端子と本機のS VIDEO 1 IN端子を接続します。コンポジット接続より、良い画質が得られます。

ビデオ（コンポジット）接続の場合は、ビデオコードでビデオデッキの映像出力端子と本機のVIDEO 1 IN端子を接続します。

音声の接続

本機でビデオデッキの音声をお楽しみいただけます。

アナログ接続

オーディオ用ピンコードでビデオデッキの音声出力端子と本機のVIDEO 1 IN L/R端子を接続します。

■ HDD/DVDレコーダーなど（デジタル機能のある機器）の場合

映像の接続

映像を本機を通してお楽しみいただけます。

D映像端子またはコンポーネント端子を接続する

- モニターと本機もD端子またはコンポーネント接続をする必要があります。（☞21ページ）

Ⅰ D端子接続の場合は、D端子用接続コードでHDD/DVDレコーダーのD映像出力端子と本機のD4 VIDEO IN端子のいずれかを接続します。S映像接続より、良い画質が得られます。

Ⅱ コンポーネント接続の場合は、コンポーネントビデオコードで、HDD/DVDレコーダーのコンポーネント映像出力端子と本機のCOMPONENT VIDEO IN端子のいずれかを接続します。S映像接続より、良い画質が得られます。

ご注意

VIDEO 1の映像入力は、「IN 2」に設定されています。ほかのD4 VIDEO IN端子やCOMPONENT VIDEO IN端子に接続した場合は、「映像端子の設定」を変更する必要があります。（☞40ページ）

音声の接続

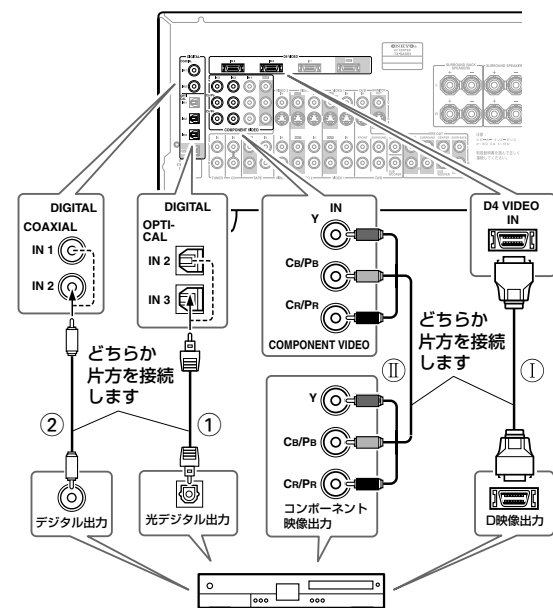
本機でデジタル音声をお楽しみいただけます。

デジタル接続（HDD/DVDレコーダー）

① OPTICALタイプの音声出力端子がある場合は、HDD/DVDレコーダーの光デジタル出力端子と本機のDIGITAL IN 2/3（OPTICAL）端子を接続します。

② COAXIALタイプの音声出力端子がある場合、HDD/DVDレコーダーのデジタル出力端子と本機のDIGITAL IN 1/2（COAXIAL）端子を接続します。

ご注意

デジタル接続をした場合は、「デジタル入力端子の設定」をする必要があります。（☞39ページ）

■本機を通して録画するには

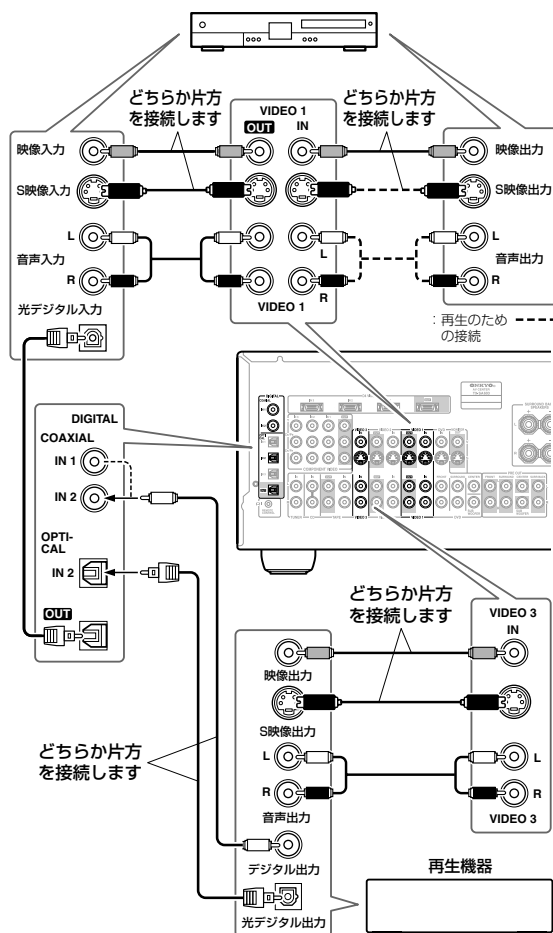
本機のS VIDEO 1 OUT端子と録画機器のS映像入力端子、または本機のV VIDEO 1 OUT端子と録画機器の映像入力端子を接続します。

オーディオ用ピンコードで本機のVIDEO 1 OUT L/R端子と録画機器の音声入力端子を接続します。

録画機器にOPTICALタイプのデジタル音声入力端子がある場合は、本機のDIGITAL OUT（OPTICAL）端子と接続すると、デジタル録音ができます。

テレビなどの再生機器の音声出力端子と本機の音声入力端子を接続します。

ご注意

- ビデオ端子に入力される信号は、ビデオ端子でしか録画できません。テレビなどの再生機器をビデオ端子接続した場合は、ビデオデッキなどの録画機器もビデオ端子接続をしてください。また、S端子に入力される信号はS端子でしか録画できません。テレビなどの再生機器をS端子接続した場合は、ビデオデッキなどの録画機器もS端子接続をしてください。
- 録画をするときは本機の電源を入れる必要があります。本機がスタンバイ状態のままでは録画できません。

■本機を通さずに録画するには

テレビなどの再生機器の映像出力端子や音声出力端子を直接、録画機器の入力端子に接続します。

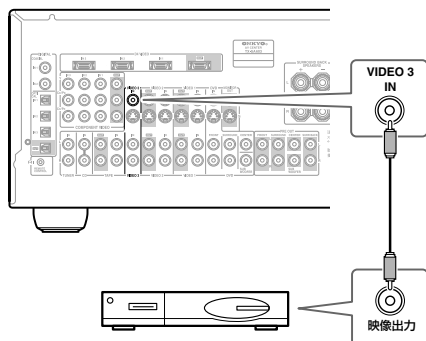
詳細はお手持ちの録画機器や再生機器の取扱説明書をご覧ください。

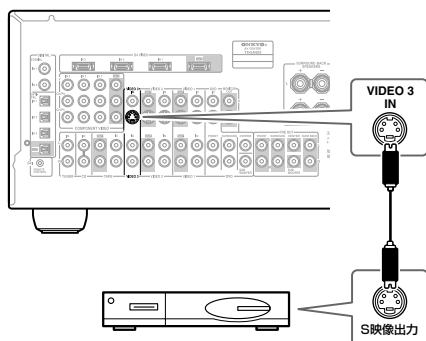
BSチューナー、LDプレーヤーなどの接続

映像の接続

以下のいずれかの接続をします。

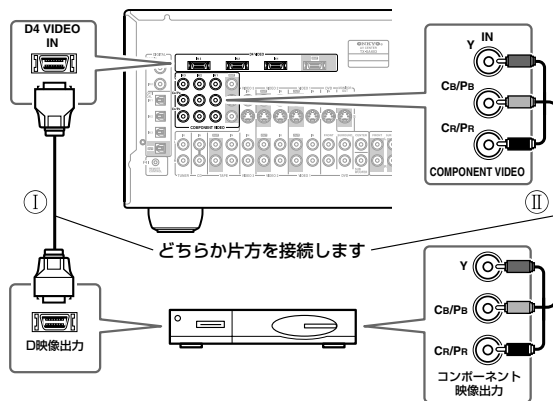
■ビデオ(コンポジット)出力端子を接続する場合

ビデオコードで接続する機器の映像出力端子と本機のV VIDEO 3 IN端子を接続します。

■Sビデオ出力端子を接続する場合

Sビデオコードで接続する機器のS映像出力端子と本機のS VIDEO 3 IN端子を接続します。ビデオ接続より、良い画質が得られます。

■D映像出力端子またはコンポーネント映像出力端子がある場合

Ⅰ D映像出力端子がある場合は、D端子用接続コードで接続する機器のD映像出力端子と本機のD4 VIDEO IN端子のいずれかを接続します。Sビデオ接続より、良い画質を得られます。

Ⅱ コンポーネント映像出力端子がある場合は、コンポーネントビデオコードで接続する機器のコンポーネント映像出力端子と本機のCOMPONENT VIDEO IN端子のいずれかを接続します。Sビデオ接続より、良い画質を得られます。

- モニターと本機もD端子またはコンポーネント接続をする必要があります。(☞21ページ)

ご注意

映像入力はあらかじめ設定されています。
D4 VIDEO IN端子やCOMPONENT VIDEO IN端子に接続した場合は、「映像端子の設定」を変更する必要があります。
(☞40ページ)

音声の接続

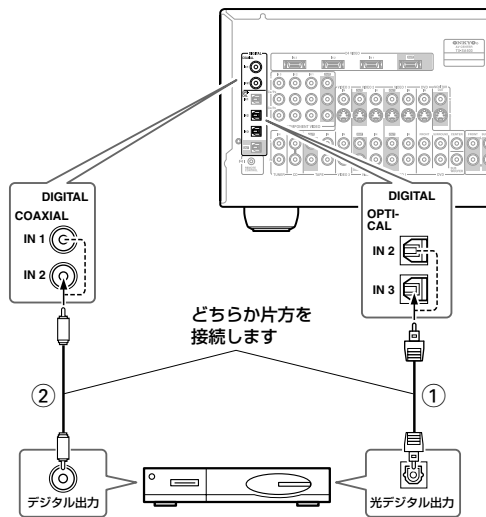
■デジタル接続

本機でデジタル音声をお楽しみいただけます。

① OPTICALタイプの音声出力端子がある場合、光デジタルケーブルで接続する機器の光デジタル出力端子と本機のDIGITAL IN 2/3（OPTICAL）端子を接続します。

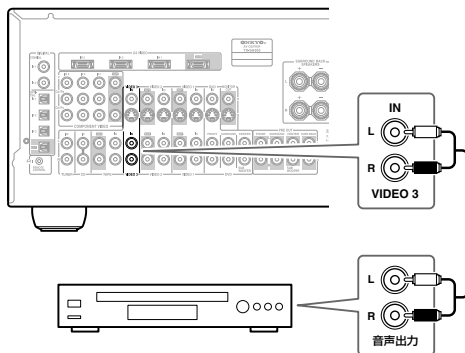
② COAXIALタイプの音声出力端子がある場合、同軸デジタルケーブルで接続する機器のデジタル出力端子と本機のDIGITAL IN 1/2（COAXIAL）端子を接続します。

ご注意

VIDEO 3のデジタル入力は「OPT 2」に設定されています。DIGITAL IN 2（OPTICAL）端子以外に接続した場合は、「デジタル入力端子の設定」をする必要があります。（☞39ページ）

ご注意

LDプレーヤーのAC-3RF出力端子は本機に直接接続できません。LDプレーヤーでドルビーデジタル5.1chソフトをお楽しみいただくには、市販のデモジュレーターが必要です。

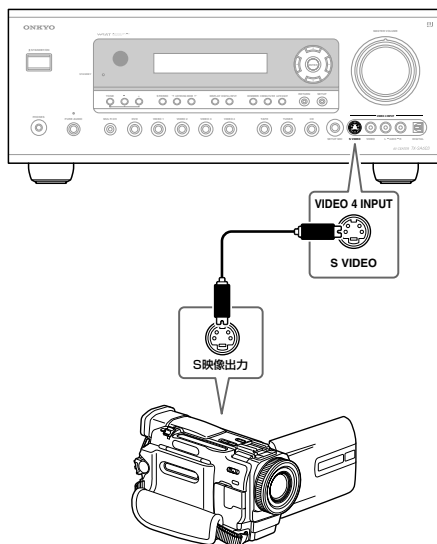
■アナログ接続

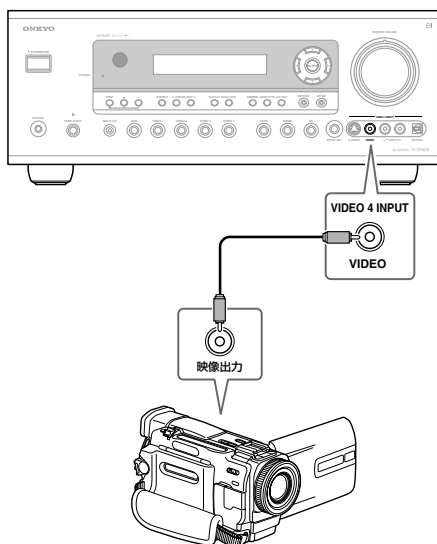
デジタル音声出力端子がない場合や接続する機器の音声をアナログ録音する場合は、オーディオ用ピンコードで接続する機器の音声出力端子と本機のVIDEO 3 IN L/R端子を接続します。

ビデオカメラやテレビゲームの接続

ビデオカメラやテレビゲームを前面パネルの端子に接続できます。

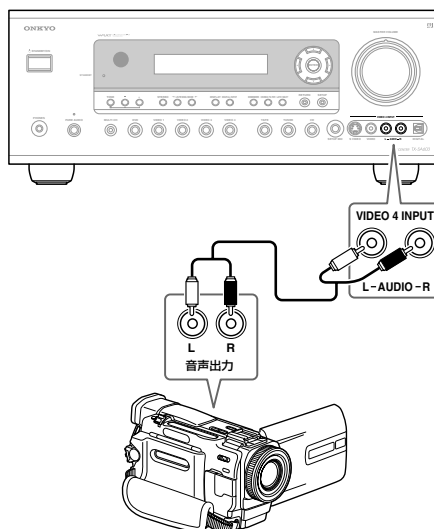
映像の接続

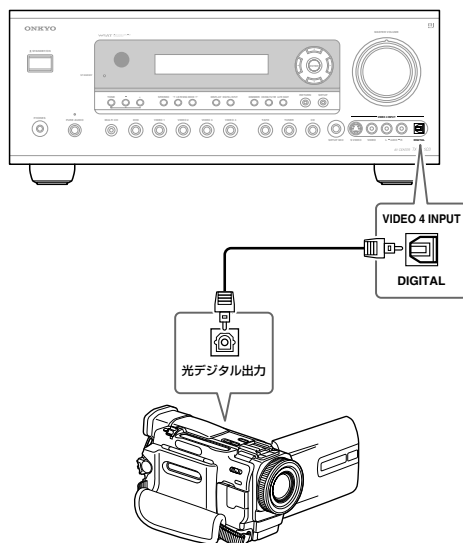
■Sビデオ出力端子がある場合

Sビデオコードで接続する機器のS映像出力端子と本機前面の VIDEO 4 INPUT S VIDEO端子を接続します。

■Sビデオ出力端子がない場合

ビデオコードで接続する機器の映像（コンポジット）出力端子と本機前面のVIDEO 4 INPUT VIDEO端子を接続します。

音声の接続

■アナログ接続

オーディオ用ピンコードで接続する機器の音声出力端子と本機前面のAUDIO L/R端子を接続します。

■デジタル出力端子がある場合

本機でデジタル音声をお楽しみいただけます。
光デジタルケーブルで接続する機器の光デジタル出力端子と、本機前面のVIDEO 4 INPUT DIGITAL端子を接続します。

オーディオ機器を接続する

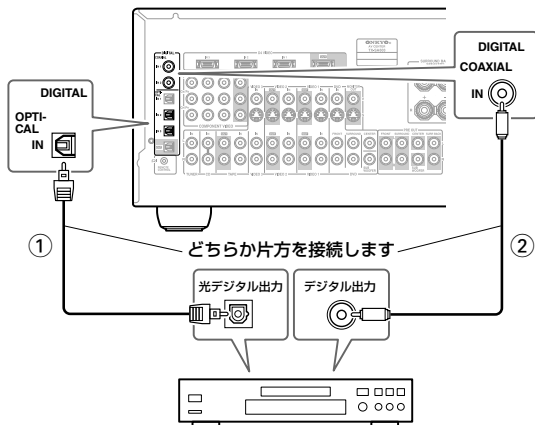
CDプレーヤーを接続する

■デジタル接続

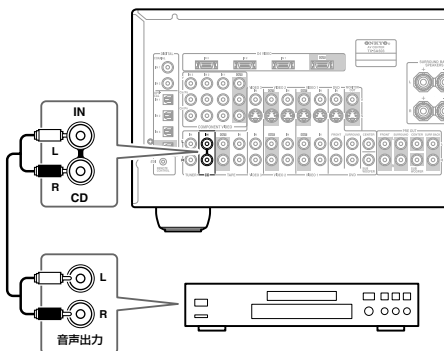
CDは左右フロント2チャンネルで記録されているため、デジタル接続をしてもドルビーデジタルなどの音声はお楽しみいただけません。また、アナログ接続のみでもドルビープロロジックIIxなどのサラウンド効果がお楽しみいただけます。

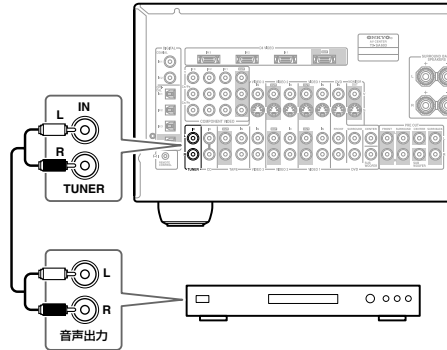
① OPTICALタイプの音声出力端子がある場合は、光デジタルケーブルでCDプレーヤーの光デジタル出力端子と本機のDIGITAL IN（OPTICAL）端子のいずれかを接続します。

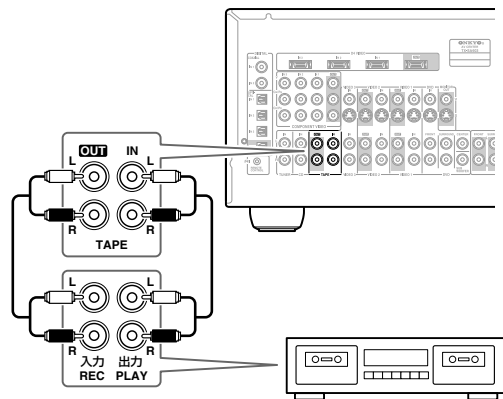
② COAXIALタイプの音声出力端子がある場合は、同軸デジタルケーブルでCDプレーヤーのデジタル出力端子と本機のDIGITAL IN（COAXIAL）端子のいずれかを接続します。

ご注意

デジタル接続をした場合は、「デジタル入力端子の設定」をする必要があります。（☞39ページ）

■アナログ接続

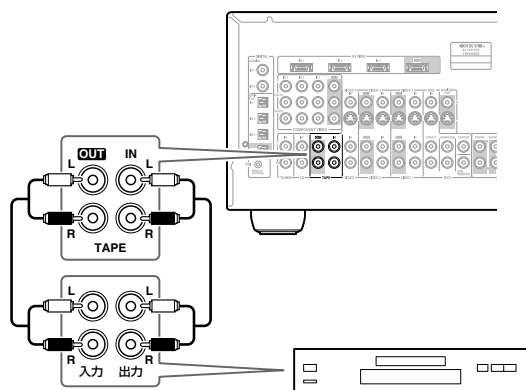
アナログ録音をする場合やオンキヨー製CDプレーヤーで本機とRI連動をさせる場合の接続です。
オーディオ用ピンコードで、CDプレーヤーの音声出力端子と本機のCD IN L/R端子を接続します。

チューナーを接続する

オーディオ用ピンコードで、チューナーの音声出力端子と本機のTUNER IN L/R端子を接続します。

カセットデッキを接続する

オーディオ用ピンコードでカセットデッキの音声出力端子（PLAY）と本機のTAPE IN L/R端子を接続します。また、音声入力端子（REC）と本機のTAPE OUT L/R端子を接続します。

MDレコーダー、DAT、CDレコーダーを接続する

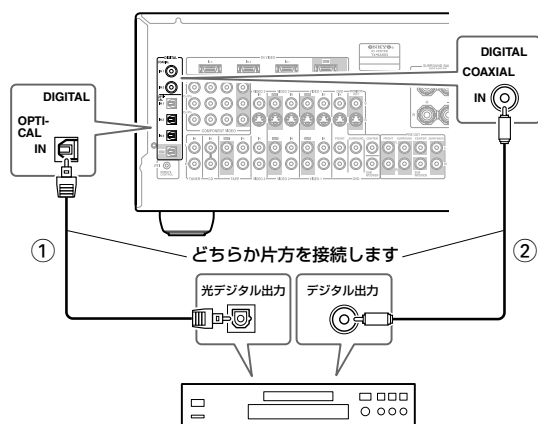
カセットデッキの代わりにMDレコーダー、DAT、CDレコーダーなどの録音機器を接続することができます。

■ アナログ接続

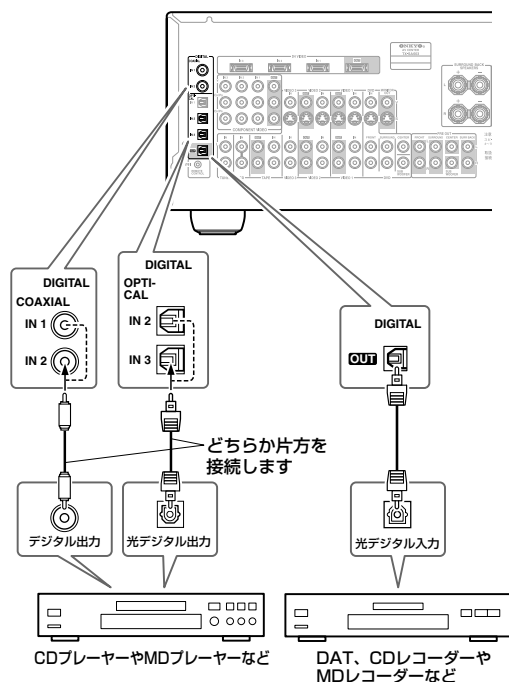
オーディオ用ピンコードで接続する機器の音声出力端子（PLAY）と本機のTAPE IN L/R端子を接続します。また、音声入力端子（REC）と本機のTAPE OUT L/R端子を接続します。

■ デジタル接続（入力端子の接続）

① OPTICALタイプの音声出力端子がある場合は、光デジタルケーブルで本機のDIGITAL IN（OPTICAL）端子のいずれかと接続します。

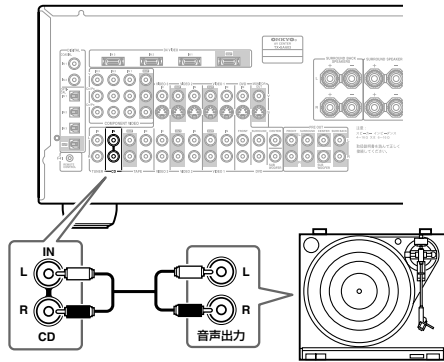
② COAXIALタイプの音声出力端子がある場合は、同軸デジタルケーブルで本機のDIGITAL IN（COAXIAL）端子のいずれかと接続します。

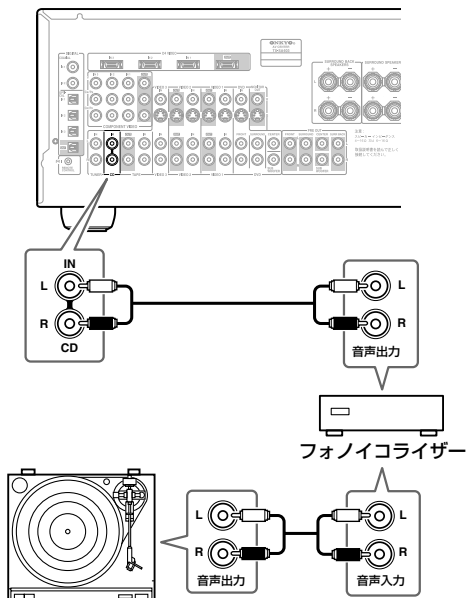
ご注意

デジタル接続をした場合は、「デジタル入力端子の設定」をする必要があります。（☞39ページ）

■ デジタル録音をするには

接続する機器にデジタル入力端子がある場合は本機のDIGITAL OUT端子に接続するとデジタル録音ができます。デジタル録音ができる音声信号は本機のDIGITAL IN端子に入力された信号のみです。

レコードプレーヤーを接続する

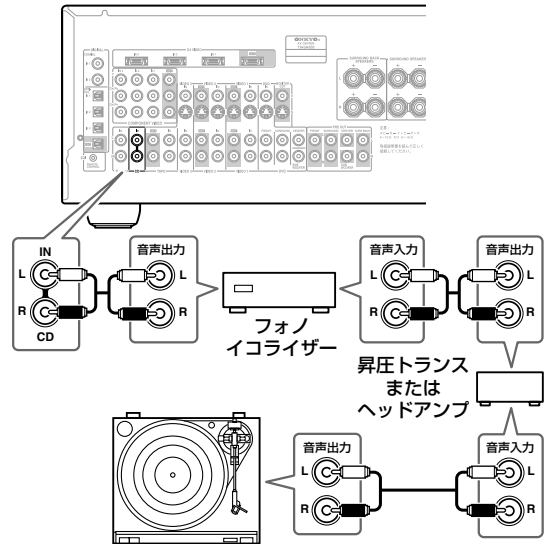
■レコードプレーヤーがフォノイコライザー内蔵の場合

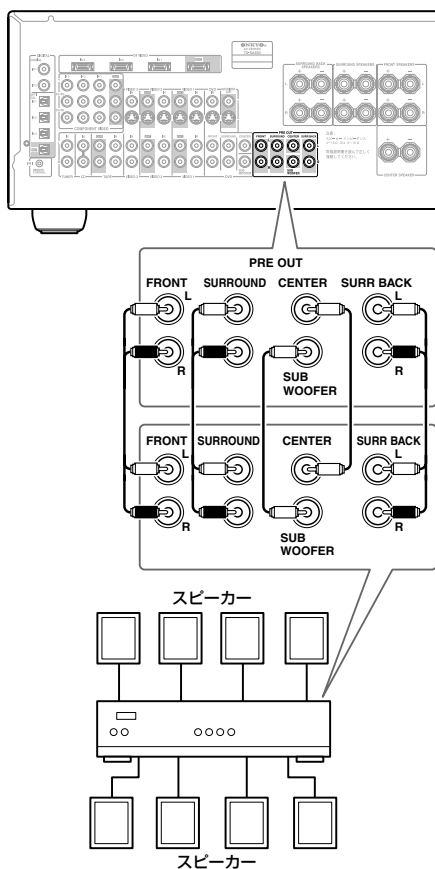
オーディオ用ピンコードでレコードプレーヤーの音声出力端子と空いているL/R IN端子を接続します。

■レコードプレーヤーがフォノイコライザー内蔵でない場合

オーディオ用ピンコードでレコードプレーヤーとフォノイコライザーの音声入力端子を接続し、フォノイコライザーと空いているL/R IN端子を接続します。

■MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーの場合

オーディオ用ピンコードでレコードプレーヤーと昇圧トランスまたはヘッドアンプを接続し、それにフォノイコライザーを接続します。

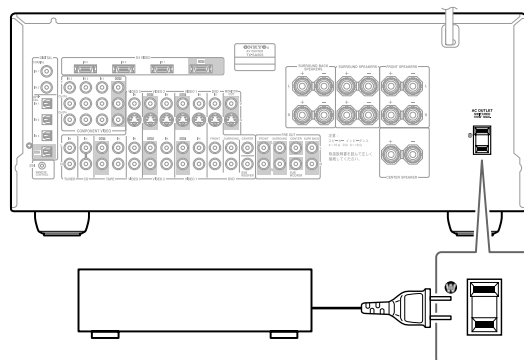
フォノイコライザーを本機の空いているL/R IN端子に接続します。

詳しくは、レコードプレーヤーまたはフォノイコライザーの取扱説明書をご覧ください。

パワーアンプを接続する

パワーアンプを本機に接続し、本機をプリアンプとして使用することができます。本機だけでは出力できない大音量で再生できるようになります。
パワーアンプを使用する場合、各スピーカーやサブウーファーはパワーアンプに接続してください。パワーアンプの音声入力端子と本機のPRE OUT端子を接続します。

オーディオ機器の電源プラグを本機につなぐ（AC OUTLET）

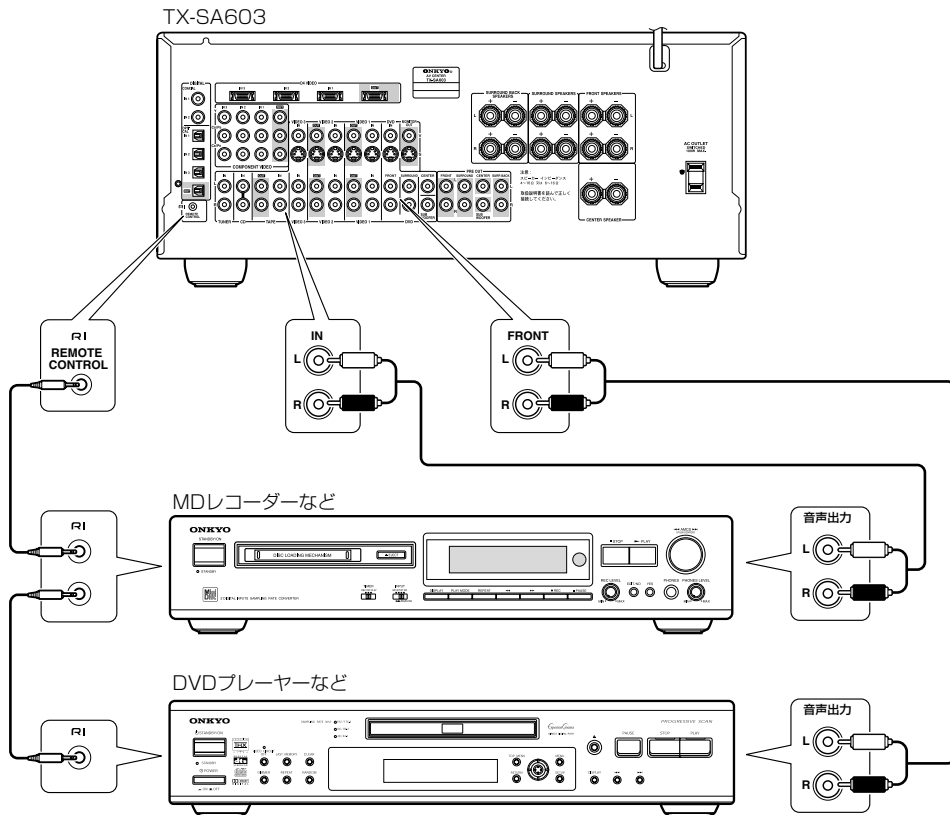
本機は後面に電源コンセントがありますので、組み合わせて使用するオーディオ機器の電源プラグを差し込むことができます。本機の電源を入れると後面の電源コンセントが通電します。
RI端子付きのオンキヨー製品は、常時通電しているコンセントにつないでください。

ご注意

本機の電源コンセントには、合計で100Wを超える機器は接続しないでください。

よりよい音で聞いていただくために

本機の電源コンセントは極性の管理がされています。他機の電源コードに目印がある場合は目印線側を本機の電源コンセントのⓌ側に合わせてください。他機の電源コードに目印がない場合はどちらを接続してもかまいません。

オンキヨー製品と連動させる接続

RI端子付きのオンキヨー製品にRIケーブルとオーディオ用ピンコードを接続すると、以下のような連動機能が可能です。
RIケーブルとは、オンキヨーのシステム動作用ケーブルです。（本機には付属していません）
RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。22～32ページを参照し、オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

オートパワーオン機能

本機がスタンバイ状態のとき、接続した機器の電源を入れたり、再生を始めると、本機の電源が自動的に入ります。また、本機の電源を切ると接続されている機器全体の電源も切れます。

ご注意

RI接続した機器の電源コードが本機の電源コンセント(AC OUTLET)に接続されている場合はこの機能は働きません。

ダイレクトチェンジ機能

RI接続されている機器を再生すると、本機の入力が自動的に切り換わります。
DVDプレーヤーのマルチチャンネル再生をする場合は、MULTI CH（マルチ チャンネル）ボタンを押す必要があります。(☞55ページ)

リモコン操作機能

本機に付属のリモコンで各機器を操作することができます。

ご注意

- 47ページの「入力表示を切り換える」もご覧ください。
- 製品によってはRI接続をしても一部の機能が働かないことがあります。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- RIケーブルの接続は順序の指定はありません。
- RI端子が2つある場合、2つの端子の働きは同じです。どちらにも接続できます。
- 新旧製品の連動動作の対応/非対応については、カスタマーセンターにお問い合わせください。

RIオーディオコントロール端子付きテレビとの連動について

本機はRI端子を持つテレビと接続すると次の動作が可能になります。

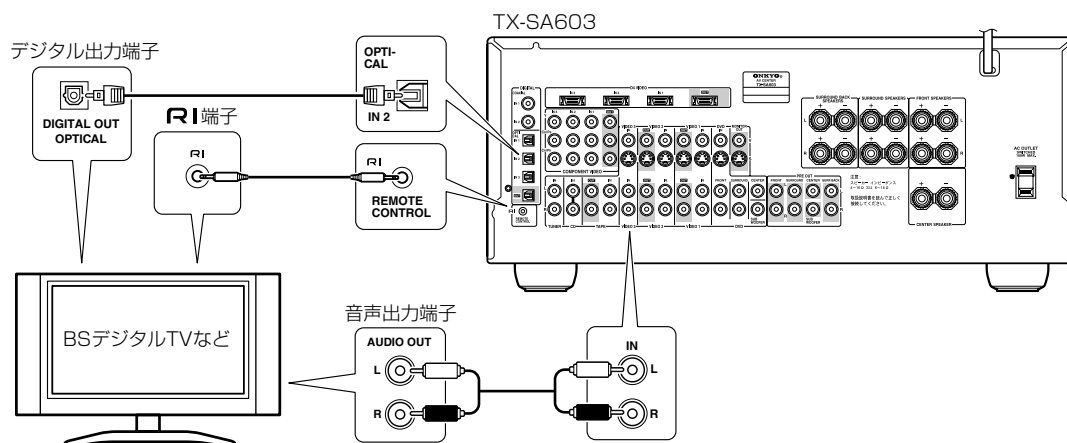
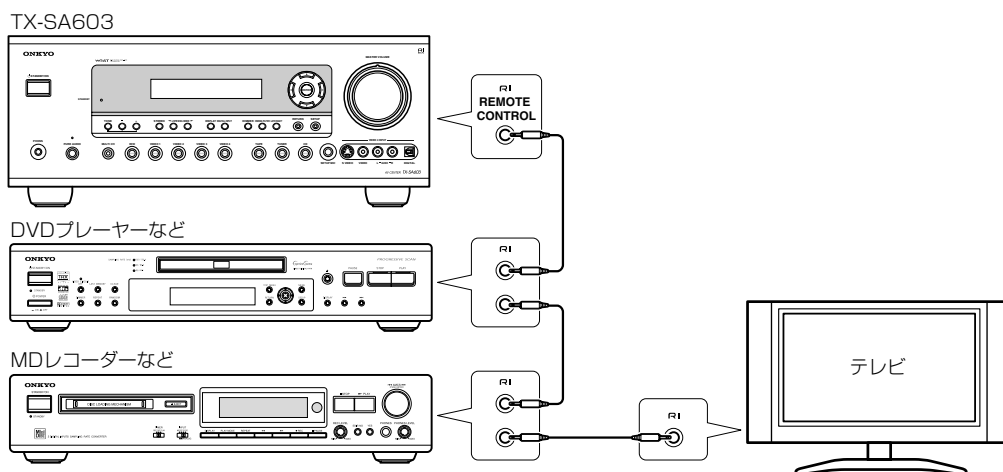
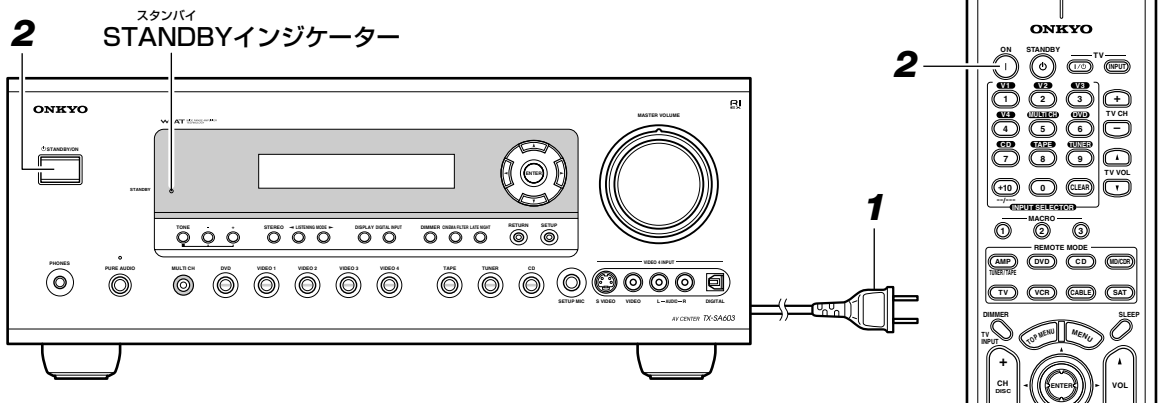
① テレビの電源を入れると本機の電源も自動的に入り、入力が切り換わります。
このときテレビの音は消え、本機に接続されたスピーカーから音が出ます。また、テレビを切る（スタンバイにする）と、本機もスタンバイ状態になります。ただし、本機で他の入力を選んでいる場合は、スタンバイ状態になりません。

② テレビに付属のリモコンで本機の音量調整、ミューティング（消音）ができます。

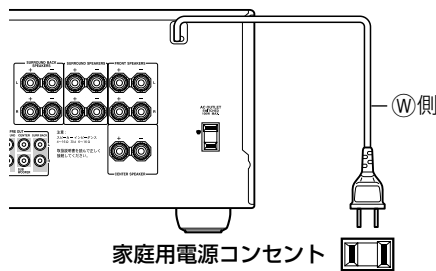
③ 本機をスタンバイ状態にするとテレビの音が復帰し、テレビに付属のリモコンでテレビ側の機能（音量、消音）をコントロールできるようになります。

> 連動動作が可能なテレビについては、テレビのカタログや取扱説明書で、RI端子が装備されているかどうかをご確認ください。
> 本機にケーブルは付属していません。モノラルミニプラグコード（抵抗なし）を別途お求めください。

接続のしかた

- 本機のVIDEO（ビデオ） 3音声入力（VIDEO 3 IN L/R）端子を接続する
- モノラルミニプラグコードでテレビのRIオーディオコントロール端子と本機のRI端子を接続する
- テレビの光デジタル音声出力端子と本機のDIGITAL（デジタル） IN（イン） 2（OPTICAL（オプティカル））端子と接続する
（テレビに光デジタル音声出力端子がない場合は接続する必要はありません）

- 他のオンキヨー製品を接続する場合は、RIケーブルでRI端子どうしを接続してください。
- RI端子が2つある製品の場合、2つの働きは同じですのでどちらにでも接続できます。
- RI端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

電源を入れる

1

電源コードをコンセントに接続する

STANDBYインジケーターが点灯し、スタンバイ状態となります。

電源コードを接続する前に

すべての接続が完了していることを確認してください。本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れてコンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。

コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。

よりよい音で聞いていただくために

本機の電源コンセントは極性の管理がされています。電源コードの目印線（↑W↑）側を家庭用電源コンセントの溝の広い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の広さが同じ場合は、聞きくらべて音の良い方向に差し込んでください。

ご注意

電源コードをコンセントから抜くときは、本機をスタンバイ状態にしてから抜いてください。

2

本体のSTANDBY/ONボタン、またはリモコンのONボタンを押す

本体

または

リモコン

STANDBYインジケーターが消え、表示部が点灯します。

！ヒント

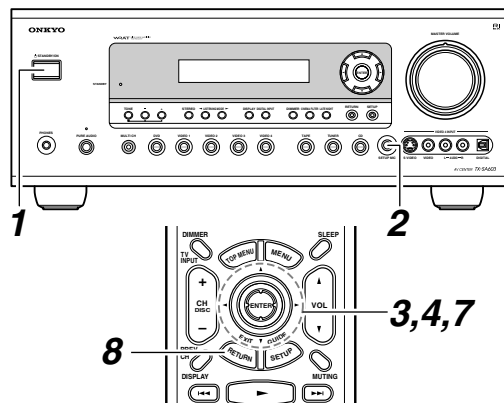
スタンバイ状態のとき、本体の入力切換ボタン、MULTI CHボタンやリモコンのINPUT SELECTORボタンを押しても電源を入れることができます。

また、リモコンのONボタンをもう一度押すと、RI接続をした全機器の電源が入ります。

スタンバイ状態に戻すには

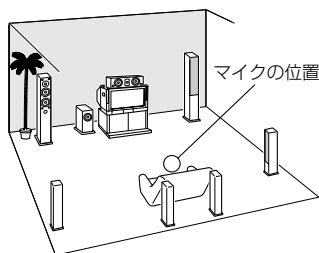
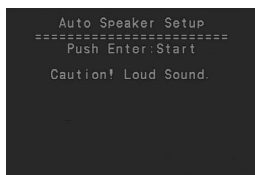
本体のSTANDBY/ONボタンまたはリモコンのSTANDBYボタンを押します。

簡単スピーカー設定をする

付属のマイクを使って、接続したスピーカーの数やサイズ、視聴位置までの距離などを自動で測定し、設定します。設定の前に、使用するすべてのスピーカーの接続と設置を行ってください。

1 本機の電源を入れ、接続したテレビの電源を入れる

⏻STANDBY/ON

テレビの入力を本機を接続した入力に切り換えてください。

2 付属の簡単スピーカー設定用マイクを視聴位置に設置してから、マイクのプラグを本機のSETUP MIC端子に接続する

テレビに下記の画面が表示されます。

（ENTERボタンを押すとスタートします。大きな音が出るのでご注意ください。）

ご注意

- マイクは水平に置いてください。
- それぞれのスピーカーからマイクの間に障害物があると、正しく設定できません。通常の視聴時と同じ環境にしてください。

- MUTING機能が設定されていると、解除されます。

！ヒント

視聴するときの耳に近い位置にマイクを設置すると、正確に設定できます。三脚や水平な台を使用すると高さを調節できます。

3 ENTERボタンを押す

Auto Speaker Setup
Do not Unplug Setup Mic.
Please, be quiet.
Wait a moment, please.

（マイクを抜かないでください。静かにしてしばらくお待ちください。）

表示が出た後、自動設定を開始します。設定には約2分かかります。

（マイクを抜かないでください。静かにしてください。現在測定しているのは＊＊です。）

＊＊のところは、「Left」など測定中のスピーカーが表示されます。

接続したスピーカーからテスト音を出しながら、マイクで測定します。測定中に外部からの雑音が入ると正しく測定できないことがありますので、気をつけてください。

4

測定が完了すると測定完了画面が表示されます。

▲/▼ボタンで項目を選び、ENTERボタンを押す

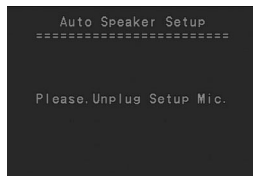
Apply the Results：
測定結果を反映して終了するときに選びます。
通常はこれを選び、手順***5***に進みます。

Check the Results：
測定結果を確認するときに選びます。下項「測定結果を確認するには」に進みます。

Retry:
再測定するときに選びます。
手順**2** に戻ります。
Retry with Test noise Level up:
テスト音の音量を上げて再測定するときに選びます。
手順**2** に戻ります。
Cancel:
測定結果を反映しないで終了するときに選びます。
手順**5** に進みます。

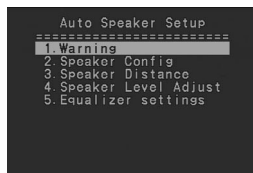
5

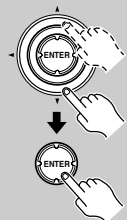
終了したら、マイクのプラグを抜く

途中で止めたい場合は、マイクのプラグを抜いてください。

（マイクを抜いてください。）

測定結果を確認するには

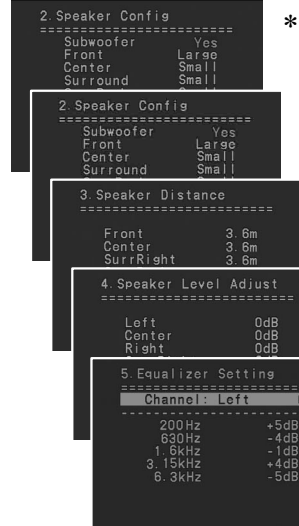
6

手順**4** で「Check the Results」を選ぶと確認画面が表示されます。

1. 注意
2. スピーカーの数と大きさ
3. 視聴位置からスピーカーまでの距離
4. 視聴位置から換算した各スピーカーの最適な音量
5. 各スピーカーごとの音域レベル

7

▲/▼ボタンで確認したい項目を選び、ENTERボタンを押す

測定された内容が表示されます。

- RETURNボタンを押すと、1つ前の画面に戻ります。

＊

＊ 該当する場合は、スピーカーの略称が表示されます。

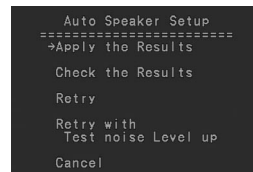
Not Detect：
スピーカーが検出されませんでした。接続を確認してください。

Distance Error：
設置位置が近すぎる/遠すぎる。または、距離が測定できなかった。

設定された内容を手動で変更したい場合は、42～46ページで設定します。

8

内容を確認したらRETURNボタンを押して、前項の手順4 の画面に戻る

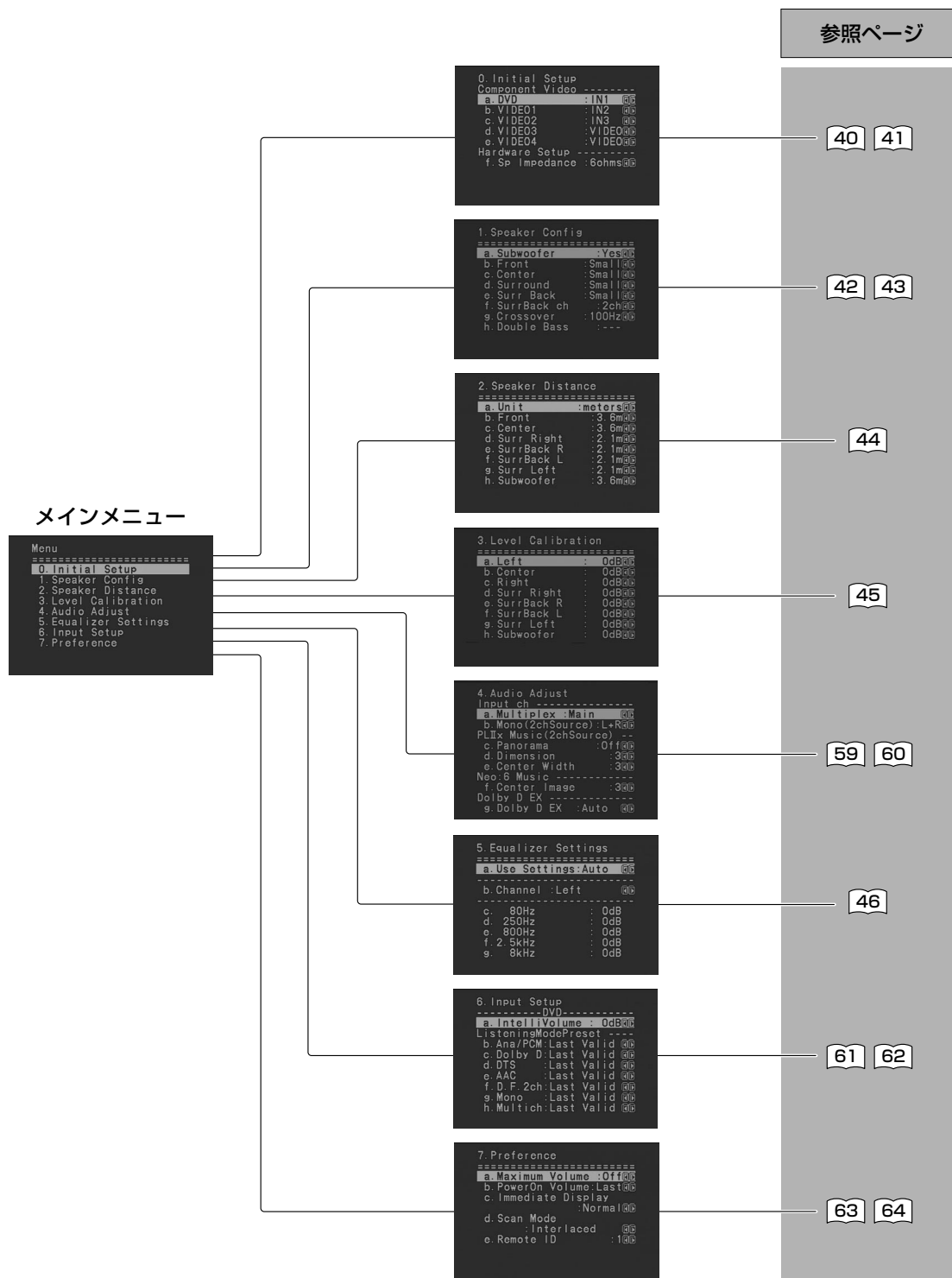
Auto Speaker Setup
→Apply the Results
Check the Results
Retry
Retry with Test noise Level up
Cancel

ご注意

使用環境によっては、正しく測定されないことがあります。再測定しても結果に変更がない場合は、手動でスピーカー設定を行ってください。（☞42～46ページ）

！ヒント

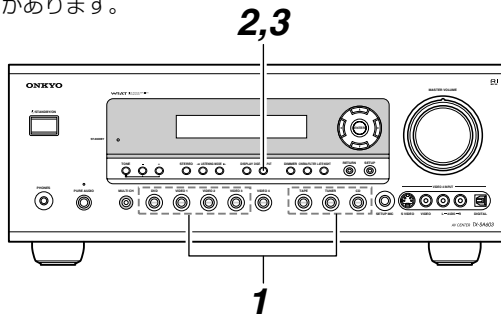
アンプ内蔵サブウーファーを接続している場合
サブウーファーの音声は、超低域で低い位置から出力されるために、簡単スピーカー設定で認識されない場合があります。測定結果を確認する画面で、サブウーファー（SW）が「Not Detect」に設定されるときは、サブウーファーの音量を八分目に、周波数を最大にした状態でご使用ください。また、カットオフフィルター切換スイッチがある場合は、「DIRECT」の状態にしてご使用ください。詳しくは、サブウーファーの取扱説明書をご覧ください。

OSDマップ

OSDとはOn Screen Display（オン スクリーン ディスプレイ）の略で、本機での設定や操作内容を接続したテレビなどのモニターに大きく表示して操作をしやすくする機能です。
簡単スピーカーの設定が完了したら、OSDで各設定を行ってください。

入力の設定をする

デジタル入力端子の設定

デジタル端子の接続は、ドルビーデジタルやDTSのリスニングモードを楽しむために必要です。各デジタル入力端子は、初期設定で以下の表のようにそれぞれの機器に割り当てられています。

- 接続した機器がデジタル入力端子の初期設定と異なる場合は、設定を変更する必要があります。
- 初期設定でデジタル端子が設定されている機器とアナログ接続のみをしたとき、設定を「－－－－」にする必要があります。

入力ソース	デジタル入力端子の初期設定
DVD	OPT 1
VIDEO 1	－－－－
VIDEO 2	－－－－
VIDEO 3	OPT 2
TAPE	－－－－
TUNER	－－－－
CD	－－－－

1

入力切換ボタンで割り当てたい入力を選ぶ

2

DIGITAL INPUT

DIGITAL INPUTボタンを押す

現在の設定が表示されます。

```
DVD          :OPT 1
```

VIDEO 4はフロントパネルのOPTデジタル入力として固定されているため、設定できません。

3

DIGITAL INPUTボタンを（くり返し）押して「接続した端子」を選ぶ

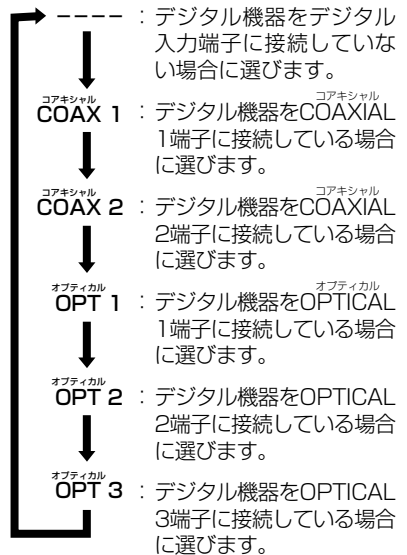
例: 本機後面のOPTICAL 2端子にCDプレーヤーを接続した場合

CDのデジタル入力端子の初期設定は「－－－－」(アナログ)のため、「OPT2」に設定を変更します。

DVDプレーヤーとアナログ接続のみをした場合

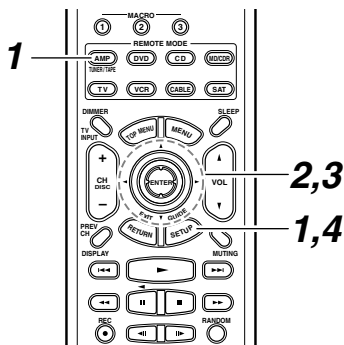
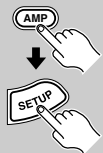
DVDのデジタル入力端子の初期設定はOPT 1のため、「－－－－」に設定を変更します。

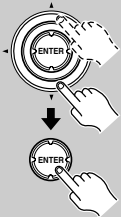
ボタンを押すたびに以下のように表示が切り換わります。

- －－－－ ：デジタル機器をデジタル入力端子に接続していない場合に選びます。
- COAX 1 ：デジタル機器をCOAXIAL 1端子に接続している場合に選びます。
- COAX 2 ：デジタル機器をCOAXIAL 2端子に接続している場合に選びます。
- OPT 1 ：デジタル機器をOPTICAL 1端子に接続している場合に選びます。
- OPT 2 ：デジタル機器をOPTICAL 2端子に接続している場合に選びます。
- OPT 3 ：デジタル機器をOPTICAL 3端子に接続している場合に選びます。

約3秒後に元の表示に戻り、設定が完了します。

映像端子（Component Video）の設定

D4 VIDEO OUT端子またはCOMPONENT VIDEO OUT端子にテレビなどのモニターを接続しているときに設定します。
ここで設定した映像入力端子からの映像が、D4 VIDEO OUT端子またはCOMPONENT VIDEO OUT端子から出力されます。
入力ソースごとに設定できます。

入力ソース	映像入力端子の初期設定
DVD	IN 1
VIDEO 1	IN 2
VIDEO 2	IN 3
VIDEO 3	VIDEO
VIDEO 4	VIDEO

1

AMPボタンを押してから
SETUPボタンを押して、
「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して
「0. Initial Setup」を選び、
ENTERボタンを押す

設定画面が表示されます。

3

▲/▼ボタンを押して
「設定する入力ソース」を選び、
◀/▶ボタンで設定を選ぶ

IN1：
映像機器をD4 VIDEO IN1端子またはCOMPONENT VIDEO IN1端子に接続した場合に選びます。

IN2：
映像機器をD4 VIDEO IN2端子またはCOMPONENT VIDEO IN2端子に接続した場合に選びます。

IN3：
映像機器をD4 VIDEO IN3端子またはCOMPONENT VIDEO IN3端子に接続した場合に選びます。

VIDEO：
映像機器をVIDEOまたはS VIDEO端子に接続した場合に選びます。

4

SETUPボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

本体のSETUPボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、ENTERボタンでも操作することができます。

スピーカーインピーダンスの設定をする

スピーカーインピーダンスの設定

この項目は簡単スピーカー設定（☞36ページ）では自動設定されていません。

接続したスピーカーのインピーダンス（Ω）を設定します。接続したスピーカーの中に１台でも4Ω以上6Ω未満のスピーカーがある場合はここで設定してください。
ご使用になるスピーカーの背面や取扱説明書でインピーダンス（Ω）をご確認ください。

ご注意

設定を変更するときは、必ず本機の音量を最小にしてください。

1

AMP（アンプ）ボタンを押してから SETUP（セットアップ）ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「0. Initial Setup（イニシャル セットアップ）」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

設定画面が表示されます。

3

▲/▼ボタンを押して「f. Sp Impedance（スピーカー インピーダンス）」を選び、◀/▶ボタンを押して「4 ohms（オーム）」または「6 ohms（オーム）」を選ぶ

4 ohms（オーム）：接続したスピーカーの中に１台でも4Ω以上6Ω未満のスピーカーがある場合に選択します。

6 ohms（オーム）：接続したスピーカーがすべて6Ω以上の場合に選択します。

4

SETUPボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

本体のSETUP（セットアップ）ボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、ENTER（エンター）ボタンでも操作することができます。

初期設定をする

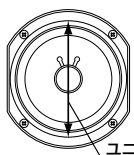
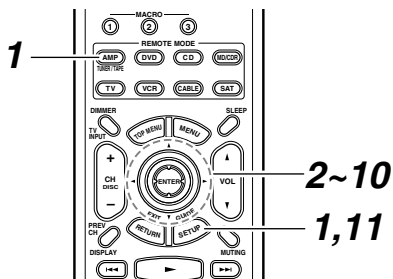
スピーカーの設定をする

この中の多くのメニューは簡単スピーカー設定（36ページ）で自動設定されています。簡単スピーカー設定の後に使用するスピーカーを変更した場合や手動で設定したい場合、簡単スピーカー設定で自動設定された内容を確認するときに使用します。
マルチチャンネル再生時やヘッドホンを接続しているときは、設定できません。

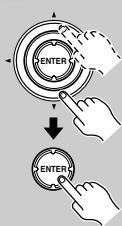
スピーカー環境の設定

簡単スピーカー設定(☞36ページ)を行った場合は、自動で設定されています。

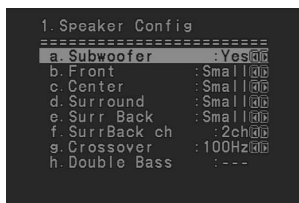
接続したスピーカーの「有/無」と「大きさ」を設定します。

スピーカーの大きさの目安

目安としては、ご使用のスピーカーのユニット部が直径16cm以上の場合は「Large」、それ以下の場合は「Small」を選んでください。

1

AMPボタンを押してからSETUPボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「1. Speaker Config（スピーカー環境)」を選び、ENTERボタンを押す

スピーカーコンフィグ設定画面が表示されます。

3

▲/▼ボタンを押して「a. Subwoofer」を選び、◀/▶ボタンでサブウーファーの「有/無」を選ぶ

Yes：サブウーファーを接続している場合
No：サブウーファーを接続していない場合

4

▲/▼ボタンを押して「b. Front」を選び、◀/▶ボタンでフロントスピーカーの大きさを選ぶ

Small：小型のフロントスピーカーを接続している場合
Large：大型のフロントスピーカーを接続している場合

ご注意

手順**3**で「No」を選択した場合は、「Large」に固定されます。

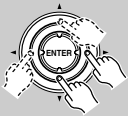
5

▲/▼ボタンを押して「c. Center」を選び、◀/▶ボタンでセンタースピーカーの設定をする

Small：小型のセンタースピーカーを接続している場合
Large：大型のセンタースピーカーを接続している場合
None：センタースピーカーを接続していない場合

ご注意

手順**4**で「Small」を選択した場合は、「Large」は選択できません。

6

▲/▼ボタンを押して「d. Surround」を選び、◀/▶ボタンでサラウンドスピーカーの設定をする

Small：小型の左右サラウンドスピーカーを接続している場合
Large：大型の左右サラウンドスピーカーを接続している場合
None：左右サラウンドスピーカーを接続していない場合

ご注意

手順**4** で「Small」を選択した場合は、「Large」は選択できません。

7

▲/▼ボタンを押して「e. Surr Back」を選び、◀/▶ボタンでサラウンドバックスピーカーの設定をする

Small：小型のサラウンドバックスピーカーを接続している場合
Large：大型のサラウンドバックスピーカーを接続している場合
None：サラウンドバックスピーカーを接続していない場合

ご注意

- 手順**6** で「None」を選択した場合は、この項目は選択できません。
- 手順**6** で「Small」を選択した場合は、「Large」を選択することはできません。

8

▲/▼ボタンを押して「f. SurrBack ch」を選び、◀/▶ボタンでサラウンドバックスピーカーの数を設定する

1ch：接続したサラウンドバックスピーカーが1つの場合（SURROUND BACK SPEAKERS L端子に接続してください。）
2ch：接続したサラウンドバックスピーカーが2つの場合

ご注意

手順**7** で「None」を選択した場合は、この項目は設定できません。

手順9 に続く

低音域の管理設定（クロスオーバー）

簡単スピーカー設定（☞36ページ）を行った場合は、自動で設定されています。

スピーカーが出力する低音域を設定します。

9

▲/▼ボタンを押して「g. Crossover」を選び、◀/▶ボタンで設定する

クロスオーバー設定値を環境に合った数値に設定します。

目安としてサブウーファーがある場合は、フロントスピーカーのユニット部の直径を、サブウーファーがない場合は「Small」に設定したスピーカーユニットの直径を目安にします。

ユニット部の直径	クロスオーバー設定値
20 cm 以上	60
16～20 cm	80
13～16 cm	100
9～13 cm	120
9 cm 以下	150

Double Bassの設定

この項目は簡単スピーカー設定（☞36ページ）では自動設定されていません。

サブウーファーを「Yes（有り）」にしていて、フロントスピーカーを「Large」に設定している場合、サブウーファーをさらに強調させることができます。

10

▲/▼ボタンを押して「h. Double Bass」を選び、◀/▶ボタンで設定する

On：サブウーファーを強調します。
Off：サブウーファーを強調しません。

11

SETUPボタンを押す

設定が終了したら、SETUPボタンを押します。メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るにはRETURNボタンを押してください。

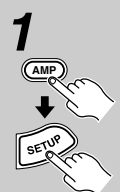
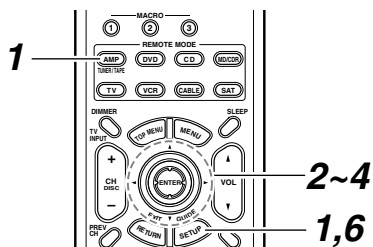
！ヒント

本体のSETUPボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、ENTERボタンでも操作することができます。

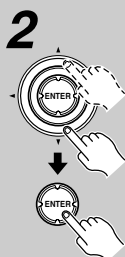
初期設定をする

視聴位置からスピーカーまでの距離設定（スピーカーディスタンス）

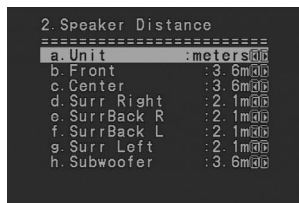
簡単スピーカー設定（☞36ページ）を行った場合は、自動で設定されています。

視聴位置からスピーカーまでの距離を設定します。
距離を設定することで、それぞれのスピーカーから視聴位置までの音の届く時間を一定にし、ホームシアターをより快適にお楽しみいただけます。

1

AMPボタンを押してからSETUPボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「2. Speaker Distance」を選び、ENTERボタンを押す

スピーカーディスタンス設定画面が表示されます。

ご注意

「1. Speaker Config（スピーカー環境）」の設定で、「No」または「None」を選択したスピーカーは、選択できません。

3

▲/▼ボタンを押して「a. Unit（単位）」を選び、◀/▶ボタンで設定する単位を選ぶ

meters：距離をメートルで設定する。0.3m単位で0.3mから9mの範囲で設定できます。

feet：距離をフィートで設定する。1ft単位で1ftから30ftの範囲で設定できます。

4

▲/▼ボタンを押して「b. Front」を選び、◀/▶ボタンで距離を設定する

フロントスピーカーから視聴位置までの実際に近い数値に設定します。

5

手順*4*をくり返し、接続したすべてのスピーカーの距離を設定する

c. Center→d. Surr Right→e. Surr Back R→f. Surr Back L→g. Surr Left→h. Subwoofer

!ヒント

- センタースピーカー、サブウーファーはフロントスピーカーで設定した距離の±1.5mの範囲で調整できます。
- 左右サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーはフロントスピーカーで設定した距離の−4.5mから＋1.5mの範囲で調整できます。たとえば、フロントスピーカーを6mに設定した場合、1.5mから7.5mの範囲で調整できます。

6

SETUPボタンを押す

すべてのスピーカーの設定が終わったらSETUPボタンを押します。メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るにはRETURNボタンを押してください。

！ヒント

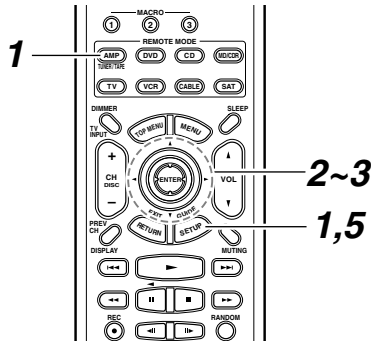
本体のSETUPボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、ENTERボタンでも操作することができます。

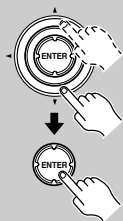
スピーカーの音量レベル調整（レベルキャリブレーション）

簡単スピーカー設定(☞36ページ)を行った場合は、自動で設定されています。

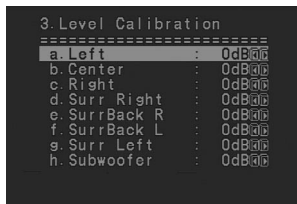
各スピーカーからのテスト音の音量が同じに聞こえるように、それぞれのスピーカーの音量レベルを設定します。スタンバイ状態にしても記憶しています。

- ミューティング中やヘッドホンを接続しているとき、マルチチャンネルを使用しているときは、設定できません。

1

AMPボタンを押してからSETUPボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「3. Level Calibration」を選び、ENTERボタンを押す

レベルキャリブレーション設定画面が表示され、「ザー」というテスト音が左フロントスピーカーより出力されます。

ご注意

「1. Speaker Config（スピーカー環境)」の設定で、「No」または「None」を選択したスピーカーは、設定できません。

3

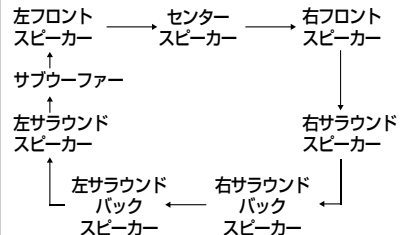
▲/▼ボタンでスピーカーを切り換え、◀/▶ボタンを押してテスト音を調整する

すべてのスピーカーのテスト音が同じ音量に聞こえるように調整します。

- −12dB〜+12ｄBの範囲で調整できます。
- サブウーファーは−15dB〜+12ｄBの範囲内で調整できます。

4

手順*3*をくり返し、接続したすべてのスピーカーのテスト音を調整する

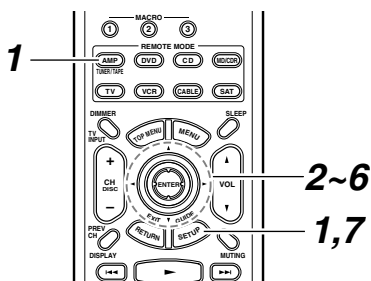
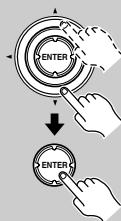
5

SETUPボタンを押す

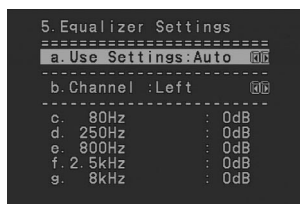
設定が終わり、メニュー画面が消えます。

TEST TONEボタンでテスト音を出して設定することもできます。この場合、LEVEL −/＋ボタンでテスト音を調整し、CH SELボタンでスピーカーを切り換えます。

スピーカーの音場補正

簡単スピーカー設定（☞36ページ）を行った場合は、自動で設定されています。

接続したスピーカーごとに、出力する音域の音量を調整できます。各スピーカーの音量は45ページで調整できます。ここでは、それぞれのスピーカーの音域別で音量を調整します。

1 AMPボタンを押してからSETUPボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2 ▲/▼ボタンを押して「5. Equalizer Settings」を選び、ENTERボタンを押す

イコライザー設定画面が表示されます。

3 ◀/▶ボタンを押して「設定」を選ぶ

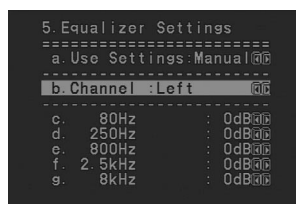
Off：すべての音域で同じ音量になります。

Auto：簡単スピーカーで設定された音量になります。

Manual：お好みで設定できます。

「Manual」を選んだ場合は、手順***4***に進みます。「Off」または「Auto」を選んだ場合は、手順***7***に進みます。

4 ▼ボタンを押し、◀/▶ボタンを押して「スピーカー」を選ぶ

5.Equalizer Settings
a.Use Settings:Manual
b.Channel :Left
c. 80Hz : 0dB
d. 250Hz : 0dB
e. 800Hz : 0dB
f. 2.5kHz : 0dB
g. 8kHz : 0dB

5 ▲/▼ボタンで「調整したい音域（周波数）」を選び、◀/▶ボタンで調整する

−6dB〜＋6dBの範囲で調整できます。

！ヒント

80Hzなど、低い周波数は低音域、8kHzなどの高い周波数は高音域を表します。

6 ▲ボタンを押して「Channel」を選び、◀/▶ボタンで「スピーカー」を選ぶ

手順***5,6***をくり返し、接続したすべてのスピーカーを設定します。

7 SETUPボタンを押す

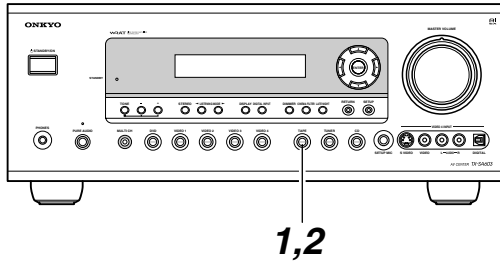
すべてのスピーカーの設定が終わったらSETUPボタンを押します。メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るにはRETURNボタンを押してください。

！ヒント

本体のSETUPボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、ENTERボタンでも操作することができます。

入力表示を切り換える（TAPE/MD/CDR）

オンキヨーのRI端子付きMDレコーダーやCDレコーダーを本機のTAPE端子に接続した場合、ダイレクトチェンジなどのシステム動作を正しく行うために、入力表示を切り換える必要があります。

1 入力切換ボタンの「TAPE」を押し、表示部に「TAPE」を表示させる

TAPE

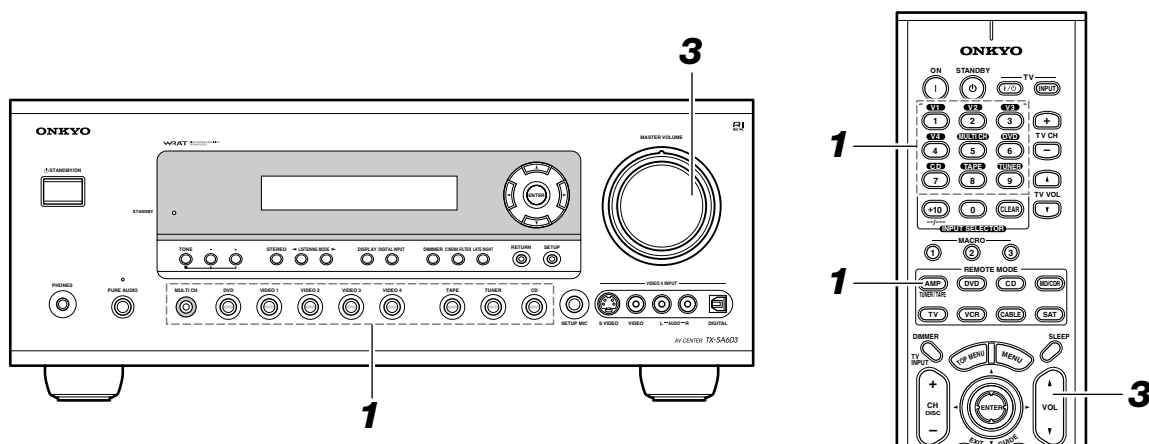
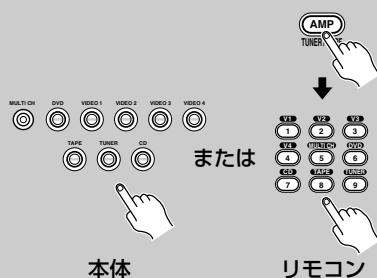
2 TAPEボタンを約3秒押し続けて、表示を切り換える

MD

CDR

この手順をくり返すと「TAPE」→「MD」→「CDR」→「TAPE」と表示が切り換わります。

映画・音楽を鑑賞する（基本編）

接続した機器を再生する

1

再生する機器を選ぶ

本体の入力切換ボタンを押します。または、リモコンのAMPボタンを押してからINPUT SELECTORボタンを押します。

！ヒント

リモコンのV1、V2、V3、V4ボタンは、VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3、VIDEO 4を表しています。

2

選んだ機器の再生を始める

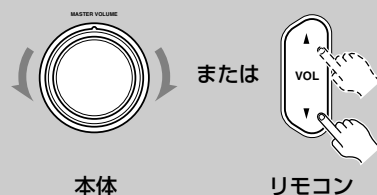
映像機器を再生する場合は、テレビなどモニターの入力を切り換える必要があります。
また、DVD対応のゲーム機などの再生機器で音声出力設定が必要な場合もあります。

3

MASTER VOLUME

VOL

または

本体　　リモコン

本体のMASTER VOLUMEつまみ、またはリモコンのVOLUME▲/▼ボタンで音量を調整する

音量は基本的にMin・1・2‥‥98・99・Maxまでの範囲で調整できます。

！ヒント

本機はホームシアターでお楽しみいただく製品ですので、ボリューム値を細かく設定できるように音量幅を大きく持たせています。お好みで調整してください。

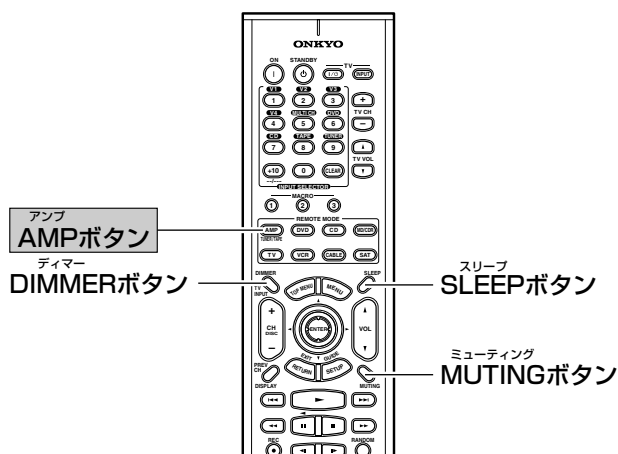
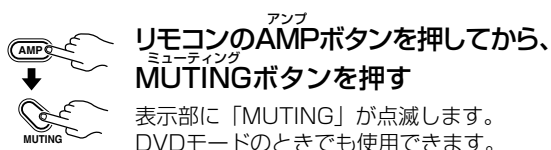
4

リスニングモードを楽しむ

詳しくは50ページをご覧ください。

一時的に音量を小さくする

リモコンのAMP（アンプ）ボタンを押してから、MUTING（ミューティング）ボタンを押す

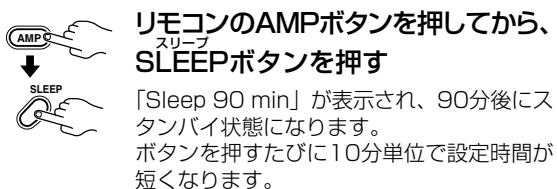
表示部に「MUTING」が点滅します。
DVDモードのときでも使用できます。

■解除するには

もう一度MUTINGボタンを押してください。

（音量を変えたり、STANDBY（スタンバイ）ボタンを押した場合にも解除されます。）

スリープタイマーを使う

リモコンのAMPボタンを押してから、SLEEP（スリープ）ボタンを押す

「Sleep 90 min」が表示され、90分後にスタンバイ状態になります。
ボタンを押すたびに10分単位で設定時間が短くなります。

- スリープタイマー設定中はSLEEPインジケーターが点灯します。

■残り時間を確認するには

スリープタイマーが予約されているときにSLEEPボタンを押すと、スタンバイ状態になるまでの残り時間が表示されます。ただし、残り時間が10分以下のときに再びSLEEPボタンを押すと、スリープタイマーは解除されます。

■スリープタイマーを解除するには

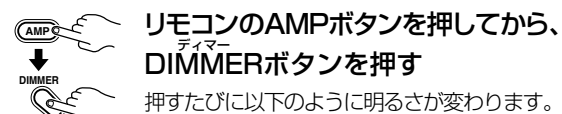
SLEEPインジケーターが消えるまで、くり返しSLEEPボタンを押すか、一度スタンバイ状態にしてから再度電源を入れるとスリープタイマーは解除されます。

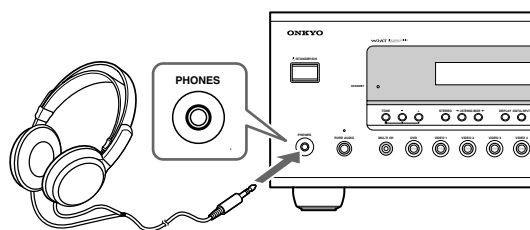
表示部の明るさを変える

表示部の明るさを変えることができます。本体のDIMMERボタンでも操作できます。

リモコンのAMPボタンを押してから、DIMMER（ディマー）ボタンを押す

押すたびに以下のように明るさが変わります。

明るい＊1 → 明るい＊2 → やや暗い＊2 → 暗い＊2 → 明るい＊1

＊1 MASTER（マスター） VOLUME（ボリューム）つまみのまわりのライトが点灯
＊2 MASTER VOLUMEつまみのまわりのライトが消灯

ヘッドホンで聞く

PHONES（フォーンズ）端子にヘッドホンのステレオ標準プラグを接続する

- 接続する時は音量を下げてください。
- ヘッドホン使用中はスピーカーからの音が消えます。
- 「Pure Audio（ピュア オーディオ）」、「Mono（モノ）」または「Direct（ダイレクト）」以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的に「Stereo（ステレオ）」になります。
- ヘッドホン接続時は、「Pure Audio」、「Mono」、「Direct」または「Stereo」のリスニングモードが選択できます。
- マルチチャンネル入力を選んでいるときは、左右フロントチャンネルの音声のみ聞こえます。
- ヘッドホンレベルを調整するには、リモコンのCH SEL（チャンネルセレクト）ボタンを押して、LEVEL（レベル）＋/－ボタンを押します。
  －12dB～＋12dBの範囲で調整できます。スタンバイ状態にしても設定を記憶しています。

映画・音楽を鑑賞する（基本編）

リスニングモードを使う

リスニングモードを選ぶ

本体のボタンで選ぶ

1

入力切換ボタンを押して、再生する機器を選ぶ

2

選んだ機器を再生する

3

または

または

STEREO ボタン、LISTENING MODE◀/▶ボタンまたはPURE AUDIOボタンでリスニングモードを選ぶ

PURE AUDIO：
リスニングモードを「Pure Audio」に切り換えます。Pure Audioオインジケーターが点灯します。
このモードでは、表示部が消灯します。また、ビデオ回路の電源を切るため、映像が出なくなります。

LISTENING MODE◀/▶：
対応できるすべてのリスニングモードに切り換えます。

STEREO：
リスニングモードを「Stereo」に切り換えます。

LISTENING MODE◀/▶ボタン

リスニングモード（Pure Audio → Direct → Stereo → Mono → Surround → オンキヨー独自のDSP）

PLIIx, Neo:6, Dolby D, Dolby D EX, DTS/DTS 96/24, DTS-ES, AACなど

リモコンで選ぶ

1

AMPボタンを押してからINPUT SELECTORボタンを押して、再生する機器を選ぶ

2

選んだ機器を再生する

3

リスニングモードボタンを押してリスニングモードを選ぶ

SURR：
Dolby DigitalやDTSのリスニングモードに切り換えます。

ALL ST：
リスニングモードを「All Ch Stereo」に切り換えます。

STEREO：
リスニングモードを「Stereo」に切り換えます。

PURE A：
リスニングモードを「Pure Audio」に切り換えます。Pure Audioインジケーターが点灯します。
このモードでは、表示部が消灯します。また、ビデオ回路の電源を切るため、映像が出なくなります。

DIRECT：
リスニングモードを「Direct」に切り換えます。

DSP◀/▶：
オンキヨー独自のリスニングモードと、「Mono」を選びます。

入力信号の種類と対応するリスニングモード

入力信号の種類	PCM[*1] または アナログ	Dolby Digital				DTS/DTS 96/24[*2]				AAC				マルチチャンネル
		3/2 2/2	2/0	1/0,1+1	その他	3/2.1	2/0	DTS-ES Discrete	DTS-ES Matrix	3/2 2/2	2/0	1/0,1+1	その他	
主なソース ／ リスニングモード	カセット/CD ビデオ ラジオ テレビなど	DVD、ビデオなど				DVD、ビデオ、CDなど				BSデジタル放送など				DVD
Pure Audio Direct	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
Stereo Mono	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
Multich														○
PLIIx Movie/Music/Game[*3] Neo:6 Cinema Neo:6 Music[*4]	○		○				○				○			
AAC: AAC										○			○	
AAC: AAC+Dolby EX AAC+PLIIx Music										○				
AAC: AAC+PLIIx Movie										○				
Dolby: Dolby D		○			○									
Dolby: Dolby D EX Dolby D+PLIIx Music		○												
Dolby: Dolby D+PLIIx Movie		○												
DTS: DTS, DTS 96/24						○		○[*5]						
DTS: DTS-ES Discrete								○						
DTS: DTS-ES Matrix									○					
DTS: DTS+Neo:6 DTS+Dolby EX DTS+PLIIx Music						○								
DTS: DTS+PLIIx Movie						○								
オンキヨー独自のリスニングモード: Mono Movie Orchestra Unplugged Studio-Mix TV Logic All Ch Stereo Full Mono	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	

サラウンドバックスピーカーを1つ以上接続しているときに選べます。

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。

＊1. Pure AudioとDirectのとき、PCMでサンプリング周波数が32、44.1、48kHzの場合はそれぞれ64、88.2、96kHzとして処理されます。また、サンプリング周波数が96kHzの場合、Pure Audio, Direct、Stereo以外では48kHzとして処理されます。
＊2. DTS 96/24として処理されます。これ以外は通常のDTSとして処理されます。
＊3. サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、PLIIになります。
＊4. サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。
＊5. サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、DTSになります。

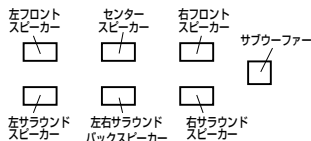
！ヒント
入力信号の種類は、DISPLAYボタンを押して表示部で確認することができます。
AACなどで多重音声の場合は60ページのMultiplexの設定で主音声または副音声を選択します。

聴きたいリスニングモードが選べない

- デジタル接続はしましたか？（☞22～30ページ）
  ドルビーデジタルやDTSのリスニングモードを楽しむときは、デジタル接続をする必要があります。
- 再生機器側のデジタル出力設定は、正しいですか？
  ドルビーデジタルやDTSロゴのついたDVDの本編を再生中に、本機のPCM表示が点灯していたら、再生機器側のデジタル出力設定がPCMになっている場合があります。再生機器側で他の信号も出力するように設定してください。

リスニングモードの種類について

本機のリスニングモードを使うと、お部屋にいながら映画館やコンサートホールなどの臨場感あふれる雰囲気を味わって頂けます。本機には以下のリスニングモードがあります。

> 下のイラストは、そのリスニングモード時に出力されるスピーカーを表します。
>
> 左フロントスピーカー　センタースピーカー　右フロントスピーカー　サブウーファー
>
> 左サラウンドスピーカー　左右サラウンドバックスピーカー　右サラウンドスピーカー

Direct（ダイレクト）

もともとの音源に手を加えない、ピュアな音をお楽しみいただけます。

Pure Audio（ピュア オーディオ）

Direct（ダイレクト）モードに加え、表示部を消してビデオ回路の電源を切り、ノイズの発生源をできるだけ最小限にすることで、より原音に忠実な音楽再生を行います。（ビデオ回路の電源を切るため、映像が出なくなります。）

Mono（モノ）

モノラル信号で収録された古い映画を再生したり、2種類の言語が記録されているソースを左右のチャンネルを独立して再生するモードです。DVDなどに記録された音声多重のサウンドトラックを再生できます。

Stereo（ステレオ）

左右フロントスピーカーとサブウーファーから出力されます。

Dolby Pro Logic II（ドルビー プロ ロジック）

2チャンネルで収録されたソースを5.1チャンネルで再生するモードです。映画に最適なMovie（ムービー）モード、音楽再生に最適なMusic（ミュージック）モードとゲームに最適なGame（ゲーム）モードの3つのモードが選択できます。Movieモードでは、従来モノラルで帯域の狭かったサラウンドチャンネルがステレオ再生になり、それぞれ独立した音を出すため、より移動感のある再生が楽しめます。DOLBY SURROUND マークのついたVHSやDVDビデオ、または一部のテレビ番組再生時に楽しむことができます。また、Musicモードでは、2チャンネルの音楽に対しても自然な音場感をサラウンドチャンネルより再生します。CDなどのステレオ音楽や、ライブを記録したDVDにも適しています。Gameモードでは、ステレオ入力されたゲーム機の音声から立体感のある音場を作り出します。

Dolby Pro Logic IIx（ドルビー プロ ロジック）

サラウンドバックスピーカーを接続しているとき、2チャンネルや5.1チャンネルの音楽や映画を7.1チャンネルで再生できます。明瞭なサウンドはそのままに、かってないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。CDや映画に加えて、ゲームソフトの再生もドラマチックな空間演出、鮮明な音像定位などが得られます。映画に最適なMovieモードと音楽再生に最適なMusicモード、信号の移動感を最大限に発揮するGameモード（2チャンネル入力時のみ）が選べます。

Neo:6（ネオ）

2チャンネルで収録されたソースを6.1チャンネルで再生するモードです。6チャンネルすべてに広い周波数帯域が確保され、チャンネル間の独立性も優れています。映画に最適なCinema（シネマ）モードと音楽再生に最適なMusicモードの2つのモードがあります。Cinemaモードでは、6.1チャンネルのソースとしてリアルな移動感にあふれたサラウンドが再現されます。音声がステレオのVHSやDVDビデオ、テレビ番組に使用します。Musicモードでは、サラウンドチャンネルを使用することで通常のステレオ出力では得られない自然な音場を生み出します。2チャンネルの音楽に対しても自然な音場感をサラウンドチャンネルより再生します。Musicモードは音声がステレオのCDなどに適しています。

Dolby Digital（ドルビー デジタル）

劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドが体験できるサラウンドモードです。DOLBY DIGITAL マークのついたDVD、LDなどの再生時に楽しむことができます。

Dolby Digital EX（ドルビー デジタル）

5.1チャンネルに背面のサラウンドバックチャンネルを増やし、6.1チャンネルにすることで、より空間表現力を高め、360度の回転や頭上を通過するような移動音効果をリアルに体感できます。サラウンドバックチャンネルの音声は左右サラウンドチャンネルに振り分けられるため、通常の5.1チャンネル環境で再生することも可能です。5.1チャンネルで記録された DOLBY DIGITAL マークのついたDVD,LDの再生時に楽しむことができます。

DTS

限りなく原音に忠実なサラウンドを再現するデジタルサラウンド方式です。完全に分離させた5.1チャンネルで膨大となる音声データを、可能な限り原音に近い状態で圧縮したデジタルデータです。極めて高音質の音声を提供します。再生するにはDTS出力が可能なDVDプレーヤーが必要です。dts マークのついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS 96/24

dts 96/24 マークのついたCD、DVD、LDなどに使用できるリスニングモードです。きめ細やかな音声をお楽しみいただけます。

DTS-ES Discrete（ディスクリート）

DTSにサラウンドバックを追加した、6.1チャンネルサラウンドです。DTS6.1チャンネル収録ソフトに対応しています。
追加されたサラウンドバックチャンネルを含めて6.1チャンネルすべてが完全に独立してデジタル記録されているため、立体感、移動感などがより鮮明に再現できます。dts ES のついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS-ES Matrix

DTSにサラウンドバックを追加した、6.1チャンネルサラウンド。DTS5.1チャンネル収録ソフトを6.1チャンネル再生します。
DTS5.1チャンネル収録ソフトにはサラウンドバックチャンネルの情報も組み込まれているため、それぞれのチャンネルを6.1チャンネルに復元して再生します。
マークのついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS ＋ Neo:6

DTSの5.1チャンネルで収録されたソースをNeo:6技術を使って6.1チャンネルで再生します。マークやマークのついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS ＋ Dolby EX

DTSの5.1チャンネルで収録されたソースをDolby EX技術を使って6.1チャンネルで再生します。
マークやマークのついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

AAC

MPEG-2 AAC方式で圧縮されたデジタルデータで、最大5.1チャンネルのサラウンド音声を提供します。
BSデジタル放送などのAACソースを再生するために使用します。

AAC ＋ Dolby EX

MPEG-2 AAC方式で圧縮されたデジタルデータを6.1チャンネルで再生します。

■オンキヨー独自のリスニングモード

Mono Movie

古い映画などモノラル信号の映画ソースを再生するのに適したモードです。センターチャンネルからはそのままの音声を、他のスピーカーからは適度に残響処理を施したセンター音を出力します。
モノラルでも臨場感をお楽しみ頂けます。

Orchestra

クラシックやオペラに適したモードです。
音声イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調。大ホールで聞いているような自然な響きが楽しめます。

Unplugged

アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聞いているような音場イメージをつくります。

Studio-Mix

ロック、ポピュラーミュージックなどに適したモードです。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドは、あなたをあたかもクラブハウスにいるような気分にするでしょう。

TV Logic

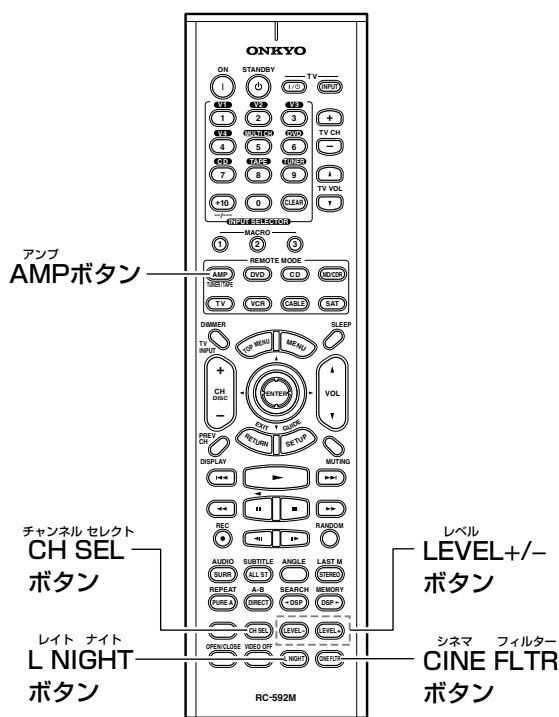
放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモードです。
局のスタジオにいるような臨場感を高めます。すべてのサラウンド音声を強調し、会話音声を明瞭にします。

All Ch Stereo

BGMとして音楽をかけるときに便利なモードです。左フロントスピーカー、左サラウンドスピーカー、左サラウンドバックスピーカーからは左フロントの音声を、右フロントスピーカー、右サラウンドスピーカー、右サラウンドバックスピーカーからは右フロントの音声を出力します。、センタースピーカーからは左右フロントの音声を両方出力し、ステレオイメージを作ります。

Full Mono

すべてのスピーカーからモノラル音声で再生されます。どの場所にいても同様の音楽を聞くことができます。

映画・音楽を鑑賞する（応用編）

レイトナイト機能を使う（ドルビーデジタルのみ）

劇場用に作られた映画音声は大きな音と小さな音の差が大きいため、環境音や人の会話などの小さな音を聞くには音量を上げる必要があります。レイトナイト機能は音量幅を小さくすることができるため、全体の音量を上げずに小さな音も聞こえます。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するときに便利です。
この機能は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

1

AMPボタンを押してから、L NIGHTボタンを（くり返し）押す

Late Night:Off

Off ：レイトナイト機能をオフにします。
Low ：音量幅を小さくします。
High ：音量幅をさらに小さくします。

ご注意

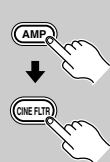
- レイトナイト機能は、ドルビーデジタルソフトにのみ効果があります。
- レイトナイト効果は、ドルビーデジタルソフトによって効果が少なかったり、効果がない場合もあります。

！ヒント

本体のLATE NIGHTボタンでも操作できます。

シネマフィルター機能を使う

高音域が強調されたサウンドトラックをホームシアター用に補正します。フロントスピーカーからの高音域が強すぎる場合に設定します。シネマフィルターの設定は、リスニングモードがDolby Digital、Dolby Digital EX、Dolby Pro Logic II Movie、Dolby Pro Logic IIx Movie、DTS、DTS-ES、DTS+Neo:6、DTS Neo:6 Cinema、DTS 96/24、DTS＋Dolby EX、AAC、AAC＋Dolby EXの場合に働きます。

1

AMPボタンを押してから、CINE FLTRボタンを（くり返し）押す

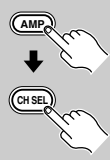
On ：高音域の補正をします。
Off ：シネマフィルター機能をオフにします。

！ヒント

本体のCINEMA FILTERボタンでも操作できます。

スピーカーの音量を一時的に調整する

再生中、一時的に各スピーカーの音量をお好みに調整することもできます。本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

1

AMPボタンを押してから、CH SELボタンを押して、調整するスピーカーを選ぶ

ご注意

接続していないスピーカーは調整できません。

2

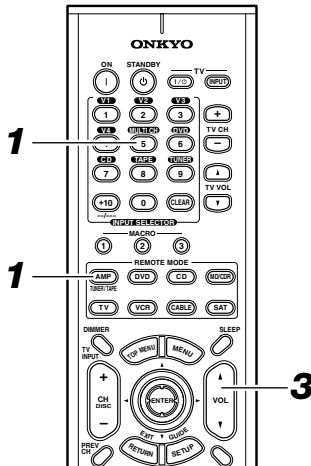
LEVEL＋/－ボタンを押して、音量を調整する

－12dB～＋12dBの範囲で調整できます。
サブウーファーは－15dB～＋12dBの範囲で調整できます。

マルチチャンネル接続した機器を再生する

DVDプレーヤーとマルチチャンネル接続をしている場合、DVDオーディオやスーパーオーディオCDなどの再生をお楽しみいただけます。24ページの通り正しく接続されていることを確認してください。

マルチチャンネル再生をする

1

AMPボタンを押してからMULTI CHボタンを押して、「MULTI CH」表示を点灯させる

MULTI CH
DVD

2

DVDプレーヤーを再生する

「スピーカー環境の設定（☞42ページ）に関係なく、左右フロント、センター、左右サラウンドスピーカーから音が出ます。

3

VOLUME▲/▼ボタンで音量を調整する

音量は基本的にMin･1･2･･･98･99･Maxまでの範囲で調整できます。

！ヒント

本体の入力切換ボタン、MASTER VOLUMEつまみでも操作できます。

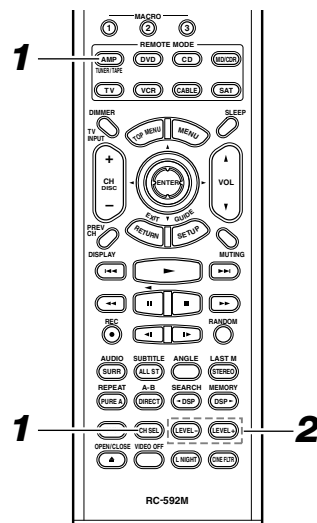
ご注意

「Multich」を選んでいるときは、DirectとPure Audioのリスニングモードを選ぶことができます。また、それ以外のリスニングモードを使用中に「Multich」にすると、リスニングモードは解除されます。

マルチチャンネル再生時の
スピーカー音量を調整する

マルチチャンネル音声を再生中、各スピーカーの音量をお好みに調整することができます。スタンバイ状態にしても設定を記憶しています。

ご注意

マルチチャンネル音声の各スピーカーレベルは、45ページのテストトーンで設定するスピーカーレベルとは異なります。マルチチャンネル再生以外での再生時には反映されません。

■ リモコンで操作するには

1

AMPボタンを押してからCH SELボタンを押して、調整するスピーカーを選ぶ

CH SELボタンを押すたびに、次の順でスピーカーが切り換わります。

左フロントスピーカー → センタースピーカー → 右フロントスピーカー → 右サラウンドスピーカー → 左サラウンドスピーカー → サブウーファー → 左フロントスピーカー

2

LEVEL＋/－ボタンを押して、音量を調整する

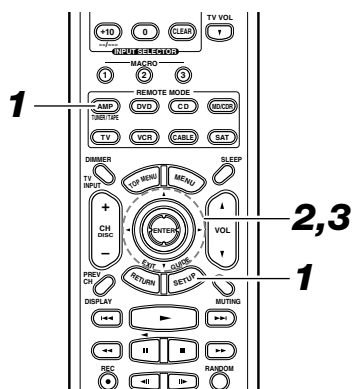
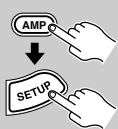
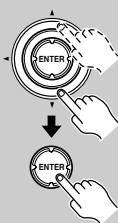
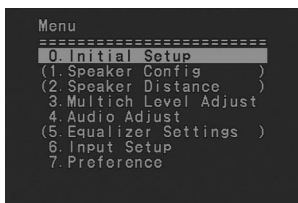
－12dB～+12dBの範囲で調整できます。

- サブウーファーは－30ｄB～+12ｄBの範囲で調整できます。

■メニュー画面で操作するには

1

AMPボタンを押してから、
SETUPボタンを押して、
「メインメニュー」を表示させる

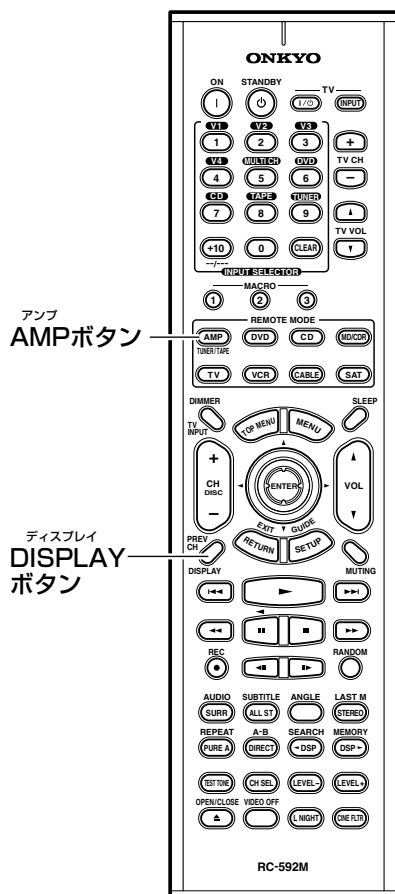
2

▲/▼ボタンを押して
「3. Multich Level Adjust」を
選び、ENTERボタンを押す

マルチチャンネルレベル設定画面が表示されます。

3

▲/▼ボタンを押してスピーカーを切り換え、◀/▶ボタンを押して音量を調整する

－12dB～＋12dBの範囲で調整できます。
サブウーファーは－30dB～＋12dBの範囲で調整できます。

表示を確認する

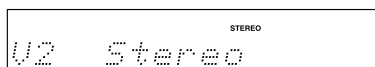
1

AMP（アンプ）ボタンを押してから、DISPLAY（ディスプレイ）ボタンを押す

本体のDISPLAYボタンでも操作できます。

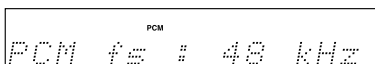
- 入力されている信号により、表示される内容は異なります。
- DISPLAYボタンを押すたびに、表示内容が右記のように切り換わります。

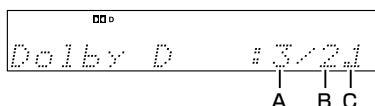
● 入力信号がアナログのとき

入力ソースと音量 ←→ リスニングモード

STEREO
V2 Stereo

● 入力信号がPCMのとき

入力ソースと音量 → サンプリング周波数 *1 → 入力ソースとリスニングモード → サンプリング周波数 *1 → 入力ソースと音量

PCM
PCM fs : 48 kHz

● 入力信号がPCM以外のデジタル信号のとき

入力ソースと音量 → 入力信号とフォーマット *1,2 → 入力ソースとリスニングモード → 入力信号とフォーマット *1,2 → 入力ソースと音量

*1 入力信号にプログラム情報がないときは、表示されません。サンプリング周波数やフォーマット表示状態で、約3秒経過すると、元の表示に戻ります。

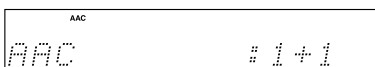
*2 フォーマット表示の意味

A :入力信号に含まれているフロントチャンネルの数
- 3: 左フロント、センター、右フロントスピーカーの3チャンネル
- 2: 左フロント、右フロントスピーカーの2チャンネル
- 1: モノラル（1チャンネル）

B :入力信号に含まれているサラウンドチャンネルの数
- 3: 左サラウンド、右サラウンド、サラウンドバックスピーカーの3チャンネル
- 2: 左サラウンド、右サラウンドスピーカーの2チャンネル
- 1: モノラル（1チャンネル）

C :入力信号に含まれているLFE（低域効果音）の有無
- 1: あり
- : なし

たとえば、「3/2.1」と表示された場合は、フロント3チャンネルとサラウンド2チャンネル、それにLFEがそれぞれ独立して記録されたソースで、5.1チャンネルソースであることを表しています。

● 入力信号がAACの音声多重放送（2ヶ国語放送など）のとき

録音・録画する

あなたが録音・録画したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

ご注意

- サラウンド効果は録音されません。
- 著作権保護されたDVDなどはデジタル録音・録画できません。
- マルチチャンネル音声は録音できません。
- DIGITAL IN（COAXIAL）または（OPTICAL）の入力端子から入力されたデジタル信号は、DIGITAL OUT（OPTICAL）の出力端子からのみ出力されます。
- デジタル信号の録音・録画については制約があります。デジタル録音するときは、録音機器の取扱説明書もご覧ください。
- デジタル音声入力はデジタル音声出力のみ、アナログ音声入力はアナログ音声出力にのみ出力されます。
- DTS対応のCDやLDをアナログ録音すると、DTS信号はノイズとして録音されることになります。
- VIDEO IN 1端子に入力された映像や音声は、VIDEO 1 OUT端子に出力されません。同様にTAPE IN端子に入力された音声は、TAPE OUT端子に出力されません。これは出力と入力にループができて故障するのを防ぐためです。
- リスニングモードが「Pure Audio」のときは、ビデオ回路の電源がオフになるため映像が出力されません。録画するときは、他のリスニングモードを選んでください。

再生しながら録画する

現在再生中の音楽や映画を録画します。

1 入力切換ボタンを押して録画する機器（再生側）を選ぶ

2 録画する機器（録画側）の準備をする

- 録画する機器を録画待機状態にします。
- 録音レベルの調整は録画機器で行ってください。
- 録画のしかたについては、録画機器の取扱説明書をご覧ください。

3 録画を始める

手順***1*** で選んだ再生機器を再生します。

異なるソースの音楽と映像を録音・録画する

あるソースの音を別のソースの映像に加えて、オリジナルビデオが作成できます。以下の手順は、CD端子に接続したCDプレーヤーの音声とVIDEO 4 INPUT端子に接続したビデオカメラの映像をVIDEO 1 OUT端子に接続したビデオデッキで録音･録画する例です。

1 録音する機器（再生側）の準備をする

例：VIDEO 4 INPUT端子に接続したビデオデッキにテープをセットする

2 VIDEO 1 OUT端子に接続したビデオデッキにテープをセットする

3 入力切換ボタンの「VIDEO 4」を押す

4 入力切換ボタンの「CD」を押す

音声出力はCDに変わりますが、映像出力は手順***3*** で選んだVIDEO 4のまま変わりません。VIDEO 1 OUT端子に接続したビデオデッキで録画を開始し、VIDEO 4 INPUT端子に接続したビデオカメラとCDプレーヤーの再生を始めます。
映像はビデオカメラから録画し、音声はCDプレーヤーから録音されます。

ご注意

この方式で録音できるのはTUNER、TAPE、CD端子に接続した機器の音声のみです。

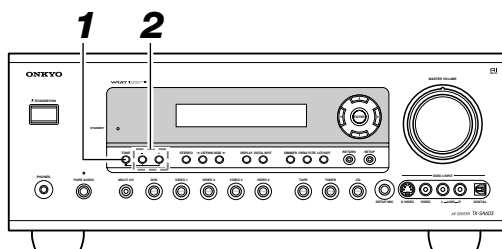
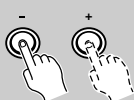
設定をする（リスニングモード編）

低音、高音（Bass、Treble）を調整する

「Direct」、「Pure Audio」以外のリスニングモード時に左右フロントスピーカーのみ音質を調整することができます。

1

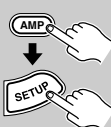
TONEボタンをくり返し押して、「Bass（低音）」または「Treble（高音）」を選ぶ

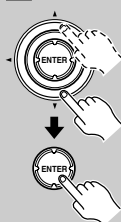
2

TONE＋/－ボタンを押して、レベルを調整する

お買い上げ時は「0」ですが、－10dB～＋10dBの範囲内で2dBずつ調整できます。

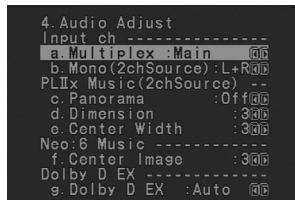
音響効果を調整する

リスニングモードや接続した機器によって音響効果をお好みに調整しておくことができます。

1

AMPボタンを押してから
SETUPボタンを押して、
「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して
「4. Audio Adjust」を選び、
ENTERボタンを押す

設定画面が表示されます。

3

▲/▼ボタンを押して設定したい「項目」を選び、◀/▶ボタンで調整する

4

SETUPボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

本体のSETUPボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、ENTERボタンでも操作することができます。

Input Channel設定

a. Multiplex

多重音声や多重言語の放送などで音声や言語を選択します。
DISPLAYボタンを押して表示部に音声の数が「1＋1」と表示されたら、音声多重放送です。

Main ：主音声を出力します。（お買い上げ時の設定）
Sub ：副音声を出力します。
Main/Sub ：主音声と副音声の両方を出力します。

b. Mono（2ch source）

2チャンネルで記録されたドルビーデジタルなどのデジタル信号やアナログ/PCM信号を、「Mono」リスニングモードで再生するときに使用する信号チャンネルを設定します。

L＋R ：左右チャンネルの信号両方を再生します。（お買い上げ時の設定）
Left ：左チャンネルの音声を再生します。
Right ：右チャンネルの音声を再生します。

PLIIx Musicの設定

2チャンネルで記録されたドルビーデジタルなどのデジタル信号やアナログ/PCM信号を、「PLIIx Music」リスニングモードで再生するときの設定をします。
サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、「PLIIx」は「PLII」と表示されます。

c. Panorama

音場を横方向に広げることができます。

On：パノラマ効果を「オン」にします。
Off：パノラマ効果を「オフ」にします。（お買い上げ時の設定）

d. Dimension

音場を前方または後方へ移動させることができます。お買い上げ時は「3」に設定されています。

！ヒント

- 「3」を中心に、「2」、「1」、「0」にすると後方へ、「4」、「5」、「6」にすると前方へ移動します。
- 広がり感がありすぎたり、サラウンドが強すぎる場合は、音場を前方に調整するとバランスが良くなります。逆にモノラル感や音場が狭い感じの場合は、音場を後方に調整するとバランスが良くなります。

e. Center Width

センタースピーカーの音の広がり幅を調整することができます。
Dolby Pro Logic IIx では、センタースピーカーがある場合はセンターチャンネルの信号をセンタースピーカーからのみ出力します。（センタースピーカーがない場合は、左右フロントスピーカーに等分に振り分け、幻想のセンター音像を作ります。）この設定では、センタースピーカーと左右フロントスピーカーの配合を調整し、センターの音の重量感を調整することができます。
お買い上げ時の設定は「3」ですが、0〜7の範囲で選択できます。

Neo：6 Musicの設定

f. Center Image

「Neo:6 Music」は、2チャンネルで収録されたソースを6チャンネルで再生するリスニングモードで、左右フロントチャンネルからいくらか差し引いた音声を使ってセンターチャンネルの音声を作り出します。
どの程度音声を差し引いてセンターチャンネルのイメージを作るかを調整します。
お買い上げ時の設定は「3」ですが、0〜5の範囲で選択できます。

！ヒント

- 「0」は左右のチャンネルから半分（−6dB）差し引いてセンターイメージを作るため、より中央に寄った感じになります。視聴位置が中央からかなりずれている場合に便利です。
- 「5」は左右のチャンネルから音声が差し引かれないため元のステレオ音声のバランスのまま出力されます。

Dolby D EXの設定

g. Dolby D EX

ドルビーデジタルEX信号の再生方法を設定します。
サラウンドバックスピーカーを接続していないときは、設定できません。

Auto ：ドルビーデジタルの6.1チャンネル識別信号があるときは、Dolby Digital EXに切り換わり、6.1チャンネル再生をします。（お買い上げ時の設定）
Manual：「PLIIx Movie」、「PLIIx Music」、「Dolby Digital」または「Dolby Digital EX」から選べます。

設定の操作方法については、59ページをご覧ください。

入力ソースの設定をする

よく使うリスニングモードを設定しておく

入力される信号によって、よく使うリスニングモードを設定しておくことができます。
再生中に切り換えることもできますが、一度スタンバイ状態にすると設定されたモードに戻ります。

1

AMP（アンプ）ボタンを押してからSETUP（セットアップ）ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「6. Input Setup（インプット セットアップ）」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

3

INPUT SELECTOR（インプット セレクター）ボタンで入力ソースを選ぶ

デジタル接続をしていない入力ソースは、「b. Analog（アナログ）」のみ表示されます。

▷次ページに続く

4

▲/▼ボタンを押して「設定したい信号の種類」を選び、◀/▶ボタンでリスニングモードを選ぶ

選択できるリスニングモードは設定する入力信号によって異なります。

- 「Surround」を選ぶと、60ページで設定されているリスニングモードになります。
- 「Last Valid」はリスニングモードを固定せず、最後に選択したモードを優先します。

b. Ana/PCM

CDなどのPCM信号やレコード、カセットテープなどのアナログ信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

c. Dolby D

ドルビーデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

d. DTS

DTS信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

e. AAC

AAC信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

f. D. F. 2ch

2チャンネルで記録されたドルビーデジタルなどのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

g. Mono

モノラルで記録されたドルビーデジタル、AACなどのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

h. Multich

入力がDVD/MULTICHのときのみ表示されます。5.1chアナログマルチチャンネルを再生するときのリスニングモードを設定します。

5

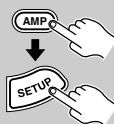
SETUPボタンを押す

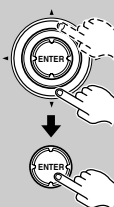
設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

本体のSETUPボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、ENTERボタンでも操作することができます。

機器間の音量差を減らす（IntelliVolume）

1

AMPボタンを押してからSETUPボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「6. Input Setup」を選び、ENTERボタンを押す

```
6. Input Setup
----------DVD-----------
 a. IntelliVolume : 0dB
ListeningModePreset ----
 b. Ana/PCM:Last Valid
 c. Dolby D:Last Valid
 d. DTS    :Last Valid
 e. AAC    :Last Valid
 f. D. F. 2ch:Last Valid
 g. Mono   :Last Valid
 h. Multich:Last Valid
```

3

INPUT SELECTORボタンで入力ソースを選ぶ

4

▲/▼ボタンで「IntelliVolume」を選び、◀/▶ボタンで選択する

本機に複数の機器を接続している場合、本機のボリューム位置が同じでも機器によって再生するときの音量に差が出ることがあります。
この画面を表示させたまま、入力ソースを切り換えて音量を聞き比べながら設定すると便利です。
他の機器と比べて音量が大きい場合は◀ボタン、小さい場合は▶ボタンを押して調整します

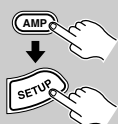
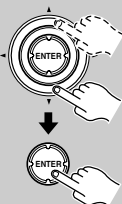
- −6dB〜+6dBの範囲で調整できます。

設定をする（応用編）

お好みの設定をする

1

AMPボタンを押してから SETUPボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「7. Preference」を選び、ENTERボタンを押す

プリファレンスセットアップメニューが表示されます。

3

▲/▼ボタンを押して設定したい項目を選び、◀/▶ボタンで選択する

4

SETUPボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

本体のSETUPボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、ENTERボタンでも操作することができます。

ご注意

「a. Maximum Volume」、「b. Power On Volume」は、スピーカーの音量調整をした場合に、最大値が変わることがあります。

ボリューム設定

a. Maximum Volume

音量が大きくなり過ぎないように、音量の最大出力レベルを設定することができます。50〜99の範囲内で設定できます。

設定しないときは「Off」を選びます。

b. Power On Volume

本機の電源を入れたときの音量を一定に設定しておくことができます。
Min･1･2…50の範囲内で設定できます。
本機をスタンバイ状態にする前の音量をそのまま残したい場合は「Last」を選びます。

OSDの設定

c. Immediate Display

本機を操作したときに、操作内容を画面に表示するかどうかを設定します。（COMPONENT VIDEO OUT端子に接続したモニターに映像が出力されているときは、NormalまたはWideにしても操作内容は表示されません。）

Normal：ご使用のテレビが4：3のとき選択します。
Wide：ご使用のテレビが16：9のとき選択します。
Off：表示しません。

d. Scan Mode

本機との相性によって接続したテレビなどのモニターの画面がちらつく場合は「Non-Interlaced」に設定します。

Inerlaced：お買い上げ時の設定です。
Non-Inerlaced：画面のちらつきが気になる場合に選びます。

ご注意

テレビなどのモニターによっては、「Non-Interlaced」にすると設定画面が表示されなくなる場合があります。その場合は、本機の表示部を見ながら同じ手順で設定を「Interlaced」に戻してください。

本機のリモコンコードを変更する

e. Remote ID

オンキヨー製品が同じ部屋に複数ある場合、リモコンの操作コードが重複してしまうことがあります。
他のオンキヨー製品と区別をつけるために、リモコンコードを変更することができます。
お買い上げ時は、本体、リモコンともに「1」に設定されています。

ご注意

リモコン側も本体と同じリモコンコードに設定する必要があります。（☞65ページ）

デジタル入力信号の設定

デジタル入力端子が設定されていない入力ソースの場合は設定できません（Analogと表示されます）。（☞39ページ）
DTSやPCM信号の再生中にノイズや曲間の頭切れが気になる場合は、設定することをおすすめします。デジタル入力をDTSまたはPCMに固定することができます。

1. 入力切換ボタンを押して、設定したい「入力」を選ぶ

2. DIGITAL INPUTボタンを3秒以上押し続ける

表示部に現在の設定が表示されます。
例：

DVD:Auto(OPT1)

3.「Auto」表示中にDIGITAL INPUTボタンを（くり返し）押して、デジタル入力信号を設定する

Auto：デジタル信号が入力されていないときは、アナログ信号を再生します。

PCM：AutoでCDなどのPCMの曲間で頭切れが気になる場合に選択してください。PCM以外の音声が入力されても音は出ません。

DTS：AutoでDTS-CDを再生するとき、DTS信号を識別して読み取る間や、CDの早送り、早戻しをするときのノイズが気になる場合に選択してください。DTS以外の音声が入力されても音は出ません。

ご注意

DTS対応のCDやLDを再生するときは、必ず「Auto」または「DTS」を選択してください。「PCM」を選択すると、ノイズが出力されます。

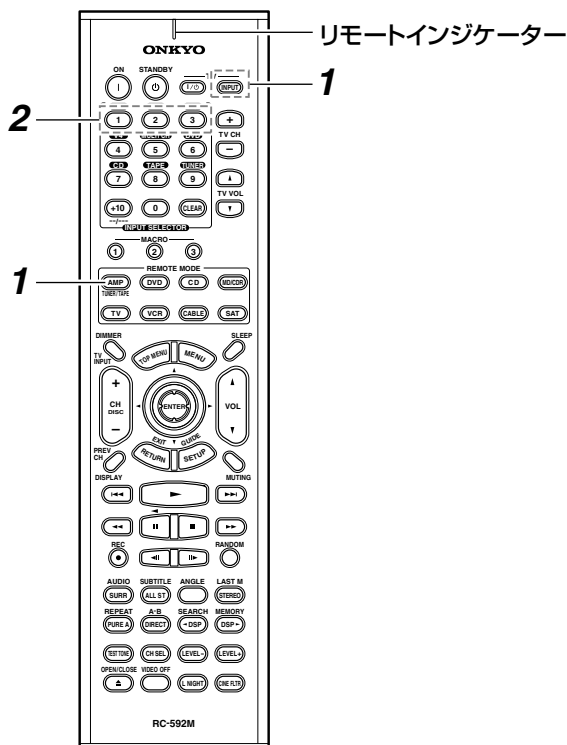
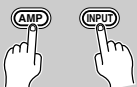
設定の操作方法については、63ページをご覧ください。

リモコンのリモコンコードを変更する

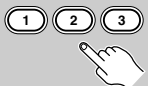
オンキヨー製品が同じ部屋に複数ある場合、リモコンの操作コードが重複してしまうことがあります。
他のオンキヨー製品と区別をつけるためにリモコンコードを変更することができます。

ご注意

本体側もリモコンと同じリモコンコードに設定する必要があります。（☞64ページ）お買い上げ時は本体、リモコンともに「1」に設定されています。

1

AMP（アンプ）ボタンを押しながら、TV INPUT（インプット）ボタンを押す

約4秒間、リモートインジケーターが点滅します。

2

点滅後、設定したいコードの数字ボタンを押す

1～3から選べます。

接続した製品を本機のリモコンで操作する

本機に付属のリモコン（RC-592M）で、他社の製品を操作したり、連続した操作を学習させることができます。操作するには、次の3つの方法があります。

- **他機（DVD、テレビ、ビデオなど）のリモコンコードを登録する**
- **他機のリモコンから指定した操作を学習させる**
- **マクロ機能を使って連続した操作を学習させる**

リモコンコードを登録する

他機のリモコンコードを本機リモコンの「REMOTE MODEボタン」に登録すると、本機のリモコンで他機を操作することができます。
リモコンコード表は、67ページをご覧ください。
「DVD」、「TV」、「CABLE」、「VCR」、「SAT」には、それぞれのカテゴリーから選んだリモコンコードが登録できます。
「CD」、「MD/CDR」には、どのカテゴリーのコードでも登録することができます。「AMP」には登録できません。

オンキヨー製DVDプレーヤーのコードを登録するときは…
2種類のコード番号があります。使用方法に応じて選択してください。

5001：オーディオ用ピンコードとRIケーブルの両方を接続している場合に使用します。（お買い上げ時の設定）

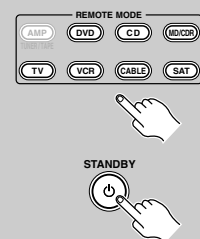
5002：接続しているDVDプレーヤーにRI端子がついていない、またはRIケーブルを接続していない場合に使用します。

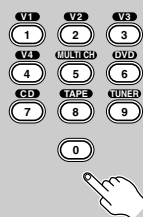
MD/CDRボタンを切り換えるには…
お買い上げ時の設定では、MD/CDRボタンはオンキヨー製MD操作用になっています。オンキヨー製CD-Rを操作するには変更してください。

6002：CDレコーダー用
6003：MDレコーダー用

1

登録する他機のメーカー別リモコンコード（4桁）を67ページのリモコンコード表で確かめる

2

登録したいREMOTE MODEボタンを押しながら、STANDBYボタンを押す

3

リモートインジケーターが点滅し終わってから30秒以内に、数字ボタンで4桁のリモコンコードを入力する

4

他機を操作する

登録した機器に向けて操作してください。

!ヒント

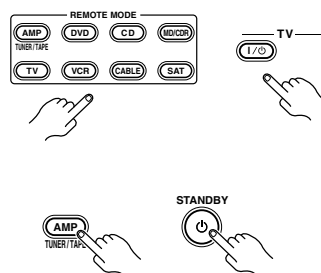
正しく動作しない場合は、もう一度リモコンコードを入力し直してください。複数のコードがある機器は、他のコードも試してください。

REMOTE MODEボタンのお買い上げ時の設定（初期設定）への戻しかた

1. お買い上げ時の設定に戻したいMODEボタンを押しながら、TV（I/⏻）ボタンを押します。
2. リモートインジケーターが点滅し終わってから、もう一度そのMODEボタンを押すと、お買い上げ時の設定に戻ります。

リモコンをお買い上げ時の設定に戻すには

お買い上げ時と同じ状態に戻すには、以下の操作をしてください。

1. AMPボタンを押しながら、STANDBYボタンを押します。
2. リモートインジケーターが点滅し終わってから、もう一度AMPボタンを押します。
   約10秒後にリモートインジケーターが点滅し終わったら、設定完了です。

リモコンコード表

複数のコード番号があるときは、1つずつ登録し、機器に合った方を選んでください。

DVD（DVDプレーヤー）

ブランド名	コード番号
アイワ	5010
インテグラ	5001, 5002
インテグラリサーチ	5001, 5002
Apex	5015, 5016
デノン	5017, 5020
日立	5009
日本ビクター（JVC）	5023
ケンウッド	5017
マグナボックス	5004, 5021
マランツ	5025, 5026
三菱	5005
オンキヨー	5001, 5002
パナソニック	5011, 5017, 5020
フィリップス	5004, 5021, 5028
パイオニア	5006
プロスキャン	5003
RCA	5003
サンヨー	5012
ソニー	5007, 5013, 5018, 5029
トムソン	5022, 5024
東芝	5008, 5021
ヤマハ	5020
Xbox	5022

SAT（衛星放送チューナー）

ブランド名	コード番号
日立	4036, 4037
日本ビクター(JVC)	4009, 4021
パナソニック	4006, 4031
フィリップス	4021, 4029
プロスキャン	4001, 4002
RCA	4001, 4002
サムスン	4017
ソニー	4005, 4031
トムソン	4024, 4025
東芝	4004

CBL（ケーブルテレビ）

ブランド名	コード番号
日立	3002
Magnavox	3014
NEC	3003
パナソニック	3020
フィリップス	3007, 3008, 3014
パイオニア	3017, 3024
プロスキャン	3001, 3002
RCA	3004, 3020, 3022
サムスン	3017

- 機器によっては、動作が異なる場合があります。
- 機器によっては、動作しない場合もあります。

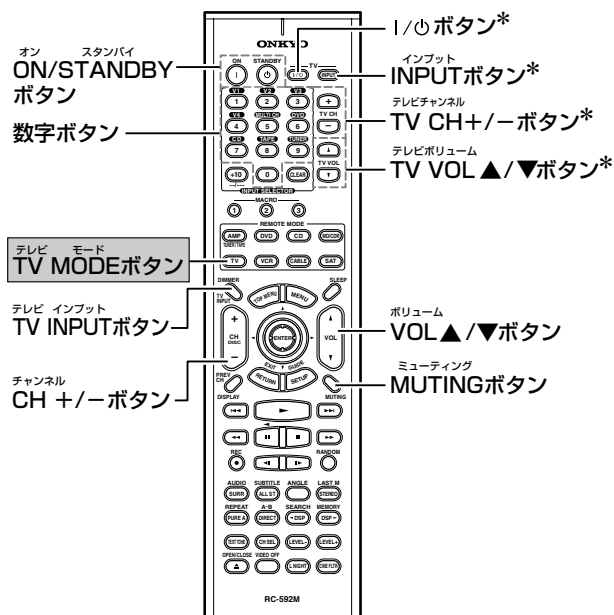
VCR（ビデオデッキ）

ブランド名	コード番号
アイワ	2012, 2046, 2047
フナイ	2012
日立	2013, 2021, 2025, 2028 2037, 2038, 2043
日本ビクター（JVC）	2005, 2006, 2007, 2009 2032, 2035, 2040, 2048
三菱	2013, 2022, 2032, 2034
NEC	2005, 2006, 2007, 2009 2032
Orion	2028, 2041, 2045, 2046 2047
パナソニック	2010, 2011, 2042
フィリップス	2010, 2014, 2017, 2034 2048
パイオニア	2006, 2013, 2032, 2034
サムスン	2008, 2043, 2049
サンヨー	2007, 2008, 2030, 2036
シャープ	2016, 2017, 2031
ソニー	2004, 2018, 2024
東芝	2013, 2015, 2022, 2034 2048

TV（テレビ）

ブランド名	コード番号
富士通ゼネラル	1070
フナイ	1009, 1045, 1048, 1070
日立	1004, 1006, 1007, 1013 1027, 1038, 1062, 1063 1069
日本ビクター（JVC）	1007, 1012, 1013, 1015 1033
三菱	1004, 1005, 1006, 1008 1040, 1055, 1058
NEC	1003, 1004, 1005,1006
Orion	1029, 1043, 1048, 1049 1050, 1067, 1068
パナソニック	1003, 1012, 1014, 1031 1044, 1046, 1051, 1061 1062, 1069
フィリップス	1003, 1004, 1007, 1008 1014, 1018, 1019, 1020 1037, 1038, 1040, 1053 1059, 1060
パイオニア	1004, 1006, 1027, 1062
サムスン	1004, 1005, 1006,1007 1008, 1022, 1025, 1035 1045, 1047, 1052, 1056 1060, 1063, 1065
サンヨー	1004, 1010, 1017
シャープ	1004, 1006, 1007, 1021 1023, 1025, 1026
ソニー	1002, 1030, 1032, 1036 1054
トムソン	1066
東芝	1010, 1016, 1017, 1022 1024, 1039

接続した製品を本機のリモコンで操作する

テレビを操作する

1. TV MODEボタンを押す
   または、テレビを登録したリモコンモードボタンを押す

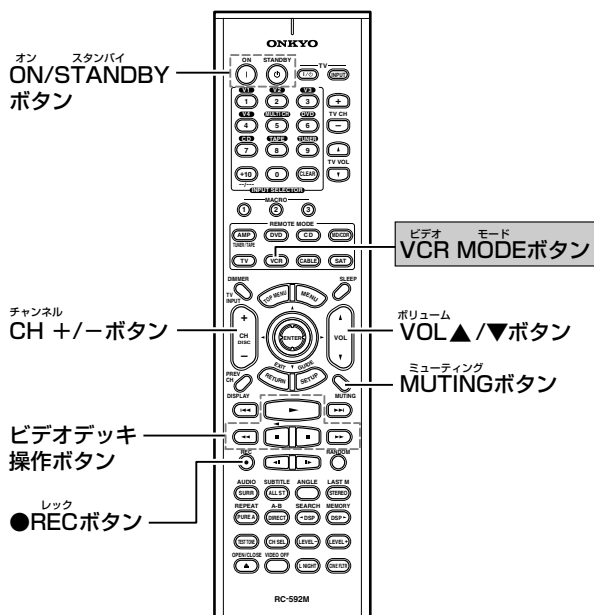
2. 各操作ボタンを押す

操作ボタン（リモコンコード記憶後）

ON/STANDBY	：テレビの電源ON/OFF
TV INPUT	：テレビの入力切換
0,1～9	：数字ボタン
VOL ▲/▼	：テレビの音量調整
MUTING	：テレビのミューティング
CH +/−	：チャンネル選択

＊のついたボタンは、どのリモコンモードのときでもテレビを操作できます。

TV VOL ▲/▼	：テレビの音量調整
TV CH +/−	：チャンネル選択
I/⏻	：テレビの電源ON/OFF
INPUT	：テレビの入力切換

ビデオデッキを操作する

1. VCR MODEボタンを押す
   または、ビデオデッキを登録したリモコンモードボタンを押す

2. 各操作ボタンを押す
   ON/STANDBY：ビデオデッキの電源ON/OFF

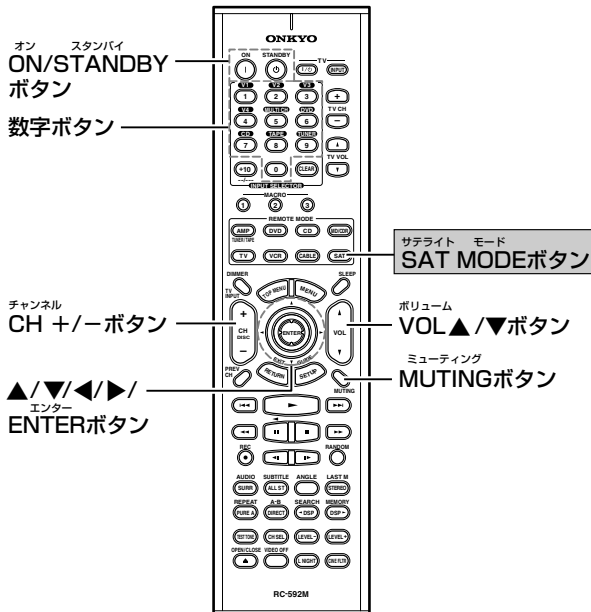
操作ボタン（リモコンコード記憶後）

CH +/−	：プリセット局の選局
▶	：再生
■	：停止
◀◀	：巻戻し
▶▶	：早送り
❚❚	：一時停止
●REC	：録音

下記のボタンも操作することができます。

VOL ▲/▼	：本機の音量調整
MUTING	：本機のミューティング

BSチューナーを操作する

ご注意

リモコン送信部をBSチューナーのリモコン受光部に向けて操作してください。

1. SAT MODEボタンを押す

または、BSチューナーを登録したリモコンモードボタンを押す

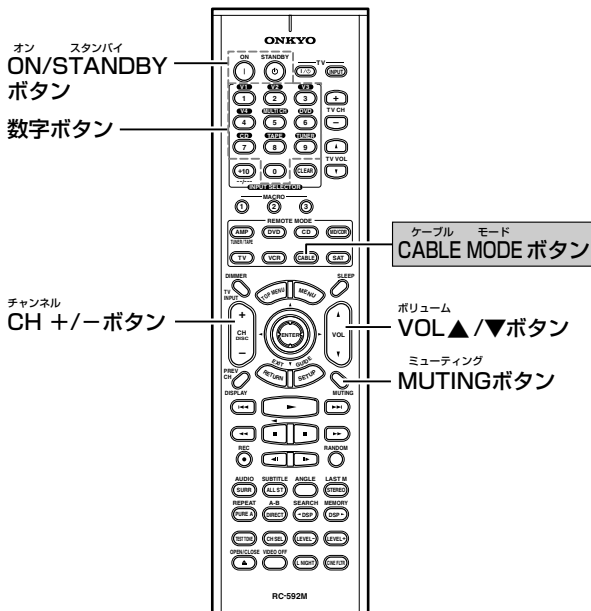
2. 各操作ボタンを押す

操作ボタン（リモコンコード記憶後）

ON/STANDBY	：BSチューナーの電源ON/OFF
CH +/－	：プリセット局の選局
▲▼◀ ▶	：カーソル移動
ENTER	：決定
0、1～9	：数字ボタン

下記のボタンも操作することができます。

VOL ▲/▼	： 本機の音量調整
MUTING	： 本機のミューティング

ケーブルテレビを操作する

1. CABLE MODEボタンを押す

または、ケーブルテレビを登録したリモコンモードボタンを押す

2. 各操作ボタンを押す

操作ボタン（リモコンコード記憶後）

ON/STANDBY	：ケーブルテレビの電源ON/OFF
CH +/－	： プリセットチャンネルの選局
0,1～9	： 数字ボタン

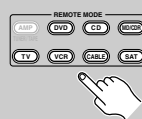
下記のボタンも操作することができます。

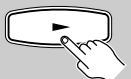
VOL ▲/▼	： 本機の音量調整
MUTING	： 本機のミューティング

他機のリモコンから指定した操作を学習させる

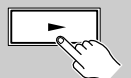
他機のリモコンの操作を１つずつ転送し、本機のリモコンに学習させることができます。
66ページでリモコンコードを登録した後で、不足している操作や追加したい操作を1つずつ学習させると便利です。

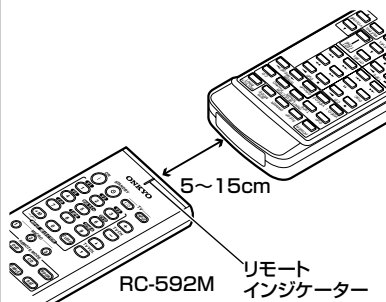
たとえば、他機のCDプレーヤーのリモコンから再生機能を転送し、本機リモコンのCDモードの再生ボタンに学習させることができます。

1

学習させたいREMOTE MODE（リモート モード）ボタンを押しながら、ON（オン）ボタンを押す

2

RC-592Mの学習させたい操作ボタンを押す

REMOTE MODE（リモート モード）ボタン、Macro（マクロ） 1～3ボタン、TV I/⏻、Input（インプット）、TV CH+/−、TV VOL▲/▼ボタン以外のボタンから選んでください。

3

学習させる他機のリモコンボタンを押す

他機のリモコンと本機のリモコン（RC-592M）を5cm～15cm離して置き、他機のリモコンボタンを本機のリモコンに向かって押し続けます。

正しく学習できるとリモートインジケーターが点滅します。

4

別の操作ボタンを学習する場合は、手順*2*、*3*をくり返す

5

学習を終了する場合は、手順*1*で選んだREMOTE MODEボタンを押す

ご注意

- 本機のリモコンは、基本的に150個の操作を学習できます。他機のリモコンによっては、ひとつのボタンで多くのエリアを使用する場合があります。その場合は学習できるエリアは150個より少なくなります。
- 本機のリモコンは、オンキヨー製ＣＤプレーヤー、テープデッキ、ＤＶＤプレーヤー、ＭＤレコーダー、ＣＤレコーダーのコードをすでに記憶しています。これらのボタンに他のコードを記憶させることもできます（66ページ）が、リセットすると元のコードに戻ります。
- コードが登録されているボタンに、新しいコードを上書きして記憶する時も同じ手順で操作します。
- 本機のリモコンはほとんどのリモコンと同様に赤外線を利用しています。しかし、リモコンによっては、転送システムの違いによってコードを転送できないものがあります。
- 電池切れなどの理由でリモコンコードが消えてしまった場合のために、他機のリモコンは大切に保管しておいてください。

マクロ機能を使って連続した操作を学習させる

マクロ機能とは

連続した操作を1つのボタンに学習させることができます。たとえば、リモコンを使って本機に接続したCDプレーヤーを再生するには以下のようなボタン操作が必要となります。

1. **REMOTE（リモート） MODE（モード）ボタンのAMP（アンプ）ボタンを押す**
   リモコンをアンプモードにします。
2. **ON（オン）ボタンを押す**
   本機の電源を入れます。
3. **INPUT（インプット） SELECTOR（セレクター）ボタンのCDボタンを押す**
   本機の入力をCDに切り換えます。
4. **REMOTE MODEボタンのCDボタンを押す**
   リモコンをCDモードにします。
5. **▶（プレイ）ボタンを押す**
   CDプレーヤーを再生します。

これらの操作を下記の手順でマクロ学習させると、1つのボタンで操作することができます。

マクロを学習させる

MACRO（マクロ）1～3ボタンにそれぞれマクロを学習させることができます。1つのマクロに対して8つまでの操作が学習できます。

1

一番初めに学習させる操作のREMOTE MODEボタンを押しながら、MACRO（マクロ） 1（または2、3）ボタンを押す

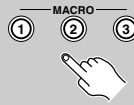
リモートインジケーターが点灯します。

2

記憶させたい操作ボタンを操作順に連続して押す

例：

REMOTE MODEボタンのAMPボタンを押す
↓
ONボタンを押す
↓
INPUT SELECTORボタンのCDボタンを押す
↓
REMOTE MODEボタンのCDボタンを押す
↓
▶（プレイ）ボタンを押す

3

MACROボタンを押す

学習が完了します。

- 8つ目の操作を学習するとリモートインジケーターが点滅し、自動的に学習を完了します。8つよりも少ない操作を学習させるときは、最後にMACROボタンを押します。

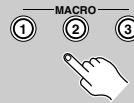
ご注意

- マクロを学習させた後、そこに含まれるボタンに他の操作を上書き学習させると、誤動作の原因になります。再度マクロ学習を行ってください。
- 9つ以上の操作を学習させることはできません。

- どのMACROボタンに何の操作を学習させたかをメモしておくことをおすすめします。

操作	マクロ1	マクロ2	マクロ3
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			

マクロを実行する

1

操作したいMACROボタンを押す

操作を学習させたMACROボタンが使用できます。

困ったときは

まず下記の内容を点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。
●文章の最後にある数字は参照ページです。

電源

電源が入らない

- 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。
- 一度電源プラグをコンセントから抜き、5秒以上待ってから再度コンセントに差し込んでください。

電源が切れ、再度電源を入れてもまた切れる

- 保護回路が働いている可能性があります。電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店またはオンキヨー修理窓口にご連絡ください。

音声

音声が出力されない/小さい

- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の入力端子/出力端子に間違いがないか確認してください。
- スピーカーコードの+/−は正しく接続されているか、スピーカーコードの芯線部分が本機のスピーカー端子の金属部に触れているか確認してください。
- 入力が正しく選択できているか確認してください。**(48)**
- ボリューム位置を確認してください。本機は基本的にMin･1･2…99まで調整できます。一般のご家庭では50前後までボリュームを上げても正常な範囲です。
- 表示部に“MUTING”と表示されている場合はリモコンのMUTINGボタンを押して解除してください。**(49)**
- ヘッドホンが接続されているとスピーカーからの音声が出力されません。**(49)**
- 接続した機器でのデジタル音声出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定がOFFになっていることがあります。
- デジタル入力端子の設定を正しく行ってください。**(39)**
- フォノイコライザーを内蔵していないレコードプレーヤーは、フォノイコライザーを経由して接続してください。
- MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをお使いの場合は、昇圧トランスまたはヘッドアンプが必要です。
- ケーブルが折れ曲がったり損傷していないか確認してください。
- リスニングモードによっては音声の出力されないスピーカーがあります。**(52、53)**
- スピーカーの距離、音量設定を行ってください。**(44、45)**

フロントスピーカーからしか音が出ない

- リスニングモードが「Stereo」､「Mono」になっているとフロントスピーカーとサブウーファーからしか音が出ません。**(52)**
- 入力信号が2チャンネルのとき、リスニングモードが「Direct」､「Pure Audio」になっているとフロントスピーカーからしか音が出ません。**(52)**
- スピーカーの設定をしてください。**(42)**

センタースピーカーからしか音が出ない

- TVやAM放送などモノラル音源を再生するときにリスニングモードをPL IIx MOVIEまたはPL IIx MUSICにするとセンタースピーカーに音が集中します。違和感を感じるときは、他のリスニングモードを選んでください。
- スピーカーの設定をしてください。**(42)**

サラウンドスピーカーから音が出ない

- リスニングモードが「Stereo」､「Mono」のときはサラウンドスピーカーから音が出ません。**(52)**
- 入力信号が2チャンネルのとき、リスニングモードが「Direct」､「Pure Audio」になっているとフロントスピーカーからしか音が出ません。**(52)**
- 再生するソースやリスニングモードによっては、音が出にくい場合があります。違和感を感じるときは、他のリスニングモードを選んでください。
- スピーカーの設定をしてください。**(42)**

センタースピーカーから音が出ない

- リスニングモードが「Stereo」､「Mono」のときはセンタースピーカーから音が出ません。**(52)**
- 入力信号が2チャンネルのとき、リスニングモードが「Direct」､「Pure Audio」になっているとフロントスピーカーからしか音が出ません。**(52)**
- スピーカーの設定をしてください。**(42)**

サラウンドバックスピーカーから音が出ない

- リスニングモードによってはサラウンドバックスピーカーから音が出ません。サラウンドバックスピーカーから出力されるリスニングモードを選択してください。**(52、53)**
- 再生するソースによっては音が出にくい場合があります。
- スピーカーの設定をしてください。**(42)**

サブウーファーから音が出ない

- サブウーファー音声要素（LFE）の入っていないソフトを再生している場合は、サブウーファーから音が出ないことがあります。
- スピーカーの設定をしてください。（42）

希望する信号フォーマットで音声出力ができない

- 接続した機器でのデジタル出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定がOFFになっていることがあります。
- 入力される信号によっては選択できないリスニングモードがあります。（51）

希望するリスニングモードが選べない

- スピーカーの接続状況によっては選択できないリスニングモードがあります。「入力信号の種類と対応するリスニングモード」でご確認ください。（51）

音量調整が99以下で終わる

- 付属のマイクで簡単スピーカー設定をした場合や、設定画面を使ってスピーカーの音量調整をした場合は、音量最大値が変わることがあります。

ノイズが出る

- オーディオ用ピンコードと電源コードなどを束ねると音質が劣化しますので避けてください。
- 接続コードが影響を受けている可能性がありますので、接続コードの位置を動かしてみてください。

レイトナイト機能が働かない

- 再生ソースがドルビーデジタルか確認してください。（54）

マルチチャンネル音声が出力されない

- マルチチャンネル対応のDVDプレーヤーを使用しているか確認してください。
- DVDプレーヤーの接続と設定を確認してください。
- 入力切換のMULTI CHボタンを押して音声信号の種類を「MULTICH」にしてください。（55）

DTS信号について

- DTS信号を再生しているときは、本機のDTSインジケーターが点灯します。プレーヤー側での一時停止やスキップ操作時に発生するノイズを防ぐため、再生が終了してもDTSインジケーターが点灯したままになります。このため、DTS信号から急にPCM信号に切り換わるタイプのソフトは、PCMがすぐに再生されない場合があります。このときはプレーヤー側で再生を約3秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。
- 一部のCDまたはLDプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しくDTS再生ができない場合があります。出力されているDTS信号に何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機が正しいDTS信号とみなすことができず、ノイズを発生することがあります。
- DTS対応ディスクを再生しているときにプレーヤー側でポーズやスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

映像

映像が出ない/乱れる

- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の映像出力端子と本機の接続に間違いがないか確認してください。
- 映像機器と本機をD端子接続している場合は、本機とテレビもD端子またはコンポーネント接続をしてください。（21）
- 映像機器と本機をCOMPONENT端子接続している場合は、本機とテレビもコンポーネントまたはD端子接続をしてください。（21）
- TVなど、モニター側での入力画面の切り換えを確認してください。
- リスニングモードが「Pure Audio」になっていると映像は出ません。
- 40ページの設定により、VIDEO端子やS VIDEO端子に接続した機器の映像をD端子やコンポーネント端子で接続したTVなどのモニターに変換することができますが、ビデオデッキなど映像機器の信号に乱れが多い場合は、テレビで映像が乱れたり映像を表示しなくなる場合があります。この場合はD端子やコンポーネント端子で接続したTVなどのモニターに変換せず、VIDEOまたはS VIDEO端子で接続してください。

OSD画面表示が出ない

- 映像出力端子の設定を行ってください。（40）
- ご使用のテレビなどのモニター側の設定を確認してください。
- 「Preference」の「d. Scan Mode」を「Non-Interlaced」にした場合は、設定画面が表示されなくなる場合があります。本機の表示部を見ながら「Interlaced」に設定してください。（64）

困ったときは

リモコン

リモコン操作ができない

- 電池の極性（＋/−）が正しく入っているか確認してください。
- 電池を3本とも新しいものと交換してみてください。
- リモコンと本体の間が離れすぎていないか、リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がないかを確認してください。
- 本体のリモコン受光部に強い光（インバーター蛍光灯や直射日光）が当たっているとリモコン操作ができない場合があります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスが使用されていると正常に機能しない場合があります。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。（12）
- 他社製品の仕様により、記憶しているリモコンコードでは、一部の操作が働かない場合があります。
- 本機とリモコンコードが合っているか確認してください。（64、65）
- オンキヨー製他機器を操作するときは、リモコンを本機に向けて操作してください。
- 他メーカー機器を操作するときは、リモコンをそれぞれの機器に向けて操作してください。

リモコンの学習操作ができない

- リモコン送信部が正しく向き合っていることを確認してください。
- 学習できないリモコンを学習させようとしていませんか？コードを転送できないもの、1つのボタンで複数の指示を出すリモコンは学習できないことがあります。

他機器の操作ができない

- オンキヨー製他機器とRIケーブル、オーディオ用ピンコードが正しく接続されているか確認してください。（RIケーブルだけでは連動しません。）
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。（12）

録音

録音ができない

- 録音機器側で、デジタルやアナログなどの録音入力切り換えが正しくできているか確認してください。

その他

多重音声の言語を切り換えたい

- 「Multiplex」で主音声/副音声を選択します。（60）

ヘッドホンを接続すると音が変わる/表示が消える

- 「Direct」、「Pure Audio」、「Mono」以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的にStereo出力になります。（49）

スピーカーの距離設定が希望通りにならない

- 設定する数値がホームシアターに適した数値に矯正されることがあります。

表示が出ない

- リスニングモードが「Pure Audio」になっていると表示が消えます。
- コンポーネント接続した機器の映像を出力しているときは、操作内容は表示されません。

音量に関する設定を希望通りの数字にできない

- 付属のマイクで簡単スピーカー設定をした場合や、設定画面を使ってスピーカーの音量調整をした場合は、設定できる音量最大値が変わることがあります。

メモリー保持について
本機には、メモリー保持用の予備電源装置が内蔵されています。これは、お客様が行ったスピーカーの設定や音響効果に関する設定などを停電時などに保護するためのものです。本機の電源プラグを抜いた状態でメモリーが保持できるのは約2週間です。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約5秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。

製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証対象になりません。
大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音･録画できることを確認の上、録音･録画を行ってください。

すべての内容をお買い上げ時の設定内容に戻すには
電源を入れた状態でVIDEO 1ボタンを押したままSTANDBY/ONボタンを押してください。
表示部に「CLEAR」が表示され、スタンバイ状態になります。

本機の電源コードをコンセントから抜くときは、本機をスタンバイ状態にしてから抜いてください。

用語集

音声フォーマット

サラウンド（Surround）
ドルビーデジタルやDSPの音声モードなどを用いた臨場感のある音の総称。

ドルビーデジタル（Dolby Digital）
ドルビー社によって開発されたデジタルマルチチャンネル音声規格。モノラルから5.1チャンネルまでに対応しています。プログラム間でセリフの平均レベルを一定に保つダイアログノーマライゼーション、視聴環境の制約に対応してダイナミックレンジを調整するダイナミックレンジ圧縮、スピーカーの数に合わせて出力チャンネル数を最適化するダウンミックスなど数々の機能が採り入れられています。DVD-Videoの標準音声、米国DTVの標準音声として採用されています。

ドルビーデジタルEX（Dolby Digital EX）
映画館の壁面に配置されるサラウンドチャンネルスピーカー、左右側面と背面の3つのセクション（左サラウンド、右サラウンド、バックサラウンド）に分割します。これによりサラウンドの空間表現力、定位感が高められ、360度の回転や頭上を通過するような移動音効果をよりリアルに体感できます。バックサラウンドチャンネルは左サラウンド、右サラウンドに振り分けることもできるため、通常の5.1チャンネルとして、既存のドルビーデジタル環境で再生することが可能です。

ドルビープロロジックII（Dolby Pro Logic II）
ドルビー社によって開発されたマトリックスタイプのサラウンドデコード技術。ステレオ音源を5.1チャンネルであるかのような立体音場で楽しむことができます。映画の再生に適した「Movie」モード、音楽再生に適した「Music」モード、ゲーム機などに適した「Game」モードがあります。

ドルビープロロジックIIx（Dolby Pro Logic IIx）
ドルビープロロジックIIをさらに改良したマトリックスデコード技術。ステレオ音源を7.1チャンネル再生するため、かってないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。映画の再生に適した「Movie」モード、音楽再生に適した「Music」モード、ゲーム機などに適した「Game」モードがあります。

DTSデジタルサラウンド（DTS Digital Surround）
米国のDTS社が開発したデジタルサラウンドフォーマット。コヒレントアコースティックス符号化と呼ばれる算法を使用し、圧縮率は通常4:1程度と比較的低くなっています。映画館ではフィルムにプリントされたタイムコードに同期してCD-ROMに記録された音声が再生されます。

DTS-ES エクステンディッドサラウンド (DTS-ES Extended Surround)
従来のDTS5.1chシステムにセンターバックサラウンド（CS）チャンネルを加えたもので、かつてない音像・定位感を再現します。DTS-ESには「DTS-ESディスクリート6.1ch」と「DTS-ESマトリックス6.1ch」の2種類があり、どちらも下位互換性を有しているため従来のDTS5.1ch対応機器での再生も可能です。

DTS-ES　ディスクリート (DTS-ES Discrete)
5.1チャンネル音声データに拡張データとしてセンターサラウンドチャンネル音声データを付加し、この方式に対応したDTSデジタルサラウンドデコーダーによって完全に独立した6.1チャンネル音声を再生するDTSシステム。

DTS-ES　マトリックス (DTS-ES Matrix)
映画館におけるDTS-ESと同様に、あらかじめ左右サラウンドチャンネルにマトリックスエンコードされたセンターバックサラウンドチャンネルを、マトリックスデコーダーを使って復元して6.1チャンネルとする方式のDTSシステム。マトリックスデコーダーとしてNeo:6に対応した機器を使用します。

DTS96/24
DTS96/24フォーマットソースに記録された拡張用データを使用して、5.1チャンネル再生するDTSシステム。サンプリング周波数96kHz、量子化ビット数24ビットの高音質で、きめ細やかな音声を再現します。

Neo:6
DTS社によって開発された、デジタル・アナログを含む全ての2チャンネルソースを6チャンネルサラウンドにするマトリックスデコード技術。映画に適した「Cinema」モードと音楽に適した「Music」モードが用意されています。また、DTS-ES マトリックスのセンターサラウンドチャンネル信号の抽出にも使用されます。

MPEG-2 AAC
AAC(Advanced Audio Coding)は、AT&T社、ドルビー社、フラウンホーファー・インスティテュート・フォー・インテグレーティド・サーキット（Fraunhofer IIS）、そしてソニー株式会社の4社の高品質マルチチャンネル音声符号化のための最先端技術を組み合わせたもので、ISOとIECの共同管轄の下に、MPEG-2規格の一部として規格化された音声圧縮符号化方式です。
従来のＭＰＥＧ音声との後方互換性がないので、従来のMPEG音声デコーダーでは再生できません。わが国のデジタルテレビ音声方式として採用されています。

用語集

音声

アナログ
一般的な再生機器に装備されているL/R（白/赤）音声出力端子からの音声を、アナログ音声と呼びます。

デジタル
デジタル端子は一般的に、CDプレーヤー、DVDプレーヤーなどに装備されています。
ドルビーデジタルやDTSなどのデジタル音声を聴くときやデジタル録音するときは、デジタル端子と接続しておく必要があります。

光（OPTICAL）デジタル
DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号で光ケーブルを使用して接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器にOPTICAL端子がある場合に使用できます。
音質は同軸デジタルと同等です。

同軸（COAXIAL）デジタル
DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号でＲＣＡタイプのピンコードを用いて接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器にCOAXIAL端子がある場合に使用できます。
音質は光デジタルと同等です。

サンプリング周波数
アナログ信号をデジタル信号に変換する時の精度。44.1ｋHzは1秒間に44100回、96ｋHzは1秒間に96000回アナログ信号を読みとってデジタルに変換します。

ダイナミックレンジ
信号を正しく変換する最大のレベルと、雑音等機器の性質で制限させる最小レベルの差。

LFE（Low Frequency Effect）
ドルビーデジタルやDTSの低周波数効果音のこと。
一般にディスクなどの信号に入っているとサブウーファーが効果的に働きます。

5.1chサラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー1つ、フロントスピーカー2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー2つで5ch（チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が10分の1のため、この6本のスピーカーを使って再生することを5.1chサラウンドと言います。

7.1chサラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー1つ、フロントスピーカー2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー2つ、真後ろに設置するサラウンドバックスピーカー2つで7ch（7チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が10分の1のため、この8本のスピーカーを使って再生することを7.1chサラウンドと言います。

映像

コンポジット
映像の入出力を行う標準的な信号。テレビやビデオデッキには赤・白・黄の丸い端子が装備されていますが、その黄色端子が映像を意味します。コンポジット信号を入出力するには黄色のピンコードを使用します。

Ｓビデオ
輝度信号（Y信号）と色信号（C信号）、同期信号などを複合した形で扱う信号。
コンポジット信号より良い映像を楽しめます。接続にはＳビデオコードを使用します。テレビにＳ端子がある場合使えます。

コンポーネント
輝度信号（Y信号）と色信号（C信号）を2つに分けた色差信号をそれぞれ独立して扱う信号。
Ｓ信号よりも良い映像を楽しめます。接続には専用のコンポーネントケーブルを使用します。テレビにコンポーネント端子がある場合使えます。画質はSビデオより良く、D端子と同レベルです。

D端子
ケーブル1本で簡単にコンポーネント接続でき、より高品位な映像が楽しめます。テレビにD端子がある場合使えます。
D1～D4までの解像度のランクがあり、D4がもっとも高画質です。画質はSビデオより良く、コンポーネントと同レベルです。映像機器のアスペクト比など、制御信号を送ることができます。

主な仕様

アンプ部

定格出力
全チャンネル
90W（8Ω, 20Hz～20kHz,全高調波歪率0.08%以下, 2ch駆動時）
115W(6Ω,1kHz,全高調波歪率0.1%以下, 2ch駆動時）

実用最大出力
全チャンネル
155W（6Ω JEITA, 2ch駆動時）

全高調波歪率
0.08%（1kHz 定格出力時）

ダンピングファクター
60（フロント, 8Ω）

入力感度/インピーダンス
200mV/47kΩ（LINE）

出力電圧/インピーダンス
200mV/470Ω（REC OUT）

周波数特性
10Hz～100kHz/＋1dB－3dB（DIRECT MODE）

トーンコントロール最大変化量
＋10dB, －10dB, 50Hz（BASS）
＋10dB, －10dB, 20kHz（TREBLE）

SN比
106dB（LINE IHF-A）

スピーカー適応インピーダンス
4Ω～16Ω

映像部

入力感度・出力電圧/インピーダンス
1Vp-p/75Ω（Y）
0.7Vp-p/75Ω（CR, CB）
0.28Vp-p/75Ω（C）
1Vp-p/75Ω（コンポジット）

コンポーネント映像周波数特性
5Hz～50MHz

総合

電源・電圧
AC100 V, 50/60Hz

消費電力
450W

待機時電力
0.1W

最大外形寸法
幅435×高さ174×奥行き377mm

質量
11.8kg

映像入力
D4　1,2,3
コンポーネント　1,2,3
Sビデオ　DVD, VIDEO1, VIDEO2, VIDEO3, VIDEO4
コンポジット　DVD, VIDEO1, VIDEO2, VIDEO3, VIDEO4

映像出力
D4　OUT
コンポーネント　OUT
Sビデオ　MONITOR OUT, VIDEO1, VIDEO2
コンポジット　MONITOR OUT, VIDEO1, VIDEO2

音声入力
デジタル　4（光）、2（同軸）
アナログ　DVD, VIDEO1, VIDEO2,VIDEO3, VIDEO4, TAPE, TUNER, CD
マルチチャンネル 5.1

音声出力
デジタル　1（光）
アナログ　TAPE,VIDEO1,VIDEO2
マルチチャンネルプリ出力　7.1
スピーカー出力　7
ヘッドホン出力　1

※仕様および外観は予告なく変更することがあります。

高周波抑制規格 JIS C61000-3-2 適合品

修理について

■保証書
この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは
意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

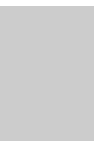
修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お名前
- ▶ お電話番号
- ▶ ご住所
- ▶ 製品名　TX-SA603
- ▶ できるだけ詳しい故障状況

■オンキヨー修理窓口について
詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■保証期間中の修理は
万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は
お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について
本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　　年　　月　　日

ご購入店名：

Tel.　　　(　　)

メモ：

ONKYO®

オンキヨー株式会社

本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

ONKYO HOMEPAGE
http://www.jp.onkyo.com/

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：カスタマーセンター
ナビダイヤル ☎ 0570(01)8111（全国どこからでも市内通話料金で通話いただけます）
または ☎ 072(831)8111（携帯電話、PHSから）

G0504-1

SN 29343952